
侵略の使い魔 ～ゼロのコマンダー・イン・チーフ～

がろうでん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

侵略の使い魔 〱ゼロのコマンダー・イン・チーフ〱

【Nコード】

N3405T

【作者名】

がろうでん

【あらすじ】

この物語は、ゼロ魔の貴族身分社会を崩壊させ、なお且つ他の大陸を日本の領有化とゼロ魔惑星世界の日本超大国しようとするオリ主による原作破壊のお話です。貴族大好きな方、日本最強が嫌いな方は、ご遠慮願います。戦争以外は、貴族を地球へ放置します。又、オリ主はティファニアに召喚されチートです。

ヴァリヤークとの取引（前書き）

まずは、最強チート能力を与えられます。生まれる先は才人の親戚の兄貴！

1、ヴィットーリオ・セレヴァレが虚無に目覚めても母親のヴィットーリアはヴィットーリオを見捨てずに始祖の円鏡と炎のルビーも持って息子共々逃亡しダングルテールで新教徒となり身を潜ませたゼロ魔の世界に設定。

2、召喚主は、ティファニア。召喚時期は、ルイズによる才人召喚と同じ。年齢は、才人より6歳年上で親戚の兄貴。両者とも遠い親戚にシエスタの曾爺さん佐々木武雄がいる。

3、地球人でありながらドラゴンボールAFのスーパーサイヤ人5のザイコと同じ戦闘力と肉体（姿は地球人で変身時にプラチナ色に光る。気をコントロールでき戦闘力は0にもコントロールできる）、Z戦士・孫 悟空の技と地球世界各種武術格闘技と武侠世界の技に精通している

4、地球とハルケギニアを行き来できる能力・物資・人の往来も可能

5、IQ300 の天才頭脳

6、ティファニアとの契約時にルーンを4つとも持ち、第4のルーン設定は、「空間制御能力」「不死身能力」「自身の『記憶』にある『技』『呪文』『能力』を再現」

7、精神力無尽蔵。無限の財宝（地球世界では無理）、王の財宝をゲート・オブ・バビロン所持

8、無機物創造・生産工場や兵器などを作成可能、作成する物の外観と機能をイメージする事で作成可能クリエイト

ブックシェルフノウレツジ

10、機械仕掛けの神・・各種機動兵器や様々な機械の設計図・操作マニュアル。現実世界、創作世界を問わずほぼ全ての設計図・操作マニュアルを収納。取り出すときは王の財宝のように取り出す

11、地球ではゼロ魔の5系統魔法や精霊魔法、アイテムが無効化される。又、自身には半径500mの魔法無効化能力の設定。

(以上の11つを俺に設定して転生してくれ)

「よくばりじゃのう・・・足元みよってからに！わしがミスった地獄行きになることも知ってこんな贅沢な要求を！！！！ま、仕方ないわい。最後の11番目での地球では魔法が使えないのはあたりまえじゃがの」

（そうっすか！じゃあ11番目は、召喚・契約主が地球へ訪問しても使い魔の能力は使えないが、ルーンが消滅しないように！）

坊主は、ノートパソコンを取りだしてディスクを入れると「チートBOOK」を開いてコードを入力した。

「ま！いいじゃろ！ディスクを入れて、コードを・・・カタ！カタ！カタ！カタ・・・！！！？！？？・・・カタ！カタ！カタ！できたー！！！！！！！！プログラム！ドライブ！！！！ほんじゃいってこーい！」

家は東京西部にありトウマの父親は、貿易商の取締役。来年には、父親の叔父方に赤ちゃんが誕生する予定。また、トウマの5歳下に妹がいる。

トウマは、裏山まで行って能力の確認をした。

・全身がプラチナ色に光り、スーパーサイヤ人5のザイコクラスまで戦闘力を上昇できることが可能。下手すれば地球2，3個分破壊できる。気のコントロールも可能。舞空術、気配の消し方、気配の見つけ方ができた。

・実家の裏山の地下に秘密基地を造り、スーパーロボット大戦OGの伊豆基地と同レベルの広さの基地を製造。その中の一室で人工重力装置1万Gの部屋を製造。

・ハルケギニアに行けた。ついた場所は、魔法学院の門前！2人の門番に見つかったが地球へ転移してバツくれた。あ！クソメイジの魔法を無効にする実験忘れていた！今度でいいや！

・王の財宝の使用可能状態を確認。

・知識の本棚と無機物創造で、地下基地の戦艦のドッグをOVA「トップをねらえ！」のエクセリオン等の全長10Kmクラスの戦艦16隻分確保。

宇宙戦艦エクセリオン 4隻

宇宙戦艦ヤマト 4隻

スーパーロボットOGシリーズ 戦艦ハガネ 4隻

機動戦士ガンダムSEED シリーズ 戦艦アークエンジェル
4隻

メガゼータ(MSZ-009M) 40機

Zガンダム 30機

武者ZZガンダム 30機

ゴッドガンダム 1機

ストライクフリーダムガンダム(ZGMF-X20A) 30機

グルンガスト(壱式) 40機

ゲシュペンストMk-III 50機

ヒュッケバインMk-III 50機

戦闘機 F-32Vシュヴェールト改 30機

「出来たー!!」
「腹減った!!」

トウマは、まだまだ造りたいのだが親分の機体や自分と同じ名前の

キャラが操る機体は、ハルケギニアで造ることにした。

「あとは、作業ロボットの作成だね！」

イメージは、スターウォーズシリーズの人型ドロイド！知識の本棚
ブックシェルフノウレッジ
で調べてと！無機物想像で作成完了50体！
クリエイト

どれも現在の地球にはない超兵器。こんなの官憲に見つかったら大騒ぎになるし、クソリカにイチャモンつけられる。今の政府にアメリカに逆らう勇気などありえん。

ドロイドには、地下基地のメンテナンス全般を20年後の日本政府関係者に引き渡すまで任せている方針。ドロイドには、警備能力はゼロ。だれでも行き来できる状態にしてある。でも基地内に入れるのはトウマのみいずれば、親戚のサイトをつれていく予定。

1年後、親戚にサイトが誕生した。あと4年になれば転生者としての宿命を思い出すのかな！

トウマは幼稚園や小学校から帰ってきたら、裏山の地下基地のトレーニング室で人工重力装置を10Gから馴らしながらはじめてトレーニングを続けるつもりだ！また、仮想マシンシュミレーション室で各機体の操り方をトレーニングしている。

転生！能力確認。なに！サイトも転生者か！（後書き）

オリ主の協力者としてサイトも転生者になりました。

一味違うサイト！情報によるとハルケギニアの平民サイドにも転生者

トウマは、11歳となり学校の成績も学年トップ、6歳から始めた空手と古武術の道場へ各道場週2の割合で通っている。そして正月は、平賀家の実家へあいさつまわりをした。各方面の親戚が集まってざわざわと会合やら開いたりしていた。そこで5歳のサイトに出会った。また、佐々木家から嫁入りのトウマとサイトの祖母がいた。

（あの佐々木武雄さんの関係者かな！）

「トウマ。サイトを見てやってね！」

「うん。わかった！」

「サイト、こっちで遊ぼう」

「うん」

トウマは、サイトを庭へと連れて行った。

（サイトから感じる”気”は、戦士の気だ！）

2人は、庭石に腰かけた。

「サイト、お前生まれ変わりって奴とか前世とかしんじるか？」

「兄ちゃんどうしたんだ?! いきなり何」

「ラノベでゼロの使い魔って小説に記憶にあるか？。この世界には、零の使い魔で、主人公は、サイタ、ルース、ギース、タブサ、キヨルケで名前は違うけど筋書きや社会背景が前世世界の「ゼロの使い魔」と同じなんだ」

「兄ちゃんも転生者か！俺は、シールズ出身でイラク戦争で戦死してあの世でヴァリヤーグって名乗る坊主の姿をした人から貴族社会を潰して我が末裔を助けてくれって言われた。俺は、チート能力を与えられた条件にゼロの使い魔の”平賀才人”になって貴族社会をぶっ潰すつもりだね」

「おまえは、原作の才人をどう思っているんだ？今のチート能力は、何だ？原作や二次作品をしっているのか？」

「前世じゃ”ゼロの使い魔”は、アニメ1期しか見てないね。結局は、原作の奴はゼロ戦壊れてハルケに残ったじゃん。それから、原作才人は、鍛錬もせずにノコノコとルイズと一緒にいるだろう！馬鹿じゃないと思うよ。それにハルケギニアの貴族中心社会を核で潰したいし……」

「核か……！！？核は使わないように！で、どんな能力を持っているんだ？」

転生 サイトの能力

・ドラゴンボールAF スーパーサイヤ人5孫 悟空クラスの戦闘力と肉体（姿は、地球人のままでプラチナ色に光る。気をコントロールできる）

・地球とハルケギニアを行き来できる

・半径200mの魔法無効化能力、マジックアイテムも無効。能力を自在に操ることができる。

・IQ300の天才頭脳

・契約時のルーンによる洗脳効果除去

「これだけだよ！トウマ兄ちゃんは、11個の願いなんてずるいよ」

「これは、あの世側のミスだ。当然多く見返りを要求するさ」

「兄ちゃんは、ティファニアに洗脳されてもいいの？」

「俺は、クソツンデレルイズはごめんだけど、ティファニアならいいね・・・」

「おっばい星人かよ！」

「いいじゃん！いいじゃん！おっばい星人で何が悪いんじゃ！ま！それよりサイトがどうやってどのタイミングでルイズからバツくれるかだね」

「ギーシュを殺したら兄ちゃん所へ逃げるつもりだよ。ギーシュは、確実に息の根を止めるよ！そのあとは、シエスタやマルトーさんにご挨拶して舞空術で兄ちゃん所へ合流しようかな！」

「ギーシュを殺すのか???!!!! できれば地球へ放置したほうがいいんじゃない! 放置! 命! ってな!」

「それに決闘後に生徒やら教師やら魔法攻撃仕掛けてきたら魔法を無効化させて地球へ転送、放置でいいんじゃない」

「我が国”法治”（ほうち）国家へ”放置”（ほうち）ってな!」

「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

「外したか!」

「クッダンね〜! でも兄ちゃん! 貴族・メイジサイドにもブリミル体制を破壊する工作員や仲間を造ったほうがいいね!」

「そうか! 候補としては、コルベール、フーケ、ジョゼフだね。後は、改変したヴィットーリオ・セレヴァレだ」

「あいつは教皇だろ! むしろブリミル体制のトップじゃん!」

「この物語世界の改変後は、ヴィットーリオ自身は平民のはずだ! 傭兵でもやっているのかな・・・・」

「兄ちゃんの願いで、ヴィットーリオの母が息子と始祖の円鏡と炎のルビーも持ってダングルテールへ逃げたんだね。やっぱり他にも転生者が関与しているのかな?」

「それは言えているかも! アニエスもこちら側に引き込めたいね。タルブ戦役でアルビオンの残党狩りで手柄を立てたからクソリエッ

タの飼い犬になったんだ。タルブ戦役がなかったら只の傭兵のままだ」

「それには、ティファニアに召喚・契約したならジョゼフに謁見して弟のシャルルをFFの召喚獣で生き返らせてシャルルの本音をジョゼフにぶちまけさせて仲直りをさせて、タバサの母親の毒をFF・DQの呪文とアイテムで無毒化と体力の回復させたほうがいいね。そしてシェフィールドと俺がクロムウェルからアンドバリの指輪を取り上げてレコンキスタの幹部を地球の海か戦場へ転移放置だ」

「うーんそこは、タイミングだね！そこは、”敵を知り己を知れば百戦危うからず”だね」

「そうだよ！さすが元シールズ！でも戦死しちゃったね」

「それをいっちゃ！おしまいだよ兄ちゃん」

「味方を多く造っておくことには、越したことがない！レコンキスタは、アルビオン王家を潰した後にアンドバリの指輪を回収して潰すべきだね。トリステインには、介入させないように。」

それと、アニエスとヴィットーリオ・セレヴァレの回収。コルベールとフーケの回収。ガリア王家の回収。……。あああああやる事が一杯じゃん！まずは、一つ一つずつだね。アニエスがクソリエッタの飼い犬になったらヴィットーリオだけでも回収しなきゃならんね」

「あ！！？？！頭痛いのはルイズ対策だよ。俺がトonzラして聖地で大陸召喚儀式するときまた鉢合わせしたらクソルイズの奴は、癩癩をおこすよ！でもあのクソと一緒に居たくないね」

「とんだ貧乏くじだ。でも！魔法は、無効できるし。俺たちの戦闘力でルイズの鞭などノミにすぎんよ」

「そうだね！どんと来い！コルベールとフーケの接触は、俺に任してくれ。ガリア王家を仲直りさせた後、ゲルマニアで貴族の位と領地買って、2人と交渉して破格の高給取りのオーナーに就任してもらうから！」

「サイト！俺んちの裏山の地下に秘密基地があるから幼稚園終わったら修練に來い。あのドラゴンボールの人工重力装置があるから。今の俺は6年で1万Gで修行しているんだぜ」

「じゃ幼稚園終わったら舞空術でひとつ飛びで行くよ！」

「おう！待っているぜ！」

長々と二人で召喚後のハルケギニアでの行動作戦を夕飯までに打ち合わせをするうちに家の奥から祖母が声をかけて来た。

「トウマちゃん！サイトちゃん！ごはんができたよ！」

「わかった！おばあちゃん！」

二人は、家に入っていた。

トウマ、後の日本国首相・桜木健一郎と出会う。そしてアメリカへ留学

トウマのチート能力の”無限の財宝”、金貨がザクザク出てくる能力である。地球では、お札であり番号が振ってあるので能力は、ハルケギニア世界限定である。実際に地球で1万円札束を出してみるとすべての番号が一緒だったのでゴミ袋に入れて捨てた。

トウマは高校生となり、家族に自分がハルケギニアと行き来できる能力とハルケギニアで金貨を製造・出力できる能力等を話した。話した時は、笑われたが舞空術、エネルギー波、サイコネシスを披露して家族をハルケギニアと地球とを往復できる能力があることを証明すると驚いていた。

おまけに裏山の秘密基地やその内部の戦艦やロボット等の機動兵器も家族に披露した。親父なんか宇宙戦艦ヤマトみてハイになっているよ！その世代なんだね

ハルケギニアで金貨1000枚以上を取りだして地球へ帰って帰り、父親の商社の伝手で金を交換すると1億以上の金額になった。

金99.999%の含有率を誇っていた。父親によるとこれから世界は政情不安になっているし戦争が起これば金が高騰するからいくら持ってきても下がることはないという。

トウマは、父親に高校を卒業したらアメリカへ政治・経済・経営学を学びたいと願い出た。

「アメリカか！大学は、父さんと親交があってアメリカ留学の経験

がある政治家の先生と同じ大学でいいだろう。大物になってこい！金はトウマから稼がせてもらった」

「うん！俺、高校卒業したらアメリカへ留学するよ」

「今度の日曜日にその知り合いの先生に会いに行くぞ！」

次の日曜日、トウマは父親に連れられてその政治家の邸宅へ訪れた。昔ながらの古風な屋敷で奥座敷へと通された。

「平賀！よく来てくれた。君が特殊な能力をもつトウマ君か！よろしく！私は、桜木健一郎だ！」

桜木は、父、トウマと順に握手をして床に着いた。

「私は、あと数年後に首相公選制で首相に候補する予定だ。今の我が国の借金は、もう破綻寸前だよ。実際のところ普通の政治家なら首相なんてやりたくない。しかし、トウマ君の金貨を製造する能力と未知の惑星世界への領有開拓が我が国を救うと確信しているよ」

2年前に憲法の67条1項と9条が改正され、首相公選制となり自衛隊が国防軍となった。歴史的な事件の「尖閣危機」である。それがきっかけで今回の歴史的イベント、憲法改正になったのだ。

「トウマ！お前もアメリカへ留学して経験を積んで来い。父さんも桜木も同じ大学で学んでそれぞれの道で成功したんだぞ！」

「私と君の父さんはアメリカの大学は、スタンフォード大学の経営学を学んでいた。平賀は、日本で会社を設立させ、私は卒業後ワシ

ントン・ポストで経済記者として10年位活躍した。そして34歳の時に帰国し、翌年政界入りを果たした。」

「父さんと桜木さんが勧めるのだったらスタンフォード大学の経営学を学びます。」

「よくいったなトウマ！アメリカで女遊びあまりするなよ」

「それは、おまえだろ平賀！」

「そっちこそプレイボーイだろ」

「「はっはっはっはっはっはっはっはっはっは！！！」」 「・・・・・・・・・・・・・・・・」

数日後、トウマとサイトは裏山の地下秘密基地で重力トレーニングが終わって、これからの将来のことを話しこんでいた。

「サイト、俺は高校卒業したらアメリカの大学へ留学するよ」

「兄ちゃんアメリカへ！！？」

「ああ、そうだ！アメリカだ！卒業したら親父の知り合いの政治家の元でスタッフとして働く予定だけどね。そうなりゃお前は、高校生か！」

「兄ちゃん、俺は国防大学付属高等工科学校へ入学するよ」

「おいおい！在学中にクソルイズに召喚拉致されるんだぜ！せめて普通の高校にしとけ！」

「ギーシュを地球のどこかの町に放置したら兄ちゃんが俺の待遇を軍上層部と話しを通してよ。拉致られたんだよ俺！それに軍の上層部、お偉いさんになるのが夢だったし」

「わかった！わかった！ギーシュ放置したら俺と一緒に学校へ戻れ！事前に話は、なんとか通してみるから。あ！そうだ召喚時に鏡が現れるだろ！ビデオ撮影か監視カメラで撮影しておけ。クソルイズに拉致られた証拠になるから」

「あと4年で高等工科大学へ入学するよ。それまでは鍛錬だね。」

トウマは高校卒業後、アメリカのスタンフォード大学経営学部へ入学した。

桜木健一郎首相当選！秘密基地、当局へ引き渡し

トウマはアメリカのスタンフォード大学で4年、経営学を学び卒業した。その間、異世界「ハルケギニア」に関する文献や地球各地の行方不明の民族等を調査した。

イギリスのケルト民族、韃靼民族・・・等、シュメール文明を起こしたシュメール人の別名が、ヴァリヤーグ人ともある。アーサー王伝説でハルケギニアらしき異世界に関する資料も調べた。

サン・ジェルマン伯爵もハルケギニアを行き来できる人物かもしれない。地球で錬金ができる！おそらく”ヴァリヤーグ”とチート能力を取引していたかもしれない。ヴァリヤーグ族の末裔「平民」「非メイジ」の奴隷解放の為に！サン・ジェルマン伯爵と秘密結社にも関連性があると思った。この時期の地球世界は、モンテスキューの法の精神やら近代化への目覚めが過熱している。

地球世界でルネッサンス運動が活発になったのは、バチカンに数々の”反キリスト教秘密組織”の工作員が内部に紛れ込み現在のバチカン市国まで追い込んでいた可能性がある。でもハルケギニアで6000年の間に反ブリミル組織が内部崩壊させないのは、モサド（イスラエル諜報特務局）クラスの如くガードが堅いのであろうか。あの組織は、裏切り者等の2重スパイがいなくて話だし。

だったらロマリアは、圧倒的軍事力で潰すのみ！俺が「魔王」「悪魔」と呼ばれてもいい！織田信長さえ既得権益の宗教勢力から「第六天魔王」と呼ばれていた。

トウマは、アメリカから帰って衆議院議員桜木健一郎の政策スタッ

フとして働いていた。来週は、日本初の首相公選制の選挙の日。トウマも事務仕事に追われていた。

桜木健一郎は、現在の大統領キャラダインがカリフォルニア州知事選の時に選挙活動のボランティアに参加したことがある。

キャラダインがカリフォルニア州知事選で窮地に陥った時、名演説を書き、一気に形勢逆転、当選に導いた事もあった。そういったこともあってキャラダインサイドからの応援要員が桜木健一郎の事務所でトウマと一緒に働いていた。トウマはアメリカ帰りで英語ペラペラだからだ。

親戚のサイトは、日本国防衛大学付属高校工科学校へトップ入学して幹部を目指しているとのこと。

選挙は、インターネットでも投票できるようにした。これは、アメリカからの年次改革要望書の一つである。

「年次改革要望書」・・・毎年にアメリカが日本に突き付ける政策要望書

簡単にいえばこの日本は、アメリカの属国である。しかし、このインターネット投票がアメリカからの従属から脱出する第一歩であることは、後世の歴史で語られていた。

選挙当日、トウマは他のスタッフ同様に作業に追われていた。

「ボスは、どこだ！」

「知らないよ！……たく！この忙しい時にまたブラブラと散歩・
……！」

スタッフが事務処理対応に追われている時、鯨井洋介さんが入ってきた。この人は、隻眼で、眼帯を着用し、健一郎とは調布のアメリカンスクールで知り合う仲でもあり。トウマの父親とも仕事関係でトウマ自身知り合った元外交官である。おまけに元S A S隊員である。

「健一郎は？」

「ボスはただいま留守です」

「トウマ君、健一郎が当選した時は君の実家の裏山にある地下秘密基地と超絶兵器の引き渡しを頼むよ！」

「はい、任せてください」

健一郎が事務所に帰ってきた。こんな時に映画かよボス！

深夜、日本全国の選挙結果！

桜木 健一郎 当選 !!!!!

「やった!!!!!!!!!!!!!! ボスが当選した!!!!!!!!!!!!!!」

「うおおおお!!!!!!!!!!!!!! 日本の幕開けだ!!!!!!!!!!!!!!」

「Ohhhhhhh!!!!!!!!!! BOSS!!!!!!!!!! サスガボスデスネ!!!!!!!!!!!!!!」

事務所は、喜びにわきあがっていた。押し寄せるマスコミ。当選を決めた桜木の不在にいらだつマスコミを応対するのは、モリス・谷口。選挙参謀でもあり、トウマの先輩でもある。

谷口はマスコミに説明を始める。

- ・桜木の支持層は、主に20〜30代であること。
- ・完全実施に踏み切ったインターネット投票、一週間に拡大された投票期間による高投票率。

- ・特に若者が投票率を押し上げた事。

前代未聞の出来事は、日本を変えるのだと。マスコミは矛先を収め

聞き入る。

選挙の応援に来ていたトウマの親父がトウマに

「これからの日本は、変わるぞ！お前も日本に力を貸してくれ」

「日本が最強だということを証明してやるよ」

桜木健一郎は、天皇陛下から首相任命式ではれて日本国総理大臣となった。また、それに伴いトウマの実家裏山秘密基地とロボット兵器は、すべて国防省の管轄となった。

秘密基地から地上へ戦艦・ロボット機動兵器のハッチは、ない。基地内部の転移プラズマ発生装置で異空間を造り兵器を透過して外に放出する仕組みだ。

火星の衛星フォボスのエイリアンもこの仕組みで1〜2km全長の宇宙船を出し入れしている。わざわざハッチを造って無駄なことをしなくてよい。空間転移方式を使った秘密基地である。

この瞬間、日本国は宇宙最強の国家になった。

召喚だよ！俺はラッキー！サイトはアンラッキー！

日本国に歴史的に残る人物が首相に当選した。その名は、桜木健一郎。トウマは、首相補佐官として健一郎のブレンとして首相官邸に働いていた。桜木健一郎は、政界に入った時は大政党に入っていたが、全国知事連合が立ち上げた政党へ鞍替えした。

組閣に関しては、半分以上がその政党の議員だが、あとのメンバーは大学教授や省庁内でも権力闘争とは無縁の人物が数人で上層部に建白書を提出し続けた人間達だ。健一郎は、上層部で握りつぶされていた建白書を省庁内にスパイを造り誰が書いているのか！その握りつぶされた建白書の書類を手に入れて議員時代に調査していた。

首相官邸

トウマは、桜木首相らチームスタッフにあと数ヵ月後に異世界へ召喚されることを説明した。健一郎とは長年の付き合いなので理解されているが他のスタッフには最初は馬鹿にされたが、舞空術、サイコキネシス、エネルギー弾を披露してから納得してもらった。

「みなさんわかってもらえましたでしか！我が国は、ハルケギニアを拠点にしてその惑星の無政府無人大陸の領有化こそ日本が超大国への道なんです」

「たしかに夢物語みたいな話だったけど、トウマ君の家の裏山の地下秘密基地やハルケギニアの存在、そこからもたらせられる金貨は、我が国をよみがえらせる起爆剤になる」

「お前って化物かよ・・・！チートすぎるね」

「俺は、召喚されたらず、ゲルマニアで爵位と土地を買って異世界ハルケギニアで橋頭保を造ります。そこへ日本から資材や人、軍を送り込みますね」

「そのハルケギニア以外の大陸領有化までは、各国やマスコミには内緒だ。特にアメリカには注意しないといけない」

「中国、ロシア等怖くないが、アメリカには注意しないと！」

「スパイ防止法案も可決して各省庁に逮捕者続出したことには、特に中国側へのスパイがね！驚いたね。ここまで我が国はスパイ天国だという事実には頭がいたいよ」

健一郎が首相になってからは、国家情報局（NINJA）を設置。モデルと規模は、イスラエルのモサドを参考にした。

「ゲルマニアで貴族の位をもらうのか！」零の使い魔”の世界そのモノだな」

「トウマ君はその世界へ召喚されるんだ」

「げ！まさかあのクソツンデレルスかよ！悲惨だね」

「いえ！俺はウェストウッド村のテイファです」

「なに！！！！！！！！お前うらやましすぎ！じゃあサイタは？」

「予定どうり親戚のサイトの事です。召喚主は、ルースですね。ちなみにサイトは、国防大学付属高等工科学校で3年生をやっていますね。俺たちは、地球とハルケギニアを行き来できる能力もあるしそのほかにも色々なチート能力があります」

「まずは、一段階としてはトウマはゲルマニアで貴族の爵位と土地を買うことだな。また、タルブ村の佐々木武雄氏の親族なども保護してもらいたい」

「了解です。ボス！」

「問題は、サイタならぬサイト君です。あいつギーシュを殺して他の魔法学院の教師・生徒を殺害するかも知れませんから。今度会いますからきつく言っときます」

「君の言うとおり貴族共は、放置でいいかもしれない。言葉、魔法、権力が通じない世界でどう生きるのか見ものだ。奴らが放置時に我が国で犯罪以上の行動を取ればすみやかに拘束して、ラストエンペラー溥儀の如く再教育しなくてはいけないな」

「そうですね。おごり高ぶるクソ共のカルチャーショックが見ものですよ」

ヴァリヤークから召喚される日と日時を連絡されたトウマ、サイトも同じように連絡があった。

市ヶ谷国防省 本部 さる一室

召喚時は、別々の部屋で待機して設置したカメラと機器で記録を取るという。桜木首相、トウマ、サイト、トウマの親父、サイトの親父、国防大臣

「サイト、よかったな。上層部が理解してくれて」

「これも兄ちゃんのおかげだよ。上の人間が何も知らなかったら逃亡罪で告訴しているよ！ほんとによかった」

「息子の面子が保てるよ！総理をはじめのみなさん！お手数をおかけします」

サイトの親父は、国防省の制服組でその幹部である。

「サイト君、魔法学院の平民達と仲良くなりなさい。また、君を殺そうとする連中は地球へ転移放置してもかまわないから、やむを得ない場合は正当防衛で殺傷もありだ」

「解りました。魔法学院で佐々木武雄大伯父さんの親族に接触します。そのあとは、学業に専念するために地球に帰還転移します」

「その件については、向こうへ行っている時でも授業は出席扱いにしているから」

「ありがとうございます、閣下」

「よかったなサイト」

「うん！兄ちゃんもがんばってくれ！いいな！兄ちゃんは、タイプ

アで！俺はあのクソツンデレだよ」

二人は、部屋を退出した。

「シエスタに接触するまでは、我慢しろ！これを渡しておく」

トウマは、サイトに一つの携帯電話型通信機を渡した。

「モットがシエスタを妾として連れて行くだろ！シエスタが連れて行かれた情報があったら俺に報告しろ。メールで入れろ。声を出して俺に連絡するとメイジキャラに妨害されるぜ。特にクソツンデレにな！」

「了解！シエスタ救出は兄ちゃんに任せるよ。でもシエスタは俺の者だからね」

「わかったよ！はっはっはっは！！」

トウマとサイトは、別々の用意された部屋に入った。横には、ビデオカメラが設置されている。

部屋に入って30分経ち各自の前に光に輝く鏡が現れた。

それに二人とも飛び込んでいった。

サイトは、国防軍陸上戦闘装備セットを着こみ前線兵士の装備。トウマは、背広スーツに災害避難用の道具が入っているリュックサック。

（あいつ殺す気満々じゃねえだろうな！（。；）byトウマ

トウマは、気がついてみると森の中。目の前には・・・

巨乳の妖精さんだ！！！！！！☆

「あなたは誰ですか？」

（言葉が通じる。以前王都トリスタニアに潜入した時は言葉が通じなかった。これも召喚時に副作用なのか！）

「君とお友達になりたいです。さあ！お友達の契約を！コントラクト・サーヴァントを！」

トウマは、テイファの前にしゃがみこんだ。

「あー！コントラクト・サーヴァントは、使い魔にする儀式ですよ！お友達にそんなことはできません」

「コントラクト・サーヴァントは、君と僕にとってお友達になる儀式だよ！心配いらないよ」（俺！最高！！！！！！！！！！）

「じゃあ、契約をします。五つの力を司るペンタゴン、この者に祝福を与え、我の使い魔となせ」

ティファがトウマに口づけをした。

（彼女いない歴でこんなの初めてだ！！！！！！）

実のところトウマは、奥手であり彼女いない歴23年の童貞である。

トウマの額、左手、右手、胸にルーンが刻まれているのが分かる。
普通の人間なら気絶するがなんせトウマは、地球人でありながらスパーサイヤ人5サイコクラスの肉体を持っている。蚊が這っている程度にしか感じない。

「俺の名前は、トウマ！君は？」

「私は、ティファニア。ティファって呼んでください。お友達になりましょう」

「是非ともお友達に！」

すると物陰から子供たちが出て来た。先頭の10歳位の子供はトウマにこう言い放った。

「日本人か。だれだあんた」

「あ！ジムにみんな大丈夫よ！お友達よ！」

「はじめまして！日本国首相補佐官 平賀 闘馬です。トウマって呼んでくれ。君は、転生者か！」

「転生者！あんたもか？！俺は、ジムだ！転生前は、しがない日本のサラリーマンだ」

「ジムにトウマなんの話をしているの？」

「ジム兄ちゃんって時々難しい話するモンね！」

「ね!」「ね!」

「ま!詳しいことは、小屋の中で話しましょう」

トリスティン魔法学院

「あんた誰よ」

(クソッ!...!貧乏くじか!!大凶!クソルイズかよ!はやくバツクレテッ!...!...!...!)

お前も転生者か！　　くウェストウッド村く（前書き）

ミッション開始！

お前も転生者か！　　（ウェストウッド村）

アルビオン　ウェストウッド村

小屋の中には、トウマ、ティファ、ジム等の子供たち十数名。

「ヴァリヤークから取引持ち掛けられたのっておめえもか？」

「“おめえ” ってやめてくれこれでも転生前の人生合わせて年齢30歳だ！ジムでいいそれに”おめえ” 以外はタメでいい」

「わるいジム！転生前の死亡が東京発大阪行きの1986年の日航機墜落事件か！あの事件は、アメリカ軍が撃ち落としたって話があるんだ！」

「なぜアメリカ軍が？」

「1985年にプラザ合意ってのはあった。当時アメリカは、財政赤字が顕著で特に日本に円高ドル安へと持って行くように言ったんだ。でも日本はそれに渋っているから在日米軍が落としたことが判明している。これマスコミには、発表していない機密事項なんだ」

「じゃあの墜落で死んだ俺や他の人間は浮かばれない・・・」

「ジムは転生したじゃないか。これからだよ人生は！」

トウマとジムが独壇場で話していると、ティファが突っ込んだ。トウマがハルケギニア語、ジムが日本語で話して聞こえるいるからハルケギニアの人間は日本語は全くわからない。

「あのく何話しているんですか？ ジムも何話しているの？」

「ごめん姉ちゃん、ちょっとね！」

「ティファって生まれ変わりって信じる？」

「生まれ変わり？」

トウマは、輪廻転生に関する話をティファに話した。ジムには、ソ連崩壊、1990年湾岸戦争、オウム事件、北朝鮮ミサイル問題、イラク戦争、東北大地震、台中のにらみ合い、「尖閣危機」による憲法改正による国防軍への創設、首相公選制とインターネット投票によって桜木健一郎氏が選ばれたこと、トウマがその側近だということ等を話した。

「日本がこの世界の無人無政府大陸を領有したら超大国へとなれる。アメリカによって死んだ人達の為にも俺の矜持の為にも平賀さんに協力するよ」

「トウマでいい！ トウマって呼んでくれ」

「ジムもトウマも何を話しているの？」

「何？」 「ナニ？」 「なに？」

「みんなには本当に難しいことだね。ところでジムはヴァリヤードとなのもから能力をわたされなかったのか？」

ジムの能力は

・スーパーマンのような体

・ガンダムのようなロボット兵器を操る力

・日本最強クラスの剣豪の剣技

・DQの呪文

「なるほどスーパーマンか！なんちゅうチートだ！」

「トウマなんかヴァリヤーグの足元みて願い事多いじゃん」

「ヴァリヤーグか！別名は第六天魔王、ルシファー、シバ神等と呼ばれている。実際には、この世界のヴァリヤーグ族が語源らしい。ヴァリヤーグ族大部分含めた大陸は、時の狭間に封印されたが生き残りがそこに脱出して「シュメール文明」人類最古の文明を築いた経緯があるんだ」

「以前学会で日本とシュメールについての結びつきがあるとの説があった。俺はこれでも歴史学の博士号を持っているから」

「でも銭稼ぐ能力は、ないな」

「これでもジムって町へ行って人夫作業しているわ。大半がマチルダ姉さんが稼いでいるけど」

「マチルダ姉さん！」

「なんでもトリステインで魔法学院の秘書しているとかで」

「ふん」

「姉さんに負担ばかり掛けているわ。23にもなって嫁の貰い手がないし」

「大変だね！23か俺も23だけど俺の世界じゃ23歳で結婚なんて早すぎるほうだよ」

「トウマの世界やジムの前世の世界をみてみたい」

「「見てみたい」「みてみたい」「みてみたい」」

「ねえトウマ！エルフってどう思う」

「エルフ！俺の世界じゃエルフや魔法やら亜人なんかいないけど、エルフは自然の守り人って意識あるね！別に怖いとか思わないよ。俺の国じゃ精霊も亜人も大自然の一部、八百万の神様だから」

「これ見ても驚かない？」

ティファは、かぶっていた帽子を脱いでトウマに長い耳を見せた。

「全然！ゲームとか漫画とかで見慣れているし怖くないよ」

「ゲーム？漫画？」

「あ！これは俺の世界の文明の事。おまけにここの宗教のブリミル教なんかないし。俺の世界はブリミル教がない世界なんだ。よってエルフを敵対する思想などない」

「よかった・・・・・・・・」

ティファは涙を浮かべ口元を押さえる。そしてトウマにティファの父親のモード大公の処刑から始まるお家騒動の事など今までの事などを話した。

「そうかもうすぐここも戦場に巻き込まれる！俺はゲルマニアで爵位と土地を買ってみんな全員を保護したい」

「でもお金相当かかるんじゃない」

「トウマ、そんなお金もっているのか？」

「証拠を見せよう」

テーブルに大量の金貨が出現した。

「どうだ！これでみんな避難しよう」

「でも姉さんにまだ知らせていないし」

「実は魔法学院につなががいるからそいつににまかすよ」

さる女子寮の一室でルイズがサイトに使い魔とはなんなのかレクチャーしていた。

「わかった？」

「了解！マスター」（マジでぶっ殺して〜！！！！！！！！！！）

深夜寝入っていると通信機からトウマからメールが入った。

（何！ギーシュの地球への転移放置は、確実に！マチルダと接触頼む。翌日には、ゲルマニアへ出発する予定だと・・・決闘前にマチルダと接触してウエストウッド村全員がゲルマニアへ移住したことを伝言と！！！！明日、魔法無効化して話そう）

シエスタと接触!!そして決闘前(前書き)

さてギーシュへの決闘の他にもどうやってマチルダと接触するのか？

シエスタと接触！！そして決闘前

魔法学院

朝5時

サイトは、ルイズの下着を洗うべく洗濯場を探していた。と言っても洗濯機ない世界で洗濯板で洗うつもりはない。シエスタに任すつもりだ。

（まずは佐々木武雄氏の親族のシエスタに接触、そのあとはマチルダ。シエスタより早く香水を見つけてギーシュを決闘へ引き込み転移放置させるかだね）

決闘の件で魔法学院から拘束されそうになったら日本の街中へ教師共々転移放置するつもりだ。その時には衛兵の剣と槍の破壊を忘れないように。

サイトが持っている武器とすれば9mm拳銃、アーミーナイフ、99式軍刀、89式自動小銃だ。それに戦闘糧食を10日分ある。原作通りに食堂の床に座って栄養生理学無視した粗末なメシ等食べるつもりはない。持ってきた戦闘糧食は栄養満点で、国防軍になってから大改良された優れモノだ。

モットがシエスタを連れていったことをトウマに知らせると魔法学院を舞空術で脱出してゲルマニアで貴族領を買っているトウマに接触するつもりだ。モットの始末は、トウマに任せる。

しばらく歩いていると、黒髪のメイドさん発見。

「すみません！ちょっといい？」

「なんですか貴族様？」

「俺、貴族じゃないから。俺の名前はトウマ」（おいおいマント！つけていないのに何でクソ貴族だよ）

「あ！ミス・ヴァリエールが召喚したっていう平民の方ですね。私の名前はシエスタです」

「頼みがあるんだけど、この洗濯ものを洗ってくれないか？」

「女性モノの下着ですものね。後で洗濯して乾いたらミス・ヴァリエールに届けます」

「よろしくね。君の親族に佐々木武雄って人いる？」

「あ！私の曾お祖父ちゃんです。でも数年前に亡くなりました」

「俺の大伯父さんに当たる方なんだよ！亡くなったのか！あとでお墓参りしたいんだけどいい」

「タルブ村までは、2，3日かかりますよ。ミス・ヴァリエールに仕えているんじゃないですか」

「あんなクソ貴族のダメ貧乳こっちからお断り。貴族なんかクソだ！」

「そんなこと言って！貴族の方に聞こえたら怒られますよ」

「大丈夫！大丈夫！洗濯任したよ」

トウマは、シエスタに洗濯ものを渡して去っていった。

（ミッション一段階は、クリア！）

原作・2次作品通り定番のルイズ起床とキュルケの使い魔自慢があった。

ルイズとサイトは、学院中央の本塔にある『アルヴィーズの食堂』の前まで来た。

「マスター、俺は事前に食べているし、床に座って栄養生理学のかけらもないパンとスープを食するつもりはない。後ろで立っている」

「はあ？なんでわかるのよ？」

目を丸くして振り向くルイズ。

「なんとなくだ！」

トウマは、食堂の中に入り椅子を引きルイズを座らせて衛兵の如く立った。横に見てみるとパンとスープがある。そんな栄養がないものなんて食べるつもりはない。体を壊すだけだ。造った奴も馬鹿だ！

土の授業では、ルイズの爆発はサイトの魔法無効化能力で起こさなかった。サイトは、床に座らず後ろの方で立っていた。ルイズがいくら杖を振っても何も起こらない。他の生徒は机の下に隠れていた。

「あれ爆発が起こらないぞ」

「ゼロがゼロになった！」

（爆発起こしてたまるかよ）

昼飯になり食堂前まで来ると

「俺は厨房に行って賄いを食ってくる」

「なんでよう？」

「栄養が全然ない食事など意味がない。強き民とは、強き食事だ。栄養が全然ない弱き民の食事など地球世界の人間として食べる気はしない」

と言に残すと厨房の方へ去っていった。自分の半径200mを魔法無効化して。後ろでルイズが癪癪して杖を振っているが何も起こらないし無視しておこう。

厨房では、マルトーと知り合ってメシをたらふく食った。マルトーの腰にベルトM92があった。

（この世界にそんなものが？連発式の拳銃などないハルケギニアに

はないはずなのに)

「マルトーさん！その銃は？」

「これか！これは亡くなった俺の爺さんの形見だ！なんでも別の世界から来たっていつも言っていた、俺の故郷のゲルマニアにでかいゴーレムがあるんだ。メイジでもないのにゴーレムを操っていたんだ」

(ゴーレム???！ロボットの事か?)

また、学園に来る王宮勅使のことをシエスタから訊くとモットという名前はいないとのこと。

(モットがない！原作とは違うじゃんかYO！別の転生者に殺されたか！トウマ兄に報告だ！)

賄いを食った後、シエスタに給仕の手伝いを申し出た。

ギーシュの足元に香水が落ちている。それをシエスタより先に拾い上げた。

そして原作通りの方向へ！

「決闘だ!!!!!!」

シエスタと接触!!そして決闘前(後書き)

モットは事前に殺しときました。モットの死の真相は?後でそれを明らかにします。

ストック先生の「ゼロの奴隷」で平民の組織を引用しようと思います。引用はOK?ストック先生?

決闘！ギーシュや他のメンバーを地球へ放置！マチルダとの接触！そしてトンズ

「諸君！！！！決闘だ！！！！」

学院の広場で馬鹿ギーシュがバラの杖を掲げた。

「」「」「うおーッ！」「」「」

馬鹿共が叫んでいるよ！お前らくたばれ！ルイズは、ギーシュに謝れと言っているが無視した。

「ギーシュが決闘するぞ！相手はルイズの使い魔の平民だ！」

ギーシュが薔薇を掲げると、観客が沸き立つ。暇な連中だ……
・・死ね。

50

「とりあえず、逃げずに来た事は、褒めてやろうじゃないか」

こいつを放置した後、どうやってマチルダに接触しようか！それが終われば地球へ帰還だ。

「じゃかかって来い！」

サイトは、オーソドックスの構えを取った。

身体がフツと軽くなり、腹の底から力が漲^{みなぎ}ってきた。

これが『ガンダールヴ』のパワーか……面白い。

「ふっ」

その時、ギーシュが余裕綽々で笑い、薔薇を振った。

花びらが一枚、宙に舞い……地面に落ちて……

ペア！

地面が光ると、ギーシュと同じぐらいの身長 of 金属人形が現れた。

あれが、青銅の『ワルキューレ』。

「決闘の作法として、一応名乗っておくよ。僕の名はギーシュ・ド・グラモン。二つ名は『青銅』！『青銅』のギーシュだ。従って、青銅のゴーレム『ワルキューレ』がお相手するよ」

「御託はいいからてめえをぶっ潰す」

ワルキューレがサイトに向かって突進する。

サイトは、鉄拳一発

「せいや!!!!!!!!!!!!!!」

ダン!!!!!!!!!!!!!!

上から振り下ろした鉄拳はワルキューレごと叩き潰し地面にクレーターが出来上がった。周りの観衆の貴族どもは、口をあんぐりあけている。ギーシュは、茫然と立ち尽くしていた。

「無茶苦茶弱いぜ！バラ貴族！」

「な、何だと!?!」

サイトは、瞬間に移動してギーシュをつかみ地球へ転移した。

場所は、西新宿のビル街。

「ようこそ絶望の世界へ！そして！さようなら！」

後にはギーシュと通りすがりの通行人が残されていた。

学院の広場に戻った才人は、ルイズに質問攻めにされていた。

「あんた！ギーシュはどうしたのよ?」

「メイジにとって絶望の世界へ招待したのさ」

「は?! 絶望の世界?」

サイトは、立ち去ろうとしたが鋭い”気”がせまっていることを察知した。手のひらの凝縮した魔法無効化粒子で消滅させるとこれまた生意気そうな野郎が杖をこちらに向けていた。

「貴様! ギーシュをどこへやった!!」

「知るかよ! 絶望の世界だろ」

サイトは、そいつをつかむとまた、今度は品川へと放置した。

「ビリエが消えた」

「また、あんた! ビリエをどこへやったのよ」

「うるせえ! 消すぞ」

ルイズの腕をつかみ今度は、東京駅の前に転移して置き去りにした。

魔法学院へ戻ったサイトは、ルイズの部屋に戻って荷造りをした。

厨房でシエスタとシエスタに挨拶したらマチルダとコンタクト取ろう!

夕方になり厨房へと荷物をもって移動した。

厨房じゃサイトは、マルトーからは「友よ」、シエスタをはじめとする使用人から「我らの拳」と呼ばれた。

「マルトーさん！メシ食ったらここを出ていきます。短いような間だったけどありがとうございます」

「友よ！行くのか！」

「はい！貴族とトラブルを起して俺も無事じゃ済まないっすから！そんなの馬鹿でも解ります」

「あ！シエスタ！タルブの村へお墓参りに行くからよろしく」

「はい！タルブでお待ちしています」

飯を食い終わり挨拶して出て行こうとすると長い緑の髪を髪飾りで頭上にまとめた女性が立っていた。

「ミス・ヴァリエールの使い魔さんオールド・オスマンが呼びです」

「そうですか」

サイトとロングビルは、厨房へと出た。

「はじめまして！マチルダ オブ サウスゴータさん」

すると顔つきが変わりサイトをにらみつけた

「あんた！それをどこで・・・！？」

「ティファをはじめとする十数名の子供たちは俺らの国機関が預かっています。彼らは、ゲルマニアに居ます。今は、彼らの村はもぬけの空ですよ。また、詳しい話は、ゲルマニアで！」

サイトはそう言うなり舞空術でゲルマニア方面へ飛び去っていった。

（ミッシェンクリア！トウマ兄に報告して地球へ戻るか）

決闘！ギーシュや他のメンバーを地球へ放置！マチルダとの接触！そしてトンズ

ギーシュ、ビリエ、ルイズの運命は！しばらく地球で乞食してもらいます。

ゲルマニアで爵位と領地ゲット!!!!橋頭保を確保!

ウェストウツド村でティファニアとの接触に成功したトウマは一晚過ぎして翌朝、ゲルマニアの首都ヴィンドボナへ到着した。

中世ヨーロッパの街並み!だ。旅行でオーストリアのウィーンへ訪れていたことがある。地球じゃ綺麗だがここは、わ!汚物が道端に捨ててやがる!上下水道がきちんと完備していないじゃんか。

さてヴィンドボナの行政府前に到着。

係の役人に面接した。

「いかがなさいましたか?」

「ここで爵位と土地を貰えるって聞いたんすけど。代金はこれです。」

「

ドサツ!

「今の時点で買える領地と爵位の一覧見せて貰えます?」

「はい、こちらになります」

海に面しているのが条件だ!

北の辺境か!

「爵位は伯爵。領地はここに決めました」

「代金を数えますのでしばらくお待ちください」

・
・
・
・
・
・
・

30分後、紅茶をお代りしていると受付の人が戻ってきた。どうやら、金貨の数を数え終わったようだな。

「お、お待たせいたしました」

「どうですか」

「確認しました結果、金貨の方は9万エキューほどありました」

「ご苦労様です」

「ええ、それとご所望された伯爵位と領地ですがあわせて四万エキューとなりますが・・・・・・」

「あとの五万は、そちらでもらってください。」

「左様でございますか！ありがとうございます」

「いえいえ、お互い様って奴ですよ、このことはお互いの秘密で」

「そうですな、いや、お若いのにしっかりしていらっしゃる」

大概こういった奴は金渡せば余計な詮索とかはして来ない。どうせこんな場所で受付やってんだ、ただの木っ端役人だろうしな。

結果として今月の王宮へ納める税は免除、来月から納めるのこと。貴族名鑑に登録された。皇帝への謁見は不要。

これから橋頭保にする領地の屋敷の鍵を渡された。瞬間移動でウェストウッド村に戻りみんなに貴族爵と領地を買ったことを報告すると。サイトからメール連絡が入った。

サイトからルイズ、ギーシュ、雑魚貴族の3人を地球へ放置してマチルダと接触してトンズラしているとのこと。メール返信で

「地球へ帰還しろ！ミッションは以上あとはこちらでまかせろ、学業に専念しろ」

領地への移住。そして！デルフはどこへ？（前書き）

サイトは、とりあえず学業に専念させて国防大学で幹部勉強させたあと、少尉の部隊長でトウマの領地の部隊に配備させようと思います。

領地への移住。そして！デルフはどこへ？

トウマは、ゲルマニアの北の辺地、ノルデンという地方の領主になった。場所がわからないので王宮御用達の龍籠に乗って旅立った。

税金は、1割だね。日本の場合、社会保障除いて5〜6分。でも自領地は、社会保障等の医療・福祉は、無料。まずは、戸籍を造り上下水道の完備、電気の敷設に発電所の建設、発電は縮退炉機関やフリーエネルギー機関。水源がお粗末だったらラグドリアン湖の精霊に頼んで分身を分けてもらおう！クロムウエルの指輪と引き換えに！

領内の法律の設定とか色々あるね。日本からたくさん人呼び込んで働かせよう！軍港・基地を建設して自領地の警備、他の大陸を調査・領有・解放統一戦争をするための日本軍も呼び込もう。

やることあるね。税金は、1割以下だよ。日本なんか戦時中、金がないから”国民年金”という形で戦費を徴収したけど、今じゃ我が国は破綻寸前だよ。でもこの惑星の無人(?)大陸を領有後、我が国の借金1000兆円と未納分の国民年金は、新大陸の土地の所有権を債権化し、国債と交換、償却で解決しよう。

アメリカや中国、ロシアなんぞに手を出されてたまるか！北朝鮮、韓国何ぞもってのほかだ！

知識の本棚から異世界間ゲートと魔法消滅装置の設計図を筑波の研究施設に持ち込んで解析、製造中のこと。あと1年で完成の予定。それまでは、必要物資と人材はトウマとサイトが定期的に運搬する予定。

館に到着したら・・・マジで・・・!???!!(。。) お化け屋敷だ!

「到着しました。私はこれで失礼します」

「ありがとうございます。これはチップです」

トウマは、金貨袋から意図握りの金貨を渡した。

「こんなに!?!?!?!」

「私からのお礼ですよ!」

「ありがとうございます」

「またよろしく♪」

「また御贔屓に・・・・・・・・」

トウマは、鍵を開けて屋敷内へと入っていった。

「・・・・・・・・・・・・・・・・なんじゃこりゃ!!!!!!ほとんど幽霊屋敷じゃんかよ!!!!」

「よし!要塞タイプに再建築だ!!!!!!」

作業ロボットは、スターウォーズシリーズのドロイド100000体。知識の本棚と無機物創造で作成。地下に秘密基地に建設する為、地図と資材、作業用機械を製造。屋敷完成までのみんなの仮住居。

スーパーロボットZのガンレオン。俺が留守中になにか遭ったときにとかにジムが操縦し対処できるため製造。

考えてみればジムってスーパーマンと同じ無敵パワーの持ち主だから……

ムダだった！（＞＜）簡単なハウスにしようと思った。

「この図面通りに屋敷を製造してくれ！」

〰
 ☆
 ≡
 T
 ▼
 ☆
 ★
 〰

よしティファ達を迎えに行こう。

ウェストウッド村

「ただいま!!!」

「トウマ、おかえりなさい。どうだった？」

「伯爵と領地買ったよ！今すぐにでも出発しよう！」

「でもマチルダ姉さんが心配するから」

「連れが姉さんに報告しといたから大丈夫！」

「そう・・・ありがとう、トウマ」

各自の小屋の荷物を荷造りして、みんなと荷物ごと「瞬間移動」

「着いたよ」

「え！ここは？」

「あの所に屋敷造るから後10日で完成するからね」

「あれって金属のゴーレムがたくさんいて何か造っているよ」

「スターウォーズのロボットみたいだ・・・」

「よく知っているな、もちろんその通りだ！」

「とりあえず屋敷が完成するまではここに住んでもらうからね」
建設中の屋敷の真向かい側にトレーラー型ガンレオンがあった。

「ジム！俺の留守中にみんなを頼んだぞ！あれは、ロボットに変形できるトレーラーハウスだからな！盗賊や軍隊が来ても安心だ」

「マジかよ！でもスーパーマンクラスだからそんなロボ無駄だったかもしれん」

「それを言っちゃおしめえよ！」

みんなで荷物を仕分けをして、トレーラーに入らない荷物はプレハブ小屋を造って収納した。夕方になりみんなトレーラーの中で一晩過ごした。でもドロイド達は、疲れ知らずで予定通り昼夜問わず突貫状態で働いている。

一晩明けてトウマは、王都の武器屋でデルフを回収しようと舞空術で飛んでいった。

（前来た時は、遠くから眺めてみたが、中は初めて。まったくひどいもんだぜ！）

王都トリスタニアのある大通りを歩いていた。もう来たくないんだよね！狭い！狭いってのがもう「中世」。道脇の果物露天屋でリンゴ1つを買い金貨1エスキューを渡すと、嬉々として武器屋の場所を教えてもらった。

まだハルケギニアの文字を習得していないトウマに取って、看板らしい店があるのは助かる。その店は裏通りにあり汚物などは道端に

ポイ捨ててあった。

上下水道が発達していない中世ヨーロッパでは、町や村の住民は煙草のポイ捨ての如く排泄物を平気で道端に捨てていく。朝鮮半島など日韓併合の前等は、住民は平気で道や川へと汚物を捨てていた。日本は、戦国時代あたりから汚物を糞で発酵して肥料にしていたので幕末に日本を訪れた欧米人は、日本人は清潔で綺麗好き、道端に汚物やゴミが一つもないと絶賛していた。

トウマは、額のミョズニトニルンを隠す為バンダナを巻き白の手袋をはめ、スーツ姿の上に王宮から支給されたマントと羽織り第4のルーンパワーで召喚したアスクレピオスの杖を持っていた。おかげで道行く方に道が出来上がった。

（この世界じゃ貴族は、恐れられてんだね）

しばらく歩くと、いかにもそれっぽい看板がぶら下がってる。

店内に入ると、ところ狭しと武器が置いてある。

「なんでしよう………旦那様！お貴族様がなんの御用で？うちはマツトウな商売やってますぜ」

カウンターに肘をつき、気だるげにしていた店主は入ってきたのが貴族だと判るや否や背筋を伸ばして揉手し、冷や汗をかきながら愛想を振りまく。

「おい店主！デルフリンガーという名前の剣はあるか？インテリジ

「エンスソードだ！」

「デルフリンガー?! ですか？」

「もしあったらここに10000エスキューで買おう」

どきっと王の財宝から10000エスキュー入った金貨袋をカウンターへと置いた。

「お貴族様、申し訳ございやせん! うちにはデルフリンガーってインテリジェンスソードっておいてやせん・・・!?!・・・」

「そうかデルフリンガーだ! クソデル♪アホデル♪のサビ剣だ! ないのか!」

すると奥から声がした

「デルフリンガーなら60年前に兄さんと同じ髪の色をした若者にもっていかれたよ」

「マジかYO!?!?!?!?!?!?!」

「店主、邪魔したな! これは取っといてくれ! 実はなここは銃を取り扱っているのか？」

「銃は、あちらにあります」

見てみるとどれも火縄銃とフrintロック銃で連発ライフルじゃないモノばかりだった。

「店主！実は俺はゲルマニアで銃器を製造しているんだ！一丁一ドニエで買ってくれないか？代わりになんだがこの10000エスキューの金貨は取っといてくれ」

「いいんですか？こんなにも？！！！？？」

「ああ！いいとも！！親父！これからもいい取引を頼むぞ！あと、うち領内で製造したの銃器元は、言わざる、聞かざる、見ざるだ！」

そうトウマは店主に闘気を発して消え去った。

「いったい、何なんだ？！！！？？でも！！！！今日は店じまいでのみに行くぞ！」

領地への移住。そして！デルフはどこへ？（後書き）

デルフは、どこへ？

魔法学院でヘッドハンティングそのあとは、タルブヘ!!! (前書き)

まずは、コルベールとマチルダ、マルトーにシエスタと接触だ!

魔法学院でヘッドハンティングそのあとは、タルブヘ!!!

デルフリンガーGETならず、トウマは王都の武器屋を後にして
トリステイン魔法学院からちよつと離れた場所に瞬間移動した。

よし！ここで車を製造。知識の本棚で、これでいいか！”アウディ
A7スポーツバック”を製造だ！

.....
.....
.....

完成!!!!!!!!!!!!!!

ガソリン満タン！乗り込んで魔法学院までGO！

門前まで来ると衛兵が槍を合わせて × の形で”STOP”を掛
けた。トウマは、車から降りて

「てめえら！アブねえじゃねえかこの野郎！！死にたいのか！！」

「御貴族様！申し訳ございません。当学院には何用で？」

「これは失礼！私は、ゲルマニアのトウマ・ド・ヒラガ伯爵だ。こ
この学院の教師と職員に用があつてまいった次第だ！ミスタ・コル
ベールに取り次ぎ願いたい！あとこの手紙をミス・ロングビルに渡
すようにお願いしたい」

トウマは、手紙を衛兵に渡した。

「かしこ参りました！では、こちらへどうぞ！」

「さっきは悪かった！これは礼だ！」

2人に10エスキューズつ渡した。

「「こんなに?????!?」」

「取っとけ！お互い様だ！持ちつ持たれつつだ！」

「はい……!!」

「それよりミスタ・コルベールが研究している小屋まで案内しろ！
乗っていけ」

トウマは、反対側のドアを開けてもう一人の衛兵に乗り込ませた。
衛兵の案内で小屋の横に車を止めてコルベールを待っていると伝えた。

しばらくすると頭の禿げた中年の男が走ってきた。

「私に何の御用で？私がジャン・コルベールです」

「私は、ゲルマニアで貴族をやっているトウマ・ド・ヒラガ伯爵です。
お見知りおきを」

「こちらこそ……おお！これはなですか……!!」

コルベールは

「なんでしたらこの小屋の中で話しましょうか？」

二人は、小屋の中へと入っていった。ごちゃごちゃしているな。掃除くらいしろよ！と言いたい。マッドはこんなもんか！

「いやゝ散らかっていて申し訳ない」

「いえ、大丈夫です」

「それで早速ですが、私に御用とは？」

「あなたを私の領内で雇いたい！資金は、全面バックアップするからノルデンというゲルマニアの一地方に来ていただきたい！」

ドカ！！！！

トウマは、そう言うなり車から持ってきたスポーツバックをテーブルの上に置いた。そして金貨ザックザク入っている所をチャックを開いて見せた。

「これは・・・！！★????!!!!★」

「この金額であなたを雇いたい！」

「なぜ私をそこまで・・・!!?」

「あなたの経歴を調べさせてもらいましたよ。元トリスティン王国

魔法研究所実験小隊長殿。」

トウマは、魔法無効化能力を発動させた。するとさっきより陰しくなったコルベールが睨みつけた。

「どうしてそのことを……?」

「ダングルテールと言えば御存じのはず・?!」

コルベールは頭を押さえてうつむいていて悲痛な顔になった。

「あれは、仕方なかった。疫病と知らされて命令で村を焼いたが、後になってそれは新教徒狩りだと気付いた……」

「済んだことをどう言っても仕方がない。あなたは、この国にいてべきではないです。」

「私は、教え子達がすばらしい人間になり、多くの人を救ってくれるかもしれないと思いながら教師を続けています」

「!、しかし、教師勤めて20年間どうです?!何も変わってはいない。トリステインから豊かなゲルマニアへ平民が脱出していくんですよ。それは、あなたにも原因があるんです。ずばり!はつきり言います!」

あなたに教師の資格・器がない!

私は、こう断言できます。」

「それにこんな安月給で過ごし平民が逃亡する滅びゆく国にいるべきではない。私は、魔法を一般平民でも平和的につかえるカラクリを造る能力を我が領内で発揮してもらいたい！ですから私はそこまですこの大金であなたをかつているのです。」

「おおおおおお！私をそこまでして……」

「我が領内にお待ちしています。では、またです。」

トウマは、コルベールの研究小屋を後にした。

学院中央に位置するアルヴィーズの食堂の厨房に來ているトウマ。入口に入ると体がごつい料理長らしき男が近づいてきた。

「これはこれは、どんな御用で貴族様」

「あなたがマルトーの親父さんですね。あなたの腕をこの金額で買いたい！」

テーブルの上に土納袋ごと大量の金貨を置いた。そしてトウマは、「土下座」した。

土下座・・・それは、命への執着の究極形態、いのち命恋である。

すると厨房の時間が……止まった。

ハルケギニアでは、平民が貴族に土下座をすることがあっても貴族が平民に土下座をすることは、ありえない。

しかし、トウマはそんな身分社会とは無縁な世界で生きているし腹芸など朝飯前である。しかし、ハルケギニア貴族共は”腹芸”ができない。

マルトーは、あわててトウマを立ちあがらせた。

「貴族様！おやめください。こんなこと他の貴族様に知られると私たちがひどい目に遭います」

「じゃあ！私のゲルマニアにある領地、ノルデンのトウマ・ド・ヒラガを訪ねてくれ！それに俺のことをトウマって呼んでくれ、マルトーの親父さん」

「俺をそこまでかうのですか！それにノルデンっていうと俺の生まれ故郷！」

「もちろん！俺も男だ！貴族なんかクソくらえだ！親っさんの故郷なら盛り上げようじゃないか！」

「がはははははは！とんだ貴族様だ！気に行った」

「よろしくな！親っさん！」

二人は固い握手をした。

「ところでシエスタってタルブ村出身の子いる？」

「シエスタに何用で？」

「実はなここにサイトって奴が来なかった？俺は、あいつのいところなんだ！ってところは、シエスタと親戚なんだ」

「我が友」「我らの拳」ですか！あいつならゲルマニアへ行きました」

「そこから魔法と貴族がない俺たちの世界へ帰還したよ。今では平民・貴族の垣根がない俺の国の軍の士官学校で頑張っているよ。今度みんなにも俺達の世界へ招待するぜ！よろしくなみんな！」

「俺は、平賀 闘馬。ここでは、トウマ・ド・ヒラガでゲルマニアで伯爵やっているんだよろしくな！トウマって気さくに呼んでくれ」すると奥から黒髪のメイドが現れた。

「あの～サイトさんって御無事でしょうか？」

「無事も何も君の曾お祖父さんの世界でガンガン生きているよ。曾お祖父さんと同じ学校の出身だからさ！」

「よかった！」

「シエスタにこれ渡しとくね」

トウマは、金貨が入ったビニール袋を渡した。

「これは・・・！！！！？！」

「兎に角、アルビオンからの手の者による情報だこの国はアルビ

オンで内戦中のレコン・キスタに攻められる計画がある。その第一段階で君の故郷のタルブが壊滅する計画があるんだ。これからタルブへ行ってお墓参りをして佐々木武雄さん、シエスタの実家の方と面会しようと思うんだ。親戚同士だし、手紙書いてくれないかな！」

「解りました！」

シエスタは、トウマの実家への紹介状を書いた。

（これでタルブへGOだ！）

魔法学院でヘッドハンティングそのあとは、タルブヘ!!! (後書き)

マルトーの祖父は、エルザム・V・ブランシュタイン（レーツェル・
ファインシュメッカー）に設定

タルブ到着！え！MAZIかよ！！なんでこんなものが！

魔法学院の女子寮の一室

「ティファからの手紙。異世界の人間を召喚してゲルマニアでそいつが貴族になった。おまけにそいつの領地にみんな住んでいてお金の心配はいらない。ノルデンへ来てね・・・か！破壊の杖よりこっちのほうがいいね。でも何者だろう？ヴァリエールの使い魔といい、ティファが召喚した使い魔といい・・・破壊の杖は、あきらめてこっちへ行ってみるか！」

タルブへ舞空術で飛んでいくトウマ。世界樹を繰り抜いた町、ラ・ロシェールへ到着し道行く人へタルブ村の所在を尋ねた。

夕方にタルブへ到着したトウマ。マントをリュックサックへ入れ手袋とバンダナを外し杖を収納した。

「これって蒸せるんだね。クソ貴族共はクソの格好しないとこの世界じゃ横着に対応するからね！早いとこシエスタの実家を探そう」
村の人にシエスタの実家を訪ねた。トウマは、貴族ではない日本人としての自分をみせようとしていた。

（まずは、タルブ村の人間をどこまで説得して全員移住させるかだ！お金は、腐るほどある。はやく移住させないとこの人たちに被害が出る）

ようやくたどり着いたシエスタの実家、シエスタの家族は大家族で祖父は村長だった。シエスタから預かった手紙をシエスタの親父に渡し内容を見た。

「もしや貴族様で！」

「確かに肩書は貴族となりますが、腐っても証明正真の佐々木武雄さんと同じ日本人です。日本では、日本国首相補佐官 平賀 闘馬です。日本国は、このタルブ村すべての人々の命を守りたいです。」
シエスタの祖父もその手紙を読んだ。

「アルビオンでは、内戦が激化していると聞いている。しかし、なんでもトリステインまでは・・・」

「それは、私に言わせるときちゃんと情報分析をせずに只旦に敗北する論理です。必ずトリステインを攻略するためにこのタルブ村を攻めます。これは、我が領内の手の者に諜報させた結果です。移転と住居のお金ならここにありません」

サイトは、100万エスキューの金貨を出現させた。

「これなら我が領内に移転することには、何も心配ないでしょう。移転する際はすべての動産を瞬間移動で我が領内に移しますので」

トウマは、瞬間移動でシエスタの親父、祖父の後ろへと回った。

「どうですか？この村全員を我が領内へ移動することが可能です。このまま留まれば死と滅亡。我が領内に移れば繁栄です。なお我が

領内の税率は1割です。1割！医者は無料」

「い！？！1割！」

「結果は、1週間後訪問しますので聞かせてもらいます」

また、トウマは庭に大量の金貨を出現させた。それに家のみんなが目輝かせた。

（やっぱり金で動かない人間は、いない！！！！！！はっはっはっは！！！！）

シエスタの実家で一晩泊っていったトウマであった。あの寄せ鍋ならぬ山菜風味のヨシェ鍋とワインをいただいた。

（このブドウを我が領内で対応できるように品種改良して蒸留酒つくろうかな！）

翌朝、祖父のジンさんの案内でお墓参りをした。トウマは、タオルでお墓についている苔を取り払い合掌した。そしてー

「大日本帝国海軍少尉 佐々木武雄 異界ニ眠ル」

「読めるのかトウマさん」

「ええ！日本人なら読めます」

「では、こちらの文字も！」

「こちらは？」

「我が妻の父、ワシの義父にあたる人です」

トウマは、隣のお墓も苔を落として綺麗にし合掌した。そして、それは……

「……………」

「どうしました？」

「え?!?!?!……………」
あ!

「？」

「まじで……………?!?!?!」

地球連邦軍少佐ゼンガー・ゾンボルト 我が剣に断てぬモノなし

地球連邦軍少佐ゼンガー・ゾンボルト 我が剣に断てぬモノなし
……………!

「おおお！やっぱり親父達の世界の人間だ！」

「あのう何か形見なんか残されていませんか？」

「この建物の中に”龍の羽衣”と”巨人の剣士”が親父たちの形見だ！」

（え？巨人の剣士？）

二人は、コケや土が覆われて迷彩している建物の内部へと入っていた。

そこにあるものは、原作じゃゼロ戦が一機あってわかるよ！問題は、これ……………！！！！！！！！

「ダイゼンガーじゃなかよ！！！！！！！！」

「義父は、剣ひと振りとその”巨人の剣士”。親父は、”龍の羽衣”と剣と日記。」

「口が堅いメイジに固定化の魔法を頼んだんだよ。親父たちの遺言でお墓の文字を読めた人間に”龍の羽衣”以外のの遺品を譲渡せ、”龍の羽衣”は陛下に帰してくれとな」

「そうですか！では、こちらで引き取らせていただきます。龍の羽衣は我が国の政府機関、天皇陛下にお返しします」

「おお！よかったこれで親父達も浮かばれる・・・」

トウマは、佐々木武雄氏の日記を読んだ。

佐々木武雄氏も平成育ちの日本人で転生者、ゼロ魔を知っていること。ヴァリヤーグとの原作破壊の取引にコードギアスの自分の命令を絶対に従わせることができる力とDQ・FFシリーズの呪文、日本古流剣術の免許皆伝の上前、体力・精神力・力・素早さの上限なしを取引に佐々木武雄に転生したこと。

ギアスの能力を使い、ヴィットーリアの息子ヴィットーリオ・セラヴァレが虚無に目覚めると息子連れてダングルテールで新教徒として生きる、その時に炎のルビーと始祖の円鏡を武雄氏に渡すことに成功した。

炎のルビーと始祖の円鏡は、ゼロ戦の中に保管している。

曾孫のシエスタの妾防止として、数十年前にモット一族を皆殺しにしたこと。

佐々木武雄氏は、秘密結社「平民」に属している。ダングルテール事件のことがわかってから事前にヴィットーリアとヴィットーリオの母子、アニエスらがいる村の人間だけを救えたが、あとの村人は全員救えなかったこと。それに悔いている。

ヴィットーリアとヴィットーリオの母子、アニエスの家族は、このタルブで幸せに暮らしていることが記された。

（秘密結社「平民」か！我が日本国の協力的組織になるように工作しよう）

ゼロ戦とダイゼンガーは、王の財宝へしまい込んだ。ゼロ戦は、中
にあったルビーと始祖の円鏡を回収して国防省へ任せた。

1週間後、タルブ村全員が荷物をまとめてゲルマニアのノルデンへ
と瞬間移動で移転し移り住んだ。

タルブ到着！え！MAZIかよ！！なんでこんなものが！（後書き）

タルブ村の住人を全部ゲット！ダイゼンガーをサイトに搭乗させようと思います。

領地経営1！！！！ノルデンへ御招待

タルブ村全員総出でノルデンの領地へと移住して、佐々木一族から形見の”デルフリンガー”を渡された。また、よくしゃべる奴だが地球へ転移していくと魔法通じないからダンマリを決め込むしハルケギニア限定で使いことにした。

いずれサイトがこの地に赴任するときにデルフリンガーを譲り渡すつもりだ。それまでには、ハルケギニアでは常備携帯している。地球へ街中で装備すると首相補佐官といえども銃刀法違反で逮捕されるからだ。

ダイゼンガーは、完成した要塞型の屋敷地下でドロイド達に整備を任している。いずれこれもサイトに搭乗させようと思っている。

また、佐々木武雄氏、ゼンガー・ゾンボルトなどのタルブ村の住民のお墓はノルデンの住民の墓地に移転した。佐々木一族に武雄氏の分骨を地球の佐々木家にトウマは、考えていた。

ふとした所でドイツ語である墓の文字に目をやった。

・・・・・・レーツェル・ファインシュメツカー 異界の地に眠る
・・・・・・

え！？レーツェル・ファインシュメツカーってアウゼンタイザーの操縦者！まさかハルケギニアへ転移か召喚された！？！！とか・・・

いや！マジマジ！！！！マジでー！

ま！兎に角、親族の方を探して話を聞くべきだ。

ノルデンの墓地の隣にタルブの墓地を転移した後、全領地の村人に墓地の中の遺体を火葬するように指示をした。そうしないと疫病の原因になる。でも佐々木一家のみ火葬している。

武雄氏の分骨を地球世界の佐々木家の人間に渡した。そして、佐々木家で厳かに葬式を行った。トウマとサイトも出席した。

村人には戸籍を設けた。地球から転移してきた日本人作業員や国防軍の軍人は、”別”。なぜなら日本政府が徴収しているのである。ゲルマニア王宮へ納める上納金や予算は、無限の財宝から捻出している。

元々は、村人が一〇数名いた。それに加えてタルブから二〇数名が移籍した。

前の領主の悪政がひどく、逃亡者や奴隷へと身を落とす者が続出。トウマは、奴隷として売られた村人を全員取り戻した。

そこで日本政府は、上下水道と道路、電気を完備する為に日本からたくさんのお建屋を資材と人材を送り込んだ。電気の発電方法は、フリーエネルギー発電である。電線もなしで無線送電である。こういった技術を地球で提唱すると必ずどこからか圧力がかかってしま

う。

また沿岸部に軍事基地・漁港を建設。その軍事基地から日本から転移してきた軍艦で他の無人大陸を領有化するのである。

この土地は、水源が乏しいので海水から真水に変換する施設を造り全領地の水道の大部分を賄っている。タルブ村のブドウ畑をノルデンに全部転移させた。そして、広域気候変換装置でタルブと同じ気候にした。いずれお米や里芋等の日本食に関する食糧を生産しようと思う。

ハルケギニア文字のほうは、1日で習得。戸籍が出来上がり目を通した。

元タルブ村のビットーリオとアニエスは、いるじゃん。二人は、結婚して子供が5歳かよ。しばらく様子見で行こう。時が来れば、始祖の円鏡と炎のルビーを渡そう。

法律を日本国の六法全書の刑法と同じように適用している。領内でのいかなる貴族メイジ等の犯罪は認めないし、奴隷商売も認めない。もし、奴隷商人が領内に入ってきたら拘束して処罰するつもりだ。

トウマは、仕事が一と段落したところでマントと杖を取りだしバンダナと手袋を着用した。そして魔法学院へ瞬間移動した。

魔法学院

警備にコルベールの面会を求めた。コルベールの研究小屋へ通されコルベールから色々話しがあった。

「実は、1週間程前にさる生徒が呼び出した人間の使い魔に我が校の生徒3名を消滅させたのです。そしてその使い魔は逃亡しました」

「その話は、我が手の者から聞いていますね」

「いや！お恥ずかしい限りで……あの事件で王宮から学院に責任の追及が来ましてね。その結果、学院長をはじめ我々教師が何らかの処罰があるとの話なんです」

「たしか情報では、学院長は遠見の鏡で”決闘”を止めもせず見て見ぬふりをしていたと！さらに学院長は、使い魔のガンダールヴの力をグラモン家の御子息を使って見定めようとしていたとも……私にはそう情報がはいっていますよ」

「それをどこで……」

「蛇の道は何とやら……”見て見ぬふり”がトリステイン魔法学院の本質だとゲルマニアでは有名ですね。あなたはここにいてはならない。20年間魔法学院の教師をあなたはやっていましたが同時にここトリステインからゲルマニアに逃亡する平民の数は増えている現状です。それは、トリステイン貴族の平民に対する苛政が原因なんですよ。あなたもあの事件で責任追及され悪ければ処罰の対象になるでしょう。どうでしょうか是非とも我が領

地へ!!」

力強くトウマは言うなり、土納袋一杯の金貨をテーブルの上に置いた。コルベールは土納袋から見える金貨に目を奪われていた。

（銭は心を溶かし、人を裏切る!!!! 禿はなんだかんだ言っても所詮偽善者なのだよ!）

「そこまで私のことを!!!!!! 是非ともあなたの領地へと行きたいです。実は、王宮からの処罰を待つばかりで……………よろしく願います」

（ナイスJOB!!!! サイト!!）

「あなたの能力を私はかっているのです。お待ちしていますよ」

次には、マルトーをヘッドハンティングする為に厨房へと向かった。

「マルトーの親父さんどうですか、我が領地へ来ていただけませんか? トリステインのオラドウィル村のあなたの娘夫婦さんも是非とも我が領地ノルデンへ御招待します」

トウマは、コルベールと同じように土納袋に一杯の金貨を出現させてテーブルの上に置いた。

「そこまで俺のことを…………!!!! それになぜ俺の家族のことを?」

「あなたの事については調べさせてもらいました。それにこの賄い

を食べてみて解りました。料理とは、”理を計る”我が故郷の世界の言葉です。魔法では、理なぞ計れません。マルトーの親父さんの料理の能力こそこの世界で唯一の摂理なんです」

「では、1ヶ月後に娘夫婦を連れてノルデンへ行きます」

「では、お待ちしております」

厨房を出て行きしばらくすると緑の髪の色をした女性が近づいてきた。

「あんたかいティファの使い魔で、ゲルマニアで貴族になった異世界の男は！」

「そうです！はじめまして。ミス・ロングビル。いや、マチルダオブ サウスゴータ嬢！」

「その名前で呼ぶんじゃないよ。あたいはミス・ロングビルでとおっているんだ！」

「これは失礼！ティファ達は、元気ですよ。我が領内で不自由なく暮らしています。あなたが”破壊の杖”我が世界の兵器を盗もうとしていることは想定しています。このルーンが教えてくれますよ！ティファは、あなたが土くれのフーケだとは知りませんよ」

「な！！？？？な！言うんじゃないよ！ティファには言うな！」

「そのかわり学院の破壊の杖の争奪はあきらめて、我が領地にお越しください」

「クソ、魔法が使えない！」

「魔法無効化能力でゴーレムを造れないようにしてありますんて・
・それではお待ちしております。おっと！言い忘れましたが破壊
の杖は一回限りで後は只の鉄くずです。別名をロケットランチャー
です」

「行くよ！破壊の杖をあきらめてあんたの領地へと行くことにした
よ」

「でわ！！！！」

トウマは、姿を消していた。

マルトーのお墓参り!! マジでノルデンにもあれが!! (前書き)

トウマの相手の弱みを突き、金で買収する作戦は成功。

マルトーのお墓参り!!!マジでノルデンにもあれが!!!

サイトは、国防大学付属高等学校3年生。日曜日は、ノルデンへ転移してシエスタを誘って地球世界へデート。週に1, 2回の割合で物資と人材を行き来させている。その際にシエスタとデートをしている。

一緒に靖国神社へお参りした。

「靖国神社にも曾お祖父さんが祭られているんだ。御国から戦死あつかいされているからね」

「そうですか!この前にもこの世界の曾お祖父さんの御家族にお会いたした時、この世界は貴族もない魔法がないって夢のようです」

「ノルデンで貴族を名乗っているトウマ兄は、実はハルケギニアから貴族をなくすために送り込まれたこの国の工作員でもありこの国の宰相の補佐官なんだ。この国を超大国にする為の拠点があノルデンなんだ」

「そうですか!はやく貴族がなくなる世になるといいですね」

二人は、日比谷公園へと移っていった。なんでも「首掛けイチヨウの木」でシエスタと将来一緒になる為にサイトはエスコートしたのであった。

日比谷公園へと心も体も共に癒した二人は丸の内のレストランで食事をした。ビルから出てきて皇居外苑で憩いの時を過ごそうと歩い

ていた時、道端にピンクの髪をした女の子がうつむいて座っていた。

（ゲー！！クソルイズだ！！！！あいつまだここにいたのか！）

「サイトさん、あれはミス・ヴァリエールです。なにか気の毒ですけど・・・」

「いや！ほっとこう！あいつには、言葉も魔法も権力も通じない世界で死ぬくらいの絶望を味わってもらうぜ」

「いずれ我が国が保護するから俺達がしゃしゃり出ればややこしくなるよ」

「そうですか・・・！？」

そう言うと2人はルイズにきずかれないように皇居外苑へ行った。

（もっと絶望を味わえ！）

2回目のトウマの魔法学院訪問から2週間後に別々にコルベール、マルトー、マチルダがノルデンへ新築した屋敷のトウマを訪ねて来た。

マルトーは、娘夫婦と8歳にもなる孫を連れて来てトウマにあいさつに来た。

「よく来てくれた、マルトーの親父さん！」

「俺なんかいいですか？」

「ここはマルトーの親父さんの故郷じゃないか？ やっぱり故郷が一番！ 親族のお墓参りはすんだ？」

「お墓参り？ まだですけど！」

「この領地のお墓の土葬の遺体は、火葬にしておいた。俺もちょうど仕事が終わったんで、一緒にお墓参りに行きましょう」

ノルデンの共同墓地

トウマは、佐々木武雄氏のお墓へ参っている。

武雄氏のお墓を清掃しマルトーら一行を見ると、マルトーと娘夫婦家族はレーツェル・ファインシュメツカーと書かれていたお墓に手も組んで冥福を祈っていた。

マルトーらにこの墓の主の事を問い合わせたトウマは、なんでも戦争の最中に異世界からゴーレムと共に来てこの地へと流れ着いたとのこと。トウマは、そのゴーレムを見たいといった。

マルトーは、あれを見せるべきではないと言ったが、トウマが何度も頭を下げたので見せることにした。

ノルデンの村はずれに巨人の寝姿があった。上空からカモフラージ

ユで土等で隠しているのが分かる。なんでも固定化を施して土をかぶせているとのこと。レーツェル以外にだれも動かしたことはない。

トウマは、土を取り除いて金属の機体へと触った。

データ

アウゼンタイザー

武装

シュルター・プラッテ
ランチェ・カノーネW
シュツルム・アングリフ

動作正常

「.....なんじゃと!!!!!!!!!!!!!!
!!!!!!なんでこれが.....」

「どうかしたのか？」

「これは、スーパーロボットだ！」

この機体は、しばらく屋敷地下で整備格納することになった。この後、マルトーの孫がアウゼンタイザーに関わるのであった。

クローン・ルイズ完成!!! あとの2人の運命! (前書き)

マルトーがアウゼンタイザーの操縦者レーツェル・ファインシユメツカーの孫だと判明。機体は、ノルデンの要塞屋敷の地下基地にて整備格納。

クローン・ルイズ完成!!!!あとの2人の運命!

マルトーと娘夫婦家族がノルデンを訪れた数日後にコルベールとマチルダが別々にトウマを訪問した。

まずは、マルトー・コルベール・マチルダの3人には、地球で技術の勉強をしてもらおうと思っていた。トウマは、日本語の読み書きができるようにするため睡眠学習カプセルを”知識の本棚と無機物創造”を使って3台製造した。

所要時間は、3時間で3人とも日本語と文字を習得した。トウマは、3人を国防省本部まで一緒に転移した。

マルトーは、ミシユラン公認の3つ星レストランや日本料理の料亭等を係の者の付き添いで回った。コルベールとマチルダは、国防省の大映像室でPT部隊・MS部隊・宇宙戦艦を加えた”富士総合火力演習”を見て度肝を抜かし、川崎の工場見学と筑波の軍事関連研究施設とトウマの裏山の地下秘密基地を見学した。

3人とも1年位、地球で各分野の基礎知識等を会得する為に専門学校へ通うことになった。

ノルデン要塞屋敷地下基地の人工重力室でトレーニングを終えて、日本国防軍から派遣された基地警備隊長の大崎と組手と流々舞をやった。

この大崎という男も転生者であり、

・スーパースイヤー人5 ゴジータと同じ肉体と戦闘力(0)にまでコ

ントロールできる)

・HUNTER×HUNTERの強化系念能力

・IQ200

・ガンダールヴの能力

「大崎さんお相手ありがとうございます」

「いやいや首相補佐官と練習を出来て光栄です」

「そう言ってもらえるとありがたいです」

「首相補佐官も転生者だったとは、驚きですね」

「ええ！世の中分らないものですね」

「大崎さんがいなくて一人練習だと中々レベルがあがりませんから」

「ピッコロみたいに分身やクローン使えたら便利ですけどね」

(！)

「クローン！」

「どうかしましたか？首相補佐官」

「ちょっと急ぎますんで・・・！」

トウマは、日本の首相官邸の自分のデスク前まで転移して警視庁へ電話した。サイトから東京駅周辺の丸の内にルイズが出没しているとメールが入っていたので、警視庁の上層部へピンク頭の女の子で魔法使いの様なマントを着ていると特徴を教えた。

また、国家情報局の局長に電話して警視庁で保護したルイズを引き取るように依頼を掛けた。

3時間後、国家情報局の地下施設の一室にトウマとルイズがいる。ルイズは、保護されてお風呂に入り、吉野家の牛丼特盛りを食べた

「お風呂入って、牛丼食べて元気になっただろう！」

「ここは、どこ？あんたいったい何者なのよ？」

「ここは、地球という異世界、国は日本だ！俺は、日本国首相補佐官。あんたは、ルイズ・フランソワーズ・ル・ブラン・ド・ラ・ヴアリエール嬢だな」

「言葉が通じた！あんた、なんで私の名前を・・・！私は、ラ・ヴアリエール家の三女なのよ」

「それがどうした。そんな肩書は、ここでは意味がない。この世界

は魔法が使えないし、ブリミル教がない。我が国は貴族制度を100年前に廃止している」

「ブリミル教……！、貴族がいなくて！なんて野蛮な国なの！」

「何が野蛮じゃボケ！特権階級の貴族が殺人やって罰を受けないお前らハルケギニアのほう野蛮だ！貴様ら貴族のせいでどれだけの多くの人が苦しみ悲しんできたのか！それに比べてこの世界は、貴族がいらない！身分社会じゃないすべてにチャンスがある平等な世界、国だ！」

「それになお前は本当は、何なんだ？言葉通じない、杖あるけど魔法できないじゃないのか？爆発もしないし！お前はいったい公爵家令嬢以外の価値はあるのか？この国の建物の景観を見ただろ！こんな建築技術は魔法じゃできないモノなんだ！」

「……！！！？……それは……」

「お前の価値観なんてクズそのモノなんだよ。今から見せるモノが貴族の価値観を崩すモノだ！これを見ろ！！」

映像が流れた。

ルイズは、腰が抜けそうになった。見せられたのは、「富士総合火力演習」という名の映像。

P T部隊、M S部隊が加わったの大火力。

音声は22・4チャンネルスーパーハイビジョン・サラウンド。

迫力は、映画館のそれと同じだった。

「な・・・・・・・・何!!!!!!!!!! こんなの・・・・・・・・!!」

「わかったか! 地球舐めんなファンタジー! 地球舐めんなハルケギニア!!!!!!!!!! ぶっ殺すぞ!!!!」

そのあと、ルイズはトウマから当て身で気絶させられて血液を採取させられた。ルイズ自身は、日本国国家情報局（NINJA）の監視の元、拘束されるのであった。只旦に拘束されるのではなく日本国の文化・風習に交わり科学を学びながら・・・・・・・・。そして後に解放されハルケギニアへ『日本』の恐怖を伝搬する役目になる。

さして、始めるか! 知識の本棚・機械仕掛けの神・無機物創造で”クローン作製装置”を造った。これにルイズから採取した血液で・・・・・・・・、頭脳記憶は本体からコピーして、精神状態等の設定は冷静沈着で国家情報局のスパイとトウマの言うことを聞くこと!

出来た!!!!!!!!!! クローン・ルイズ!!!!!!!!!! 完成!!!!!!!!!!

カプセル内の液体が引き、装置から出たクローンルイズはトウマが

用意した洗濯済みの魔法学院の制服とマントを着けてもらった。

「どうだ気分は？」

「命令を下さい。マスター」

クローン・ルイズが出来て数日後、トウマは東京都庁の都知事を訪問した。この都知事、名前を桜田皇太郎といい桜木首相の盟友でもあり、また、桜木首相と同じアメリカの大学出身でもある。この前の首相公選制の選挙に出馬していたらこの都知事が首相になったともいわれる傑物である。

東京における中国・韓国・朝鮮系マフィアを壊滅に追い込み、命を狙われても逆にその刺客が死亡することで有名である。

都庁ビルの一室で、ハルケギニアの自領等に関する話し合いで色よい返事と契約が成立した。

「都知事、わざわざ下までお見送りありがとうございます」

「いやいや！俺も下のコンビニでピザまん買おうと思っているから。転生者同士この日本を最強の国にしよう」

「都庁ビル内にコンビニないですよね」

！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！
 ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！
 ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！
 ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！
 ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！

オラ~~~~!!!!!!!!!!!!!!

「北斗……百裂拳……」

「！！」
by スタンド

しばらくすると黒いマントと着けた外人二人組は、同時に肉体が爆発した。

「ひ・ ・ ・ ! ? ? ! ! ! ! ! ! ? ? ? ! ! ! ! ! !」

「都知事これは・・・！！！！？」

「さっきの見ていた？ いや！ プツツンしてやりすぎちゃったYO」

「スタンドで北斗神拳ですか・・・」

「まあね・・・！」

能力者や転生者以外の一般人にはスタンドが見えず、監視カメラに映っていない。この事件は、迷宮入りとなった。

ギ ー シ ュ	死 亡
ビ リ エ	死 亡

クローン・ルイズ完成!!! あとの2人の運命! (後書き)

ルイズは、聖戦儀式に必要なのでクローン。

あとの2人は知らない子なので死亡させました。

クローン・ルイズ。偽ルイズ、ハルケギニア帰還！！ミッション開始

トウマは、東京で桜田都知事との打ち合わせが終わりノルデンの屋敷へと転移していった。

（うーん！都知事が転生者で！！！！スタンド使いの北斗神拳伝承者かよ……。ギーシュとあとは雑魚の誰だっけ？殺しちゃって！！ま、いいか……。！）

トウマは、サイトと共に各部にルーンが刻みられているのでそれを隠す為に疑似皮膚で張り付け手術を施した。疑似皮膚は、タトウー等の刺青を見えないようにするためにある日本のベンチャー企業が開発した発明品。それが世界市場を席卷し欧米などの若気の至りで刺青をしている人間を助けている。

（やっと手術の日が決まったモンな！あんなんじゃない人前には、でられないぜ）

トウマは、王都トリスタニアの武器店に旧自衛隊の64式自動小銃を10丁と弾丸10000発を納付した。

「店主！とりあえずこれを買ってくれ！1丁1ドニエだ！」

「わかりやした、旦那」

「出所は、言わないように」

クローン・ルイズを地球の国家情報局本部まで迎えに行き、ジープごと魔法学院が見える地点まで転移した。

ジープで魔法学院まで送って行き、門で別れた。

クローン・ルイズには、携帯型通信機を渡してある。

偽ルイズからの通信機のメール情報だと学院では、生徒3人と使い魔が失踪して学院の院長をはじめ教師関係者に処罰が下される噂があった。

コルベールは、責任を感じて退職。やめる際に王宮から貴族の地位を剥奪された。また、マチルダとマルトーも退職。

魔法学院長のオスマンが近々、処罰が下されようとする中、ルイズ（偽）が帰ってきた。

オスマンら教師らに今までどこへいたのかと問い合わせると、魔法も通じない、貴族・平民の身分もない世界の国にいたと。

人口、軍事力、法律、技術等を惜しげもなく正確に話した。

そしてアカデミーからルイズの姉エレオノールが学院へ来た。

「この馬鹿おチビ！今までどこに行っていたの？」

来た早々、ルイズの頬をつねろうとしたがその瞬間、合気道の技で腕をひねり上げエレオノールを制した。

「いたたたた！！！やめなさい、おチビ！！！い・・・たたた」

「これが異世界の戦闘術”合気道”です」

「おチビ！覚えときなさい！」

エレオノールは、悔しそうに言った。偽ルイズ作成の際に合気道をインプットしていた。

偽ルイズは、学院長室のエレオノール、オスマンら学院関係者に使い魔の国は、ハルケギニアを含めたこの惑星世界を滅ぼすことができる力を持っていることを力説した。ギーシュとビリエに関しては知らない。

使い魔は、その国の軍の士官学校の生徒であり、ハルケギニアのいかなる世界の人間もその世界その国には手出しすることが不可能であり彼らは、絶えず観察していると。トウマから渡された携帯DV再生機で「富士火力総合演習」を見せた。

学院室一同が、火力演習を見て恐怖にとりつかれた。オスマンは偽ルイズら学院関係者には、このことは生徒らに他言無用と申し渡した。

でもトウマに指示通り、偽ルイズはキュルケとかに喋りまくり。学院生徒ら貴族には”ニホン”という恐怖の大国の存在が噂になるのであった。性格もルイズは変わったと評判になった。偽物ですから！

偽者でも魔法は爆発するのであった。

ルイズへのミッション

トリステインのアホ姫からアルビオン行きを命じられる。(水のルビーGET)

←

ウェールズから風のルビーをアンリエッタに渡すように頼まれる。手紙回収。しかし、風のルビーは後から合流するトウマに渡す。

←

偽ルイズが結婚を認めなくて更にワールドがウェールズを殺した所で、トウマはワールドを魔法無効化を施してボコボコにする。

←

アンリエッタに手紙を渡して、後日、始祖の祈祷書をゲット。そのあとトウマに通信連絡して逃亡する。

アルビオンの始祖のオルゴールは、トウマが合法手段で手に入れる。

クローン・ルイズ。偽ルイズ、ハルケギニア帰還！！ミッション開始（後書き）

果たして成功するのか？

あんたらも転生者かYO!!! ツエルプストーリーからの手紙!

ノルデンから数々の宇宙戦艦ヤマトや鋼、国防軍のイージス空母が完成した軍港からこの惑星の他の大陸探査へと出港した。

また、衛星軌道上には、人工衛星が打ち上げてある。

人工衛星は、ロケットだけでなく、航空機やミサイルでも打ち上げが可能である。一般にアメリカ等のスペースシャトルのロケットの打ち上げとは”デモンストレーション”であって、軍事的な人工衛星は、秘密裏に航空機かミサイル方式で打ち上げている。

トウマの領地赴任と日本からノルデンへの人材、資材、軍艦等の持ち込みから一ヶ月が経ちハルケギニア大陸を含む惑星の全容が明らかになった。疑似 南北米大陸と疑似 オーストラリア 大陸がある。ハルケギニアの砂漠地帯にはエルフ生命体が確認、さらに東方には、中華的な文明と疑似 日本列島には、江戸時代を彷彿させる文明を発見。

しかしながら疑似 南北米大陸には文明はもちろん知的生命体反応がない。疑似 オーストラリア大陸は、西海岸にかすかに知的生命体を確認するが文明はない。おそらく原始時代的な生活だろうと判断された。

トウマは、軍港基地製造時に3つの能力で（知識の本棚・機械仕掛けの神・無機物創造）鋼を70隻、第四世代型超光速恒星間航行用超弩級万能宇宙戦艦エクセリオン60隻をノルデンで製造。PTのゲシュペンストmk-1000機、グルンガスト零式500機の製造。MSのZZガンダム500機、ストライクフリーダムガンダム600機を製造。仮想シュミレート訓練機を1000機製造した。

それに予備自衛官らをサイトと共にノルデンへ転移させ訓練に明けさせた。

一ヶ月の訓練後、100隻の戦艦は、疑似 南北米大陸、疑似 オーストラリア大陸を領有化するべくそれぞれのPTとMSを搭載して出港した。

そして、ある事件が起きた。

ノルデンの気候をタルブと同じ気候にしたことによって土壌と水の風のバイオリズムが順応していなくて、ハルケギニアで育った10歳にも満たない子供達が3人に一人の割合で40度の熱で倒れた。幸いなことに日本から来ている医療団とトウマの第4の力の一つの力で事なきを得て全員回復したが・・・。(。！)

マルトーの娘夫婦の子供のレーツェルの場合、どうやら祖父レーツェル・ファインシュ メッカーの転生者か記憶を受け継いだらしい。

「我を阻むものなし」

ビットーリオとアニエスの子、ハチーは、熱から回復し目覚めるなり。

「ワシが男塾塾長江田島平八で！あゝる！……！！……！！」

塾長ですか!!!!!!!!!!!!!!

ノルデンから元々いる兄弟のアダムとトムは………、

「ドモン!!!!!!!!!!」 「師匠!!!!!!!!!!」 「流派東方不敗は」 「王者の風よ」 「全新」 「系列」 「天破侠乱 見よ! 東方は赤く燃えている!!!」

流派東方不敗だ!!!!!!!!!!!!!!

流派東方不敗組は、Gガンダムは地球から転移し、マスターガンダムはトウマの能力で造った。

どいつも目覚めるなり覚えのある言葉を発していたが全員体調には異常がみられなかった。

おいおい! どうなるんだよ!!!!!!!!!!!!!!

しかし、ある事件が起こった。

ハチーとアダムとトムがノルデンの山奥に深く入りオーク鬼約50匹に出くわした。

人工衛星でオーク鬼の集団が領内に接近中との報告を受けたトウマと領内の日本国防軍のPT・MSの警備隊は、「まじかYO!」という光景を見た。

「ワシが男塾塾長江田島平八である!!!!!!!!!!!!!!」

「超級霸王電影彈!!!!!!!!!!!!!!」

「ゴッドタイプーン!!!!!!!!!!」

オーク鬼をはるかかなたまで拳足で吹っ飛ばしていた。あるものは、体に風穴をあけられ、あるものは木端微塵にされていた。10歳にも満たない子供が……。マジで本物の転生者ですか!!!!!!!!!!!!!!

後で3人に事情を訊くと無意識のうちに体が動き、気がつけばオーク鬼を倒していたとのこと。

学校の帰り道に遊んで行くうちに迷ってしまつてオーク鬼に遭遇したが、あとは覚えていない。ちなみに領内の教育は、5歳から9年間義務教育である。費用は全部こっち持ち。

タルブで文字の読み書きができる人間がいた為その人を雇って教師にしていた。

1週間後に隣接するツェルプストー辺境伯から使者が来て手紙をもたらった。

” 近々、領内同士あつて会見をもちたい ”

たしか領地の境目辺りで目立っていたMS・PT部隊のことかな？

あの3人がツエルプストー領内へぶっ飛ばしたオーク鬼の件かな？

ま！会ってみよう！

秘密結社『平民』！！！！協力組織GET！！！！伝説との出会い(前書き)

ストック先生！引用します。

秘密結社『平民』!!!! 協力組織GET!!!! 伝説との出会い

ツエルプストー辺境伯から手紙をもらったトウマ。

地下秘密基地から戦艦ハガネ 10隻でツエルプストー領の屋敷上空へ到達した。各艦搭載MS／PTは、各40機搭載。

トウマは、なにかイチャモン着けてくるに違いないと思い砲艦外交の如く、軍事力を見せつけた。

グルンガスト零式一機にトウマ、あとはMS部隊10体とPT部隊10体に日本国防軍自衛官が乗り込んで屋敷前に着陸した。もちろん全艦全機にAMF発生装置付きで！おかげで装置範囲内の魔法は使えない。

MS・PT部隊の自衛官全員には待機をさせた。彼らは、レンジャー出身の猛者であり「尖閣危機」にて暴走した中国軍と激闘を繰り広げた経験を持っている。

トウマは、グルンガスト零式のコクピットから舞空術で降りて屋敷の警備兵に自分の名前を告げた。

ツエルプストー辺境伯屋敷 会議室

そこにはツエルプストー家当主をはじめとする12名の人間がいた。

トウマは、座って挨拶をした。

「ノルデン領を任されているトウマ・ド・ヒラガです。お見知りおきを！」

「君があゝのノルデンのトウマ・ド・ヒラガか！わしはツエルプストー領の当主だ！」

「実は君が取り扱っている品物を我々ギルドで取引したい」

「お安いご用です」

当主の隣にいた男達が、発言した。

「私は、エルネスト・ラファエル・ゲバラ・デ・ラ・セルナ。『平民』の最高評議決定機関の最高責任者だ」

「私は、アムロ・レイ」

「私は、シャア・アズナブル」

「私は、キラ・ヤマト」

「私は、シン・アスカ」

「私は、イングラム・プリスケン」

「私は、ギリアム・イエーガー」

「私は、水無瀬 大鉄」

「私は、ビアン・ゾルダーク」

「私は、レナンジェス・スターロード」

「私は、イルムガルト・カザハラ」

「以上が12人の『平民』のマスター達だ」

ツェルプストー家当主は、500年前にこの『平民』の組織が地球とハルケギニアを行き来できる人間によって造られた組織で、創始者はノストラダムスと名乗る男である。隣のヴァリエール領から逃げ出した所をツェルプストー家によって保護していた。

地球世界で放浪している所を当時のヴァリエール家の人間に呼び出されたのはいいが、平民だから虐待されツェルプストー領へと逃げて来た。そしてここで『平民』という組織を造った。また、地球とハルカギニアを行き来できる力やハルケギニアの精霊や神と交信できたり預言などをしていた。

また、『平民』のメンバーの中にもサンジェルマン伯爵、カリオストロ伯爵など地球出身で異世界間移動ができ、それによってゲルマニアで爵位を持っていた者もいた。

歴史上のメンバーもいるじゃん！ていうかなんでガンダムシリーズやスパロボOGシリーズのキャラの名前を名乗る人間がいるんだ？

「我々『平民』は、商人ギルドの元締だ。ハルケギニアの平民の相助組織だよ。残酷で愚かな貴族から虐げられている平民を守る組織だね。時には神官を動かして平民の盾とし、有能で良き貴族が治めているとみれば開拓民を誘致する。そのほか、情報を共有して商売を有利にすすめたりしている」

「それにここにいる大半のメンバーは、どれも地球世界から流れて来たり生まれ変わったたりしていた人間達だ」

「地球から来るまではお互い敵だったり味方だったりする者が多い」

「しかし、このハルケギニアの社会現状をみてなんとかしないといけないと立ちあがった同志さ！地球であった過去のわだかまりを捨て一致団結しているのさ」

「私は、ボリビアという地で戦死したと思っていたのだが、気がついてみるとゲルマニアの平民の家に生まれて来たのだよ」とエルネストが言った。

「あの〜エルネストさんて！チェ・ゲバラって呼ばれていませんか？」

「地球で皆にそう呼ばれていたね。君は日本人か！日本はいい国だ。広島で米軍によって殺された広島の人達の冥福を祈ったこともあるね」

「アムロさんやシャアさんは、転生者じゃなく転移者ですか？」

「そうだね。僕たちは地球世界で敵同士だったけど、戦闘中に別々にハルケギニアへ飛ばされたんだ。そしてまた、シャアと出会ったわけさ」

「我々の活動は商業活動を通じて経済的に実権を握り、徐々に平民の地位を上げることなんだ。そして、創業時のメンバーには、君のように異世界を自由に行き来したと伝説が残っている。また、この

世界に偶然迷い込む『渡り人』を保護し、その知識を活用している。メンバーの中には地球の言語を習得している者もいる」

「そうなんですか！ いや！ すばらしい組織ですね是非とも協力させてください」

「君は今日から『平民』のメンバーを認めたいのだからいいのかね？」

「お願いします。こうハルケギニアでアンチ貴族・アンチブリミル体制の協力者が欲しいと思っていました。それに私は、実はもう一つの肩書を持っているのです」

「それは、何だね」

「日本国首相補佐官です。そして日本国ハルケギニア方面開拓領有
コマンダー・イン・チーフ
軍 最高指揮官です」

「では、異世界の政府国家の役人なのかね？」

「そうです」

「そうなのは是非とも我が組織のギルドを参入することを承諾してもいいだろうか？」

「もちろんです。それと私が地球から持ってきた物資を買い取っていただきますでしょうか？ それと苛政で苦しむ平民や流民をこちらの領にもよこしてください」

こうしてハルケギニアで日本国の協力組織と接触し盟約を誓ったのであった。

秘密結社『平民』！！！！協力組織GET！！！！伝説との出会い（後書き）

ストック先生！ちょっとパクリましたんで！

クローン・ルイズ作戦開始!! (前書き)

使い魔を呼び出していないのは、現在の所、改変後ビットリオのみ! さて何がでるかな?

偽ルイズへのミッションは、始祖の祈禱書ゲットまで。それを手に入れたらトンズラ。

クローン・ルイズ作戦開始!!

ハルケギニアで協力組織と接触したトウマ。領内には、『平民』からの斡旋で移住した人たちが100名位到着した。どれもやせ細っていて栄養状態が悪い。すぐさま健康診断を受けさせて病気・怪我なら治療をし、住居と食べ物と衣服を用意した。

まずは、過去に週刊少年「マガジン」で連載していた「SHOGUN」の知識を引用した。ベトナムのボート難民を支援する方法を取り入れた。後にこの技法が、ハルケギニアの暗黒貴族社会を打ち砕く源流になるのであった。

風石の暴走に関しては、クロガネ10隻を造り火竜山脈の地下でAMF発生装置で魔力を無効化して暴走を止めている。これは、作業用ドロイドに任せている。

この惑星は、衛星探査の結果、なんらかのエネルギーで疑似アフリカ大陸が紛失していることが分かった。疑似南極大陸はある!

(この大陸も領有化しよう。対寒冷装備をきちんとして……!)

日本国は、東方の国と通商条約を結んだ。疑似日本列島が扶桑帝国、砂漠地帯より東の大陸は大和帝国である。二国共立憲君主制の国家。ルーツは、なんでも地球世界日本国が縄文時代から神隠しや仙術による転移にて「東方」ロバ・アル・カリイエへ日本民族が建国していた。

大和帝国は神武天皇以前の日本に存在した王朝の流れを組み、扶桑

帝国は室町時代の南朝の天皇の王朝の流れを組んでいることが確認された。日本が戦国時代と同じころに扶桑帝国と大和帝国が戦争をしたが、10年にもわたる戦争で和睦をした。

地球世界日本から伝来した鉄砲と大砲で多くの死傷者が続出。結果的に両国共厭戦気分となった。それ以降、地球世界日本とは行き来しない条約を結んだ。

大和帝国と扶桑帝国は、貴族はあるが特権はなくハルケギニアのよきな身分差別はない。ここは、陰陽術・道教・仙術の呪術があり、科学技術は明治時代と同じである。その2大国には、人間だけでなく天狗、河童、鬼等も妖怪達も共存共栄している。

我が国日本国とは、行き来できる能力を持っている部族がいるとのこと。これらの接触で科学的にも異世界間ゲート装置があと半年で完成し量産体制に入るのであった。

（原作・サイトの奴もアホじゃ！やっぱ地理・歴史に精通してないとかかんわ！トリスティンは、ベルギーとオランダを合わせた国だろゲルマニアかガリアを抜けてサハラを超えていけばゴールなのに！原作・サイトも日教組教育の犠牲者だね）

また、砂漠の民エルフの一部族「ネフテス」とも接触したが、交易はするが友好条約に関しては全部族の評議会で検討すること。政治体制は、アラブ首長国連邦と同じ。エルフの中でも身分制度はある。でもハルケギニア程ではなかった。

上空に7km級の宇宙戦艦エクセリヲンを2隻浮かべたらビビるわな！基本は、砲艦外交ですよ。トウマのやり方に「平和的」でないとの意見もあったが、トウマはアメリカで培ったディベート（討論）で相手を打ち負かした。

暴力以外の手段、それは暴力也。中世政治形態の社会と接触するときの基本であった。日教組教育を受けた日本人、甘いぜ！

「尖閣危機」で憲法改正、国家情報局の設置で日教組の実態が明るみになり日教組が反日国家とつながっていたことで問題となり解体された。

トリステイン魔法学院を監視している衛星情報からアホ姫が到着したとのこと、その夜に偽ルイズと接触がありアルビオンへ手紙を回収するように命令を受けた。トウマはルイズからのメール連絡で歩国を受け、ラ・ロシェールで合流すると返信した。

ようやく動いたか、ワルドを殺すか！いや！貴族に絶望を！！！！！！
そして放置を！！！！！！

ノルデンの屋敷にいたトウマは、貴族のマントを着け杖とデルフリンガーを持って背広のスーツ姿で消えた。4つとも入れ墨は、地球で最新式の疑似皮膚で隠していた。

トウマはラ・ロシェールに着くなり船便の確認をした。どうやらかなり遅れるそうだ。そこでこの町最高級のホテルでチェックインしてベッドで横になった。

夕食時になり食堂へ行くと他の貴族の中にピンク頭の偽ルイズ、髭の男を見つけた。トウマは、髭の男の側へいった。

「お初にお目にかかります。私、ゲルマニアのノルデンで領地を持つているトウマ・ド・ヒラガと申します。彼の有名なトリステイン王国魔法衛士隊隊長ジャン・ジャック・フランシス・ド・ワルド殿ですね」

「これは、これは・・・」

「子爵！これから色々と期待しています」

トウマはそう言うなり空いているテーブルに座った。ワルドに声をかけたのはレコン・キスタのメンバーと思わせる作戦である。

アルビオン大陸がラ・ロシェールへ近づき、船が出港することになった。アルビオンは内戦中なので硫黄等の荷物を積んでいる船である。

これってウェールズが扮する海賊船に拿捕されるんだよね。そこへワルドと偽ルイズが乗り込んできた。恰好は、どこかの商人の格好である。トウマはマントに杖を持っている貴族姿だけど。

出港した船からラ・ロシェールの街を見た！世界樹の木に船が浮かんでいるよ！芸術だ！！！！！！

甲板で・・・

世界の始まりの日♪命の木の下で♪クジラ達の・・・

しばらくすると海賊船が現れた。原作・2次作定番通りの状況になった。

甲板にはトウマ、ワールド、偽ルイズの他に船長と船員、海賊達

マントを付けているトウマに目を着けた海賊の頭が

「ほお！こりゃ貴族もいるのか！貴族が剣をとまあ珍しい。インテリジェンスソードか」

「はじめまして、アルビオン王国ウェールズ・テューダー皇太子。私は、ゲルマニアのトウマ・ド・ヒラガと申します。お見知りおきを」

「ほう！なんで変装を見破ったんだ？」

「ズラずれていますよ！」

「私はアルビオン王立空軍大将、本国艦隊司令長官・・・、本国艦隊といっても、すでに本艦『イーグル』号しか存在しない、無力な艦隊だね。まあ、その肩書きよりこちらのほうが通りがいいだろう」

そう言って変装をとくウェールズは威風堂々、名乗った。

「アルビオン王国皇太子、ウェールズ・テューダーだ」

「ウェールズ皇太子、私は領地経営の他にも債権回収業を営んでおりまして！他のギルドから借りたお金を耳をそろえて返してもらいましょう」

トウマは、『平民』のギルドから買った証文をウェールズに突き付けた。

「申し訳ない、今は我々には手持ちがないんだ」

「は！なんですか！！借りた物はちゃんと返すのが王としての道でしょ！」

「じゃ！アルビオン王家は借りた物を返せないほどみじめな状況なので戦争に負け、やけっぱちになり自爆をした！ってハルケギニアやロバ・アル・カリイエ中の笑い物になりますよ！」

ウェールズは、トウマの胸倉をつかみ杖を突き付けた。トウマは、魔法無効化粒子を皮膚の表面に付着させた。ブレイドやマジック・アローの他、あらゆる魔法を消滅できるのである。本格的に発動させると船が落ちるためコントロールをした。魔法無効化粒子は、透明である。

「貴様・・・・・・・・！！！」

「じゃあどうするんですか？」

「・・・・・・・・？！・・・・・・・・」

「では、この証文通りアルビオンの王家の財宝を差し押さえますので、それでお互いに手を打ちましょう」

「解った」

偽ルイズ一行もウェールズと予定通り事を進んだ。

海賊船に乗った一行は、ニューカッスル城に向かった。

クローン・ルイズ作戦開始!! (後書き)

秘宝を盗むより合法かな？

偽ルイズ、ミッション完了!!!!!! しかし・・・、

ニューカッスル城へと着いたトウマは、城の宝物庫を物色していた。金貨など一つもなく古そうな骨董品ばかりであった。その中に一つのオルゴールを見つけた。

「それは”始祖のオルゴール”と呼ばれていて何の音もならないのだよ。後はがらくたの集まりなんだ」

「”始祖のオルゴール”ですか！これをいただきましょう」

「後も好きにしたまえヒラガ伯」

そう言うなりウェールズと護衛の者は立ち去って行った。

オルゴールは、”王の財宝”に保管！一つGET!!!!!!!!!!!!!!

後は、偽ルイズが予定通りに風のルビーを手に入れていく算段だ。

夕方、ニューカッスル城で予定通り宴会が行われた。晩餐会にはトウマ、ワルド、偽ルイズが客人と呼ばれていた。明日、貴族派の総攻撃が行われるそうだ。

トウマは、今までの計画は見殺しにしようと思ったが、虐めを見て

見ぬふりをしている気がして気が変わった。

（地球へ城ごと転移放置でいいんじゃない！ワルドはあの地球の聖地に！）

偽ルイズは、風のルビーをウェールズからGETしたようだ。アホ姫に届けてくれと・・・。

宴会が、最高に盛り上がった所でトウマはワルドに話があるとベラ نداへ誘った。

「何の用で？ヒラガ伯？」

トウマは、ワルドと一緒に中東の街中へ転移した。

「ようこそ！地獄と絶望の世界へ！」

慌てたワルドが辺りを見渡すとトウマの姿はなく、ハルケギニアにはない街並と異なった服装の人で溢れていた。

ワルドを中東のさる聖地に転移したトウマは、ニューカッスル城中の人間ごと瀬戸内海のさる無人島に転移させた。日本も夜だった。

「ルイズを回収して行こう」

城の宴会場へ行くとドンチャン騒ぎの大パレードだった。

「客人にもっと酌を！」

「酒より舌の滴るはちみつを塗った七面鳥焼を！」

「じゃ！いただきます」

トウマは普段酒を飲まないのだが、断るにも断れないので飲んだ。周りの王侯貴族達は、もうできているし！この城が転移して魔法が使えないことに気がつかない。MAZIDE酔っぱらっていますから。あ！あの貴族は、裸踊りしている……。

マジでやばい！酒を普段飲んでいないトウマは、すぐに顔が赤くなった。まわりは、もっと飲めとおおる……。この日ほど、自分が酒に弱い自分を恨んだことはない。事前に酔い止め薬を用意していなかったのが不覚である。

しかしこれが予期せぬ事態に！柵から牡丹餅になるとは思いもよらなかった。

宴会が終盤に差し掛かりトウマは、偽ルイズに風のルビーと手紙を確保したことを確認した。そして、廊下へ出てハルケギニアのノルデン領屋敷へと転移しようとしたが、酒を飲んで意識操作がうまくいかず、着いた先がみたこともない場所であった。

時の狭間へ転移!!!!ヴァリヤードとの再会!! (前書き)

ストック先生、お借りします。

時の狭間へ転移！！！！ヴァリヤードとの再会！！

日本の瀬戸内海の無人島ヘニューカッスル城を転移させたトウマは、ハルケギニアへ帰るべく偽ルイズを確保して転移した。

しかし、到着した先はみたこともない不毛の大地であり亜空間の空が広がっていた。辺りは薄暗く、岩山が続いている。

「変な所へ転移したな！」

「マスター、ここはどこですか」

「やべえなここどこだ！地球でもハルケギニアでもない」

トウマはまだ酔いが醒めていないので座っていると、目の前に白い影が出現し、突然声が響いた。

「久しぶりだな！よくこの空間を見つけたな」

「だれだ！！！！？」

白い影はいったん拡散して人型になった。トウマが転生するときに出会った”神”だ！

その名もヴァリヤード。

今回の姿もラマ僧的な姿だった。

「ここって何処っすか？」

「ここは、あのブリミルが時の狭間に閉じ込めた大陸アトランティ

ス」

「マスター……??!?!?!」

「心配するな」

「ついてこい。お前に見せたいものがある」とヴァリヤークが案内した。

しばらく歩いていくと巨大な塔が見えてきた。そしてその周りには光のオーブが無数に漂っていた。

(あ! 神様だ????!?!?!)

(神よ……!)

(神様……御助けを……!)

「あの建物は何だ? それにあのオーブ生命体は?」

「地球へ渡った我が最後の技術を結集して作った、世界を渡る塔、どこの地で死んでいった人間達だ。あの塔以外はヴァリヤークが築いた文明はすべてこの地で滅び去った」

「どういうことだ?」

「塔の中の、知識の部屋に入るがいい。我等がヴァリヤーク族の歴史を知ることができる。また、我等もお前のことを知ることができる」

きる」

日本 瀬戸内海 海上保安庁巡視船

「あの島に城なんかあったのか？」

「本部に連絡だ！」

巡視船が近ずくと矢が射かけられるので、国防海軍の特別警備隊（SBU）が出動して全300人が射殺・逮捕された。ウェールズは、抵抗して銃撃を受けたが、国防軍施設で療養して松山の捕虜収容施設に過ごし地球世界に來たアンリエッタと再会するのであった。

今現在、日本におけるハルケギニア世界の国関係は、東方の「大和帝国」「扶桑帝国」「エルフ合衆国」とは良好である。

「大和帝国」「扶桑帝国」「エルフ合衆国」は、ゲルマニアのノルデン領を通して日本と交易している。

狭間の大陸の塔の中、知識部屋にてトウマは瞑想しヴァリヤークとシンクロしていた。外には、偽ルイズがいる。

トウマは、ヴァリヤークとハルケギニアと地球の歴史を知った。

1万2000年前、地球へ大異変が起き滅亡寸前の所を異空間ゲー

トを開き、ハルケギニア世界がある惑星へと降り立った。場所はアトランティス大陸。

逃れて来たヴァリヤグと呼ばれるリーダーでもあり科学者は、エルフ等の亜人・幻獣を創造し、魔法が使える種族を造った。

やがてヴァリヤグは、死に後に神として祭られ行くことになる。そのおかげでヴァリヤグの魂は、神にまで昇格した。その民族はヴァリヤグ族と呼ばれるようになる。

時が経ち魔法が使える種族がアトランティス大陸からハルケギニア大陸へと逃亡した、時が経つにつれて数を増しハルケギニアでマギ族と名乗り幻獣・亜人に害をなす危険な存在になっていた。

それを見かねたヴァリヤグ族の当局は討伐隊を編成して駆除をした。ヴァリヤグ族は、エルフ等の亜人と共生して共に文明を築いていこうとしていた。

ある時、ハルケギニアでニダペリーヌという村のマギ族に救世主となる天才が現れた。

ハルケギニア人に神と崇められるプリミル・ル・ルミル・ニダペリーヌの誕生である。

彼は、虚無魔法を発明して様々な術式を完成した。

そして、3人のしもべを従えてアトランティス大陸をヴァリヤグ族ごと地球世界へ送り返すのであった。

ブリミルが呪文を唱える。3人の使い魔が精霊の力を集める。それは世界の一部を切り取るという、大きく自然の摂理に反する行為。

虚無魔法は、大自然の精霊力を消費する魔法。

大自然の精霊力の枯渇により生命力を失い、どんどん倒れていくエルフ族。

最後の力を振り絞り、エルフの長老が苦しむすべての亜人の姿をエルフの娘の前に魔法により映し出した。

瀕死のエルフ族の姿をみて術をとめるため、エルフの娘は究極魔法を使っているブリミルの胸を持っている剣で突き刺した。エルフの娘も精霊力が尽きて亡くなった。

儀式の途中だったので、地球世界に渡ることができなかったアトランティス大陸。異次元の狭間に閉じ込められた。

閉じ込められたヴァリヤグ族は200年の年月をかけて、この塔を建設し地球世界へ渡り中央アジアへと移り住みシュメール文明を起こした。

もしきちんと地球世界へ大陸が転移したのなら大西洋へ転移した。

プラトンは、ヴァリヤグ族の末裔でありはるか昔の伝承から推測してアトランティス伝説を広めたのであった。

アトランティス大陸にもマジ族が少数いた。ヨーロッパ大陸の呪術を確立し国々を裏から操作していたりしたが、2000年前にイヌマエル、後のイエス・キリストと言われる神の力を持つ男に地球世界の魔法・呪術などが使用不要となった。

古代ヨーロッパに存在していたドルイド教もマジ族の教義である。なおヨーロッパの中世貴族や黒い貴族と呼ばれる中にもマジ族の血が混じっているのである。

この異次元の狭間で亡くなったヴァリヤグ族や動植物の魂は、今

もなおさまよい続けている。狭間の世界に封印されたアトランティス大陸では、魂は輪廻転生の輪に戻ることが出来なかった。

だからこそトウマに聖戦を依頼したのだった。

そしてハルケギニア世界に召喚したアトランティス大陸を使って、マギ族から支配されているヴァリヤーグ族、『平民』を救ってくれと！

神となったヴァリヤーグは弟子のフォルサテに憑依して、6000年後のハルケギニア世界の精霊の暴走を予見して、アトランティス大陸を召喚して聖戦を達成することとなったのであった。

逆にブリミルの魂は、サーシャに刺されたデルフリンガーに封印されている。

情報交換が終わった後、トウマと偽ルイズは塔の中の渡りの間に案内された。ここは地球世界へ帰れる間である。トウマは、能力の異空間転移で帰れるのだがヴァリヤーグがここからでも帰れると言い興味を持った。

「酔いを覚ましてくれてありがとうございます。まさに柵から牡丹餅ですね。この大陸は、我が日本国が領有しますのでよろしくです」

「構わんよ！日本人にもシュメール人、ヴァリヤーグ族の血が入っているからの！」

「その学説は聞いたことがありますね」

「じゃまた、日本の政府機関を連れて来ますんで、よろしく願います」

「後は、この地で死んだ者達が相手になるから塔の中にも対魔法戦のアイテムがあるいろいろな知識の間があるからの！わしはここま
でじゃ」

「それじゃ」

二人は地球世界へと帰っていった。ゲートアウトした場所は、中央アジアであった。

「さて、転移」

偽ルイズ、始祖の祈禱書をGET!!! 偽ルイズ、ルースと改名

トウマと偽ルイズは、時の狭間から地球世界へ転移してまた、王都トリスタニアへ転移した。

「じゃ風のルビーは、こちらのほうで預かっておく。その手紙をア
ンリエッタに渡せ! そのあと魔法学院へ帰還し、学院長から始祖の
祈禱書が渡される。それを手に入れたら連絡を入れる。回収する」

「ウェールズは、城ごと光に包まれて消滅したことにしろ」

「マスター、そのあとの私の処置は?」

「顔と名前を変えて、俺の秘書になってもらおう」

「了解、マスター」

偽ルイズは、そう言うなり王宮へと歩いていった。

首相官邸の自室へ転移したトウマは、桜木首相にアトランティス大陸の存在とヴァリヤーグ族とマギ族のあらし等を語り、大陸の領有化を進言した。それに桜木には、乗り気だった。

桜木首相の行動は、早かった。国防大臣に電話をして一個師団を編成するように電話をした。

一週間後にトウマとサイトの転移の力で一個師団の他、筑波のマッ

ドな科学者や市井の学界から追われた鼻つまみのマッドな科学者が塔を中心に活動をしていた。

アトランティス大陸は、アフリカ大陸と同等の大きさでレアメタルや石油等の資源の宝庫であった。また、塔の知識の間のテクノロジ―でAMF発生装置やスプリガンのオリハルコンアーマードマッスルスーツの開発が容易になった。

いつも通りにトウマは、首相官邸の自室で事務作業、ノルデンの屋敷で領地経営に勤しんでいた。『平民』ギルドから派遣されたドットの土系統の平民メイジに水銀を使って錬金をしたところ、黄金が生成した。

また、ノルデン領内には、翼人等の亜人もいて決して差別・迫害をしない共存共栄方向でやっている。しかし知性がないオーク鬼やトロール鬼、コボルトは処罰対象になっている。理性と意思が通じない種族じゃ無理だね。

精霊魔法の錬金できる亜人達にも水銀を錬金して金を生成してもらった。その金が、日本の景気をバブル絶頂期を再頼させ史上空前の超高景気にするのであった。

水銀は、ハルケギニアや日本にもたくさん存在する。それを金に変えて地球へもっていくのであった。ちなみに錬金した金の純度は100%。

それらの金で、ハルケギニア世界における大陸の領有化を認める代わりにアメリカの赤字財政を解消と債務をチャラにしまったのである。また、中国とロシアにも大量の金とトウマのチート能力で作成した宇宙戦艦を首都上空で出現させて認めさせた。

外交は、砲艦外交なのだよ。

ゲルマニアとトリステインの同盟の発表で、皇帝の元にアホ姫が嫁ぐとのこと！偽ルイズに結婚式の巫女を依頼し始祖の祈祷書を渡した。

偽ルイズからのメール連絡によって始祖の祈祷書が手に入ったと連絡があった。

トウマは早朝、魔法学院中庭に転移して偽ルイズを回収。時の狭間にあるアトランティス大陸の塔へ二人とも転移した。

その知識の間に偽ルイズは、入った。水のルビーをはめて祈祷書をめくる偽ルイズ。

うっすらと文字のようなものが浮かんでくる。

偽ルイズは、虚無に覚醒。そのあと偽ルイズは、整形をして顔を別人に変え、名前をルース。日本名を平賀ルースと改名し、トウマの秘書兼スタッフとして働くのであった。

本物のルイズは、サイトの手で魔法学院のはずれで転移解放されるのであった。

魔法学院へ帰ったルイズは、日本での出来事や科学力・軍事力などをつぶさに学院長へ報告した。日本側は情報をルイズに教える際には、ノルデンのことは伏せておいた。

「ニホンに逆らっても、絶対に勝てません。戦っても、犬死にさせられるだけです。あの国の力をもってすれば、たとえ『全盛期の烈風カリン』が百万人いたとしても、鎧袖一触なのです。そんなことになるくらいなら、犬死にするくらいなら、『命ある限り望みあり』という、古来の格言に賭けてみたほうが、良いと思います。」

日本でいろんなことを見て来たルイズは、ハルケギニアが”チェツクメイト”だということを認識していた。自分が信じて来たものがまやかしのものであったことなど・・・もうすぐ貴族とブリミル教の滅びの時が来るのだとおびえていた。

偽ルイズ、始祖の祈禱書をGET!!! 偽ルイズ、ルースと改名（後書き）

カルチャーショックを受けた本物に言わせました。

タルブ戦役！！！みなごろし！

ルイズは、自分がいなかった時の偽ルイズの行動を聞かされた。そして使い魔とギーシュの決闘から今までの日本でどのような生活を送ってきたのかつぶさに学院長に話した。

サイトによる地球放置から当局による拘束、日本語の習得と数学の勉強、日本の軍事力の映像観賞などカルチャーショックの連続であった。そして日本がハルケニアの貴族制度とブリミル体制を消滅させることを目的に他の大陸を領有化しようとしていることなど・・。

オスマンは、ルイズにはこのことはしゃべらないように勧告した。

また、学院生活の中でもまたルイズは、変わったと言われていた。

数日後アルビオンのレコン・キスタが神聖アルビオン共和国を名乗った。そしてトリステインとゲルマニアに不可侵条約を打診。両国はそれを受諾した。

常時、衛星からアルビオンの動きを監視している。原作通りにタルブへ進軍するはずだ。金で村人と動産とブドウ畑・お墓等の不動産をノルデンへ転移させた。これで予定どおりに大暴れできる。スーパーサイヤ人5に超化して滅ぼすことも可能だが、ここはグルンガスト一機で対応しよう。奴らに科学の力を見せつけておいたほ

「ファイナルビーム!!!!!!!!!!!!!!」

「ぎゃあああああああああ!!!!!!!! たすけてくれ!!!!!!!!!!」

「わっはっはっはあああああああ!!!!!!!!!!!!!! 始祖よ!!!!!!!!!!
!!!!!! ぎゃあああああ」

「ええい悪魔よ!!!!!!!!!!!!!! 魔法は・わあああああああ
あ!!!!!!!!!!!!!!」

「だれでもいいからこの夢を終わらせてくれ!!!!!!!!!!!!!!」

「魔法が!!!!!!!!!!!!!! ぎゃあああああああ!!!!!!!!!!!!!!」

まさに阿鼻叫喚の地獄であった。トウマが以前に訪れて眺めた美し
きタルブの平原は地獄と化しているのである。

文字どうり! 『みなごろし』 であった。

あとは、クソ共に任せよう!

「全機帰還する」

「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「」

トリステイン軍到着

アンリエッタのお供をしていたルイズは、日本での総合火力演習を思い出した。

（この国も！貴族も！終わりね！）

グルンガストとMS部隊によるアルビオン軍の壊滅、いや”大虐殺”と言っても過言ではないだろう。

”大虐殺”が終わりグルンガストからウィングガストが変形し飛び立って行くのを見て

「おお！あれこそが伝説のフェニックスだ！！」

次々と歓声を上げていた。

しかし、ルイズだけは冷ややかな目で見ていた。

ティファとマチルダへのプレゼント!!!!家族って大切だね!

タルブで壊滅したアルビオン軍。残りの残党はトリステイン軍によつて一掃させられた。

ルイズは、王宮へと帰還したアホ姫や父の派閥の貴族達にアルビオン軍を壊滅に導いた兵器の事や異世界地球での出来事等を国力、軍事力等をつぶさに話した。

しかし、奴らは元来頭が悪いせいか頓珍漢な解釈をするのであった。

（駄目だ！姫様を筆頭にどの貴族もあの国の恐ろしさが分かっていない。もうこの国は終わりね。あゝあ、ニホンの牛丼食べたいな！吉野家の牛丼！漫画も読みたい！パソコン等のゲームもしたい！そんなのここには全然ない！ハルケギニアが！貴族がこんなにも頭が悪く酷かったなんて改めて実感できたわ）

タルブで謎の兵器でアルビオン軍が壊滅したことをトリステインは自分たちの軍で勝ちを拾ったと”解釈”をした。それによりゲルマニアと同盟は結ぶけど婚姻の話は白紙になった。皇帝のほうも婚姻には乗り気ではなかった。

そのことで始祖の祈祷書が偽ルイズによって盗難されたことは、うやむやになった。

ルイズから地球での事の顛末を聞いたオスマンは、もはやなすすべがなかった。魔法学院の院長など実権がないお飾りである。

実家に帰ったルイズは、姉から偽ルイズの所業を聞かされて頬をつねられるのであった。父の公爵にニホンのことを詳しく説明した。日本から持ってきたDVD再生機で『富士総合火力演習』『核兵器特集』『国防軍特集』をみんなに見せた。さすがに公爵の場合、恐怖にさいなまれていた。母親のカリーヌは、メイジの行く末を絶望していた。

タルブ戦役が終わり、3つの能力で大雷凰を製造した。第3次スーパーロボット大戦のキャラクター、カノウ・トウマの搭乗機だ！

大雷凰

形式番号 D G G - X A M 3 C

生産形態 平賀闘馬 専用機

全高 53.8 m

武装 ハーケンインパルス・ドライブ
カウンスタースパイク・チャージ

プラズマスパイラル・ダイブ
ライジングメテオ・インフェルノ

必殺技 神雷

ダイレクト・モーション・リンク、AMF発生装置、
異空間ゲート装置、ハイパージャマー、バリア・フィールド ナノ
マシンユニット 搭載

ティファは、領内の児童託児所で働いている。当初村人は、エルフだから怖がっていたが、日本から来た家族の子供や日本軍との交流、領内の街づくりに雇用されている翼人やエルフ等の亜人との交流等で領内の人気者になっている。

日本で勉強中のマチルダが、ティファの様子が見たいとハルケギニアに一時帰省を日本当局に申し出た。トウマは、快く受け彼女と軍・民間物資と人材と共に立川基地からノルデンへと転移した。

「あんたには、なんて礼をいってよいのやら。地球じゃ魔法は通じないけど科学は発達しているしどれも驚かせられるばかりだよ」

「そう言ってくれるとありがたいな。実はティファとマチルダにプレゼントがあるんだ。二人で夕方に俺の執務室まで来てくれ」

「なんだい！プレゼントって？」

「ティファが俺に与えていた能力の搾りかすみみたいなものだ！」

「・・・て、なんなのさ？」

「あとでのお楽しみ」

トウマとルースが書類整理とパソコン作業をしているところで執務室にティファとマチルダが来た。

「よし、始めるぜ二人とも！」

FFのフェニックスを召喚！

・・・・・・・・・・・・・・・・クエエエエエ！！！！！！！！

「なんだい！」

「フェニックス、この二人の父親と母親の魂を現世へ導き、肉体の再構成を。できるな？」

・・・コクッ！

まだ、親たちは転生はしていなかった。

「よし、『転生の炎』！！」

炎の中から4体の男女が現れて倒れていた。

「う・・・・・・・・！？」

成功だ！

「フェニックス、ありがとうな！」

・・クエ！

「お父様、お母様！？」

「あ！？！！お父様・・！！？お母・・様！！」

「よし、運ぶぞ！客人の間だ！ベッドに寝かそう。ルース、ベッドを用意してくれ」

「了解！ボス」

トウマは『念力』で4人を浮遊させた。

「杖なしで・・・！！？」

「ティファからもらった能力と地球の気功術鍛錬による成果だ！」

「正直、信じられないね・・・?!」

「現に生き返らせたじゃないか！」

「トウマ、ありがとう　グシュン！？」

二人とも手を口に押さえて泣いていた。

「あとは、目覚めるまでここにいて二人とも両親と色々話し合ってくれ。話し合ったら執務室まで来てくれ」

全く！女の涙に弱いぜ。

しばらくすると、執務室にティファとマチルダ、二人の親たちが入ってきた。

「このたびは私たちと家臣の親子がお世話になった。なんと礼をいってよいのか・・・！」

「人として当たり前のことをしただけですよ」

タルブで大量虐殺をしておいて抜け抜けと”人として”って言えるねえ！

「これからの生活は、この屋敷を使ってください。申しおくれましたが、ゲルマニアで貴族業を営んでいるトウマ・ド・ヒラガと申します。又、日本国首相補佐官 平賀闘馬 と申します」

「私は、元アルビオン大公のチャールズ オブ モード。妻のシャルと家臣のサウスゴータです」

「お初にお目にかかります。マチルダの父親であるヘンリー オブ サウスゴータです。娘共々お世話になりました」

「みなさんは、この屋敷で住んでください。屋敷を一から作り直した時に余計に多く部屋を造ってしまったんです」

「ありがとうございます」

「メシ食いにいきませんか！みなさんで我が世界へ案内しましょう」

一人は、日本人。後6人は異様な外人という集団が東京の繁華街を歩いていた。

「焼き肉っておいしいわ姉さん」

「そうだろティファ」

「マチルダは、通になったな。俺の知らない名店を知っているなんて」

「すべてのことには、情報収集が基本なのさ」

「しかし、異世界があるとは……」

「魔法は発動しないけど、我々は科学が発達し空より高い宇宙へ進出していますよ」

マチルダは、また日本で研修が残っているので地球に滞在し、トウマはティファ達をノルデンの屋敷へと送って行った。

キュルケと婚約、ガリア王家フラグ発動！！！女難の始まり？

ティファとマチルダ親子を地球へと案内したトウマ。マチルダの親父ヘンリーは、土のメイジの為、金を生成する工場へ働くことになった。スクウェアアクラスだから数年後に工場長へ抜擢されるのであった。

元モード大公は、執事をする事となる。シャジャルは、ティファと同じ託児所で働くこととなった。マチルダ母は、屋敷の使用人として。

いいのかよ、王族を下僕において！

三国志の諸葛孔明が南蛮制圧の際に取った戦略、「心を攻めるは上策なり、城を攻めるは下策なり」

ハルケギニアを武力で制圧しても後々に禍根が残る。また、大衆的に魔法を無効化する手段が確立していないまま戦争に突入しても泥沼化する。

あと数カ月で地球・ハルケギニアの異世界間ゲート、通信の確立ができる予定。そうなれば今までトウマ・サイトで定期的に往復している人材・物資が必要な時以上に大量に賄える。

確かにトウマの能力でAMF発生装置と異世界間ゲート装置などは、作成できるが！それらの技術を日本の”筑波”等のマッドが確立したり、大量生産する工場の設立には数年時間がかかる。しかし、アランティス大陸の”塔”の知識の部屋を通してAMF発生装置と

ゲートを作成するのは、あと数カ月で完成する。

トウマは、精神力は無尽蔵だけれども疲労するので一人では限度があるのである。サイトは、精神力が無尽蔵ではない。それが日本の欠点である。

太平洋戦争において日本がジェット機などの新兵器を大量生産できるレベルにたっしていればアメリカに勝っていたかもしれないとさる歴史学者はいつていた。

今の状況は、アトランティス大陸と日本国防軍駐屯地間のゲートはあるが、ハルケギニアと地球とのゲートはない。それも数カ月で解決できる。

トウマ・サイトで宇宙戦艦や国防軍の戦闘艦を3つの疑似大陸へ進出・開拓させた。疑似 北アメリカ大陸をエデン大陸、疑似 南アメリカ大陸をエルドラド大陸、疑似 オーストラリア大陸を瑞穂大陸と命名。

この惑星を”テラ”と命名。

そして日本では多くの人材を必要になり失業率0%を醸し出した。また、ホームレス問題も解決して個人や法人が抱えている借金も国が立て替えることになった。

アトランティス大陸をハルケギニアに召喚した時点でマスコミや各国に発表する。

桜木首相ら政策スタッフチームは、完璧な領有化ができていないのに公表するのは愚の骨頂と判断。また、地球各国のアメリカには、金で債務を買い取りチャラにする代わりに領有化を認めてもらうこととその為の首脳会談にワシントンへ行く際には7km級の宇宙戦艦で行くことになるのであった。

ロシア、中国にも宇宙戦艦のでかさを見せつける予定である。

『金』を市場にばらまくことによって一時は、金の暴落があるが！地球統一政府をつくるのにどの各国や組織もイニシアチブを取るのに『金』が必要である。だから金本位制1g10万前後の時代が来る。

日本がハルケギニアのノルデンで金を生成しているのは、現在トップシークレット。ネット上には、日本が異世界の大陸を占拠していると噂がある。

今現在の地球日本とハルケギニア・ノルデンの交易は、ノルデンで生成した大量の金を地球の物資と交換、地球の大量の物資を『平民』のギルドを通じて金貨と交換し領内の予算にあてたり、ゲルマニア王宮へ納めていたする。

ツエルプストー辺境伯屋敷 執務室

トウマがツエルプストー辺境伯を訪問した。『平民』の組織からの

流民を受け入れる算段の為だ。執務室にはツエルプストー辺境伯とバストがでかい赤髪の女性がいた。

「ミスタ・ヒラガ、これは我が娘のキュルケだ」

「はじめましてミスタ・ヒラガ。キュルケ・アウグスタ・フレデリカ・フォン・アンハルツ・ツエルプストーと申します」

「キュルケよ！ミスタ・ヒラガは、伝説の”奇跡の渡り人”なのだよ」

「伝説の・・・！？まさか・・・」

「そのまさかだ！おまけに彼は、異世界の政府関係者なのだよ」

「実は、日本国首相補佐官 平賀 闘馬 が本名さ！トリスティン魔法学院に召喚された俺の従兄弟のサイトも俺と同じ能力をもっているのさ」

「召喚されたって・・・！？ヴァリエールに召喚された使い魔ってミスタ・ヒラガの・・・？！」

「奴は、日本国の士官学校の生徒さ！地球世界から帰ったルイズから色々と聞いているのだろう！我々日本人は、この惑星の大半を領有化した。さらにエルフとロバ・アル・カリイエも我々と同盟を結んでいる」

「じゃあ魔法がなく貴族がない世界ってのも・・・」

「ルイズの言っていることは本当なんだ」

「そう言うことだキュルケ。彼らを味方につけると多大な利益をもたらすことができる。しかし、敵に回すと滅ぼされる」

「そっゆうこと♪」

「所でミスタ・ヒラガ、今日はトリステインから流れ込んだ流民を受け入れる算段の他にも話があつてな！」

「それはなんですか？」

「キュルケを嫁にもらつてくれ！」

「俺には、元アルビオン大公家のお嬢様と婚約しているんで……」

「日本の法律では、二重婚は法律違反なのだ。ハルケギニアの法ならば何人でも妻をめとることはいいのだぞ」

「ミスタ・ヒラガに興味ありますわ！異世界の渡り人にも！」

キュルケは、トウマの腕を組んでいた。

流民受け入れの打ち合わせが終わりトウマはキュルケを地球世界の六本木ヒルズへ行き食事をして、東京・日比谷公園へ案内していた。ここは、カップルのデートスポットである。

「ミスタ！いえダーリン！魔法が使えないって不便だけどさつき行
った食事って本当においしいわ！」

「そうだろ！これから俺の部屋に案内しよう」

二人が歩いていくと、サイトとシエスタに出くわした。

「ようサイト！シエスタとデートか」

「トウマ兄！それってキュルケじゃん！この世界に連れて来たのか
？放置する気かＹＯ」

「馬鹿いうな！ルイズでもあるまいし、婚約してんだよ”婚約”だ
！」

「あんたは、ルイズの使い魔！どうしてここに！それに学院でみた
ことあるメイドの子もいる」

「ミス・ツエルプストー、お久しぶりです」

「あんた！ルイズが落ち込んでいたよ」

「そんなの知った事じゃないぜ！俺には、軍のエリート道がある
からな！野蛮世界のくだんねゝ無給の使い魔なんか誰がやるか！男
は、生まれた時から大将、コマンダー・イン・チーフを目指してこ
そ男だ！この世界は身分なんか意味がない」

「そういうことだキュルケ。隷属社会は、俺たち日本軍がきっちり
と潰す運命だからな」

「ルイズに同情しちゃうよね」

「あいつの行動パターンは、ある本にパターン化されているからね。今から行って見せよう」

「えーと、キュルケだっけ。あと数年でブリミル体制は、日本の手によって滅ぼされることを宣言しよう」

ガリア王家救出1!!!

キュルケと付き合いだしたトウマ。トウマは、キュルケと東京でデートをしていた。キュルケの服装も原宿で買ったおしゃれな格好である。

「キュルケってタバサ、ガリア王家の姫君と仲いいんだろ」

「あたし、あのラノベの本通りに仲いいのよね」

「俺さあ、2次作品の転生者よろしく地球に転移できるほかにFF・DQの呪文が使えるんだ！タバサに今度会ってオルレアン公夫人を救いたいし、双子の妹ジョゼットを家族に合washオルレアン公を復活させたいんだ」

「ダーリンでなんでそこまでするの？」

「原作破壊だ〜い好きだから♪」

「あの本だったらダーリンの従兄弟のサイタが活躍しているんじゃない。サイタならぬサイトは、今、地球にいるし」

「あの本でも俺は、学校へ行ってちゃんと卒業しろ！学業を中途半端にするなって思っていたね」

キュルケは、学校をやめている。アトランティス大陸の塔、知識の間で日本語が理解できなお且つ読み書きができるのだ。

「学校ね！トウマってなんでそこまで学校卒業とかにこだわるの？」

「日本ってさ！学歴がもの言うじゃん！なんだかんだ言っても学歴社会だからなのさ！それに大学とかに行くところの世界じゃ宝になる知識が学べるためなのさ！あの”零の使い魔”のサイタが大学卒業くらいしていたらちよつと違った展開も望めるし！サイタって馬鹿そのモノだよ！しかし高等工科学校行っているサイトは俺と同じ転生者だ！奴は、一味違うサイタ君だ。能力でルーンの洗脳解除もできているんだ」

桜木 健一郎が首相になってから日本の天才的な子は、大学へと飛び級できる教育制度になった。今までは、G H Qから押し付けられた教育基本法と日教組教育で弱体させられたが、本場アメリカと同じ教育制度で天才を発掘できやすい教育環境に改革した。その為、日教組は解体された。他にも反日国家とつながっていた在日系・左派系の組織も当局の調査とスパイ防止法違反で消滅したのであった。

「今回のサイタならぬサイトは、今年には日本の国防大学へ入学するし期待のエリートだね。我が国は、すべての国民が読み書きそろばんできる民族なんだ。日本の街並みがこの教育100%の成果なんだ。民衆は、愚かなままでもいいとの思想は、”悪”なんだよ。特に中世キリスト教やブリミル教みたいな宗教組織は滅ぼさなければいけないのさ」

数日後、ノルデンの屋敷にキュルケがタバサを連れてやってきた。

「じゃあオルレアン公夫人を救いに行こう」

「信用できるの？」

「御託並べていないでさっさと行こう！お前がシルフィーか！よろしくな！」

「よろしくなのね！」

ポカ！

「しゃべらない」

「痛いなのね！」

「動物を叩かない！叩かない！あのできそこないのヴァリエール家三女になってしまおうぞ」

「ルイズの事なの！ひどい」

「俺、アンチルイズだから」

オルレアン邸に到着した

応対したのは、老執事ペルスラン。3人は、さっそくオルレアン公夫人のいる部屋へと通された。

「奥様、失礼します」

ガリア王家の証である青髪を、手入れすることもなく伸ばしに伸ばした彼女は、人形を守るように抱きかかえた。

「……ただいま帰りました。かあさま」

タバサが、寝台の少し手前で膝を折り、母に帰省を告げる。

「下がりなさい、無礼者！」

「王家の回し者ね？ わたしから、シャルロットを奪おうというのね？ 誰があなた方に、可愛いシャルロットを渡すのですか！」

彼女が、病身の女性とは思えないほどの発狂乱の声をあげた。

トウマは瞬足で、夫人の視覚外に移動し

「キアリー！」

DQの呪文を唱えた。トウマの手の平から発せられていた光のエナジーは夫人の体へと降り注いだ。

「ベホマ……！」

トウマの掌から夫人の体力を回復させるため呪文を放った。

しばらくして夫人は、ベッドから立ち上がりタバサを抱きしめた。

「ああ、可愛いシャルロット……あなたは、絶対に渡さない……。絶対に渡すものですか……！ 何があろうと、あなただけは私が守って見せる！」

「かあさま・・・！」

呆然としていたタバサが、その手をおずおずと母へ伸ばし、抱きしめ返した。

その目には、涙を湛えていた。

「しばらく二人にしてやりましょう」

しばらく客室でキュルケとくつろいでいると夫人とタバサと執事のペルスランが入ってきた。

「このたびは、なんとお礼をいってよいのか」

「これも原作破壊ですから」

「？」

「気になさらないでください、こつちのことで！兎に角、私の屋敷まで隠れましょう。ペルスランさん荷造りの用意はいいですね」

「もちろん身の周りのものはこの荷物だけです」

「あ！シルフィーも呼んで来てくれ！」

タバサは、原作通りな人間タイプに変身したシルフィードを呼んできました。

「お姉さま！裸になりたい！こんなモノ着るの嫌だ」

ボコ！

「脱いだら肉抜き！」

「じゃあ行くか（。。！）」（韻竜とか羞恥心ない亜人種族なんかストリップショーで経営できるんじゃないかな！こっちに転移してきた日本人も慰安が必要だね）

ノルデンの領内の70%が日本人である。

トウマは、キュルケ、タバサ、夫人、ペルスラン、シルフィードをノルデンの客間に荷物ごと転移させた。

転移した一行は、ノルデン屋敷の執事をやっている元モード大公のチャールズに3人の部屋を割り当てさせた。チャールズは生き返らせてくれたトウマを主としたっている始末。

執務室にトウマ、秘書のルース、キュルケ、オルレアン夫人、タバサ、ペルスランがいる。

「これからオルレアン公を生き返らせます」

「え！？」

「始めますね。召喚！ 不死鳥『フェニックス』！！」

クエエエエ……………

「オルレアン公、この子の父親を復活できるのか？」

クエエエエ．．．．．

「頼むぞ！」

．．．ボウッ！！．．．．．ゴウ！！．．．．．！？

「成功したね。フェニックスいつもありがとう！」

．．クエエエエ

フェニックスは還っていった。この第4のルーンってやばいぜ！

「お父様．．．」

「あなた．．．．．？！」

「旦那様．．．」

トウマは、念力でシャルルの体をソファーへと寝かした。

「ルース、ジョゼットを呼んできてくれ」

「了解！ボス」

しばらくしてルースは、タバサと同じ髪と顔の女の子ジョゼットを連れて来た。

「オルレアン夫人、その子に見覚えがございませんか？」

「この子は・・・・・・・・！！？！あ・・・・・・・・？！」

「かあさま？」

夫人は、ジョゼットを泣いて引き寄せて抱きしめた。

「はあああああ！！！！！！！！！！」

「お母さん？！！・・・お母さん・・・！！？！わあああああ
あん！！！！！！」

二人は抱きしめて泣き崩れていた。この一週間前にジョゼットは、日本の国家情報局の手によってセント・マルガリタ修道院から拉致・保護されてノルデンの屋敷に住んでいた。そしてこうして母と子が一緒になった。

「・・・・・・・・うう」

「どうやらお目覚めのようですね、シャルル殿下」

「・・・・・・・・こ、ここは？君は一体？」

「私は、表向きはゲルマニアで貴族業を営んでいるトウマ・ド・ヒラガ。実態は、日本国首相補佐官 平賀闘馬 と申します」

「ご自分がどうなったか覚えてらっしゃいますか？」

「・・・確か、矢に打たれて、その後は・・・」

「あなたが暗殺された原因を私から皆さんに説明しましょう」

トウマは、原作通りのジョゼフの心の内を話した。また、シャルルの王位を狙いたい為の貴族への買収のことも指摘をした。そして国家情報局がジョゼットと確保してみんなに合わすことなども・・・。

「そんな・・・！父さまが・・・」

「シャルロットよ、この方の言っていることは、すべて事実なんだ。兄さんには、魔法以外には、何一つ勝てなかったのが事実」

「あなた・・・！」

「兎に角、ジョゼフ王の狂気を治しましょう。それには、シャルル殿下の本音をジョゼフ王にぶちまける必要があります。王位につけなかった本当の悔しさをジョゼフ王にぶちまけてください。男は、拳で兄弟喧嘩することが必要です」

「一度死んだ身だ！また死ぬのだったら兄さんに本気をぶちまけてみるよ」

ガリア王家救出、完結！！！！ガリア王家地球訪問！！（前書き）

夫人の毒を消し、シャルルを復活させ、ジョゼットを引き合わせた
トウマ。最後の仕上げだ！ジョゼフ王との面談。

ガリア王家救出、完結！！！！ガリア王家地球訪問！！

ノルデンの屋敷に一泊したオルレアン一家とキュルケ。

食堂で共に食べている。トウマは、和食。あとは洋食である。

「メシ食ったらジョゼフと使い魔のシェフィールドを連れてきますんで、お二人と話し合った後、みんな地球へ行きパーっと飲み食いしましょう」

「トウマってお米をよく食べるよね」

「米は、日本民族の根源だ！パンなんかフカフカして力が出ねえ」

「”リキ”ねえ〜！」

「ハルケギニアの貴族が食べる食事のメニューは、将来、病気になりやすい食事なんだ。デブやハゲ、太っているとか年をとっているとかは、すべて食事の取り方が起因するんだ」

「そうなの？！」

「俺の世界じゃ美容健康法がこの世界よりすざましく進んでいて60歳でも30歳と同じ容姿に見られるような美容方法もあるんだぜ！ブリミル教社会はこういったことも否定するからな」

女性陣は、トウマの意見に一斉に耳を傾けた。

「ハルケギニアにも導入すれば寿命も延びるし、エステって美容方

法もあるんだぜ。俺から言わせてみりゃ美容を異端視するブリミル教は女の敵だね」

トウマは、ガリアの首都リュティスへ舞空術でひとつ飛びした。軍のGPS機能が付いている携帯マシンで位置を特定しながら進んでいた。ヴェルサルテイル宮殿の門前に到着した。門番には、門前払いをされたがそこは強引に押し通った。

「出会え！……！！！」

「何者だ！……！！！！？」

「貴様？……！！！！！！？」

「魔法が発動しない！剣で打ち取れ？……！！」

魔法無効化能力で魔法の発動を封じ、数々の衛兵を拳足で倒した。

気絶している隊長クラスの胸倉をつかむと

「ジョゼフ王に謁見したい。どこにいる？」

「知るか？！」

トウマは、首を締めあげ

「どこだ？」

「あ・・・っちだ！」

ようやくジョゼフの執務室へと到着したトウマ。青い髪と髭の男と30歳位の額にルーンがある女官がいた。傍らには、停止したゴーレムがいる。トウマの魔法無効化能力で動かないのだ。

「ほう！貴様は何用だ？」

「あなたの心を救いに来ました」

トウマはそう言うなり傍らのゴーレムを破壊した。

「何・・・？！！！」

「転移するぜ」

トウマは、ジョゼフとシェフィールドをノルデンの客間へと転移させた。

ノルデン屋敷 客間

「ここは・・・、シャルル！？」

「兄さん・・・！！？」

「ここは兄弟で話し合ってくれ、さ！後のみんなは出て行った」

客間の部屋でジョゼフとシャルルが話し合っていた。その隣の部屋には、オルレアン一家、キュルケ、ペルスラン、シェフィールド、トウマがいた。

「あんたが、神の頭脳ミョズニトニルンか。俺は、すべてのルーンを持つ男だ！よろしくな！」

「噂は、聞いているよ。何者だあんた」

「俺は、すべてのルーンを持つ男と言っただろう。大和帝国でマジックアイテム盗んで処罰されそうになりジョゼフ王に召喚されたんだろ、俺のとりなしで大和帝国にシェフィールドの罪の帳消しもできるから遠慮なく言ってくれ」

「本当か！」

「本当だとも……」

しばらくして二人が部屋から出てきた。色々と胸の内をさらけ出し吐き出したようだ。ジョゼフの顔がすっきりとしている……ていうか二人ともあざだらけの顔になっている。

「お話が終わりましたか、俺は骨を折ったかいますね」

「……お前にはどれだけ礼を尽くしても足りんな。」

「……そうだね、君がいたから、僕たちは……」

「ほんの台本に修正をいれただけですよ。大したことはしていません」

「・・・しかし、久しぶりに泣いたな、これほどに涙というものは重いのだな。」

「本気で兄弟喧嘩したのは何年ぶりかな」

「ジョゼフ王、プチ・トロワから御息女のイザベラ姫を連れていきましょう」

そう言うなりジョゼフの腕をつかむとトウマは転移した。

ジョゼフとトウマは、プチ・トロワのイザベラをノルデンへと拉致転移させた。

そしてイザベラとシャルロットは、昔のように仲を取り戻したのであった。ジョゼフもイザベラにいままで父親らしくしていなかったことなどを謝罪した。

「これでみんな王家が一つになりましたね」

「お主には、なんて感謝してよいのやら」

「あなたの為なら喜んで命をささげる！」

「俺よりも何も力のない平民などの民衆を助けてください。俺は、

あらゆるチート能力を持っています。そんな俺は、力に困っていません。あなたかた王家の魔法、権力を力のない弱く困っている人を助けてください。それが俺への恩返しです」

イーヴアルデイの勇者

”私には竜を倒すほど力があります。その私が何か困っているのでしょうか？その礼は私ではなく、誰か私以外の人を助けるために使ってください”

（見つけた！私の”イーヴアルデイの勇者”）

そのあとガリア王族、シェフィールド、人型シルフィード、キュルケ、ペルスランの一行をトウマが東京見物に案内し、デイズニールゾートや屋台船での宴会とかで大祝いとなった。地球では、シルフィードは、人型のままでドラゴンに変化できなかった。しかし、宴会中にストリップしだすから眼福になったりしていたのである。

ジョゼフとシャルルは、ウワバミだ！土産もたくさん買っていた。トウマは、二人に飲まされて酒に弱くマジで翌朝には二日酔いでダウンした。

アルビオン軍壊滅！指輪をGet！

ガリア 王都リュティス、ヴェルサルテイル宮殿

執務室にトウマとジョゼフがいる。傍らには、シェフィールドが控えていた。

「お主には、感謝している」

「あと、本当の俺の上司である。日本国首相 桜木健一郎のボスとあってください」

「そのときに異世界の王とも是非とも会って杯を交わしておきたい」

「ボスは、言うなれば日本国天皇陛下の宰相で法律上は、最高指揮官です」

「ほう！たしか平民で選挙をして代表者を選ぶという方法だな！」

「はい。立憲君主制という政治体制です。ボスに連絡取れれば会談できますよ」

すると突然、耳の長い種族、エルフが入ってきた。

「王よ！ネフテスとの契約はどうなるのだ」

トウマは、すばやくエルフの腕をつかみアメリカへ転移した。

「ここにでもいろ」

エルフは、周りを見渡すと見たこともない服装の人間と街であった。

トウマは、転移し戻った。

「とりあえず邪魔は、地球へ送りました」

「そうか」

「陛下、アルビオンのクロムウエルはあなたが背後から操っていたのですね」

「この”零の使い魔”の通りだ！」

ジョゼフは、トウマの手引きでアトランティスに訪れて”塔”の知識の間で日本語を習得していた。文字も覚えるのが早かった。

「もうシャルルとは、わだかまりもないしあ奴らを始末付けなければいかん」

「ミス・シェフィールド。ラグドリアン湖の水の精霊から取ったアンドバリの指輪ってある？」

「これでしょうか」

シェフィールドは、アンドバリの指輪をポケットから出した。

「これラグドリアン湖の精霊に帰したいんだけどいい？」

「もう用はないしいです」

トウマは、指輪を受け取った。

「あいつらは、また懲りずにトリスティンを侵略しますね。ガリアの両用艦隊が合流する振りをして壊滅すればいいじゃないですか！私の領内の部隊も参加させてください」

「では、そのように手を打とう」

ノルデンの屋敷にてトウマは、コピーのアンドバリの指輪を一つ造った。普通の人間なら肉体・神経がやられるがスーパーサイヤ人5サイコと同じ肉体レベルであり精神力も半端じゃないのでへっちゃらだった。

このコピー・アンドバリの指輪は、万が一の時の為のアイテムとして”王の財宝”に保管。

ラグドリアン湖に舞空術ですつとんで行き、本物を湖の中へ頼り投げた。すると水柱が立ち

「すべてを超えるものよ感謝する」

「じゃあ分霊をひとつもらおうか？俺の領地の水の出をよくしたいんだ！」

「すべてを超えるものが望むのであればいいだろう」

ラグドリアン湖の水の精霊は、トウマの体の中に水の分霊を置いていった。

「領地の水源地にたどり着いたら分霊に言うがいい！」

「そいじゃ、ありがとう」

これ以降、ノルデンは、ハルケギニア有数のミネラルウォーターの産地になるのであった。

2週間後

ガリアの両用艦隊50隻に日本軍の宇宙戦艦エクセリオン1隻、戦艦ハガネ10隻、宇宙戦艦ヤマト20隻がガリアのサン・マロンに集結。

「ゲルマニアの奴らあんなでかい船を造りやがって」

「スピードも速いし火力も想像を絶するらしいぜ」

「なんでも魔法を使っていないんだとか」

ガリアの船乗りたちは、色々とささやきあった。

アルビオン ロンディニウム

「シェフィールド殿もないし、タルブで軍は壊滅するし……」

王宮執務室で一人で苦悩しているクロムウエルの姿があった。

「申しあげます。ガリア軍両用艦隊襲来！！」

「なに？」

「ロサイス陥落」 「サウスオブゴード防衛軍敗退！！制空権を握られました。」

「なんだと！」

バルコニーに出て空をみるクロムウエル。そこには空を埋め尽くす大艦隊があった。

ガリア両用艦隊や日本国防軍艦隊からの大火力戦攻撃で王宮をはじめとする都市は、壊滅しここに神聖アルビオン共和国は、壊滅した。

アルビオンは、ガリアが支配する事となった。

東京会談！！！！裏では、サイトのヴァリエール一家の地球転移！

日本国 とある料亭

とある一室に日本国首相 桜木健一郎、日本国首相補佐官 平賀闘馬、秘書 平賀ルース、ガリア国王ジョゼフ1世、シェフィールド、平賀才人、ティファニア、ヴィットーリオ（武雄氏が介入して教皇ではない）がハルケギニアにおける今後の体制について話し合っていた。

「ジョゼフ1世には、惑星テラのハルケギニアの大陸以外の日本国の領有権を認めてもらいます。そのかわりガリアには、十分な程の技術提供をします」

「ふふ。もともと余の土地でもない。承認しよう。我等の知らぬ進歩した技術が手に入るなら安いものだ。それにしても東京の街はすごいものだ、余も移民したいぐらいだ」

「儀式の前にヴィットーリオ君には、使い魔の召喚をお願いします」

「僕なんか小さい時にロマリアでコモンの魔法の練習をした記憶があるんですけど爆発しているばかりなんです。指輪を嵌めて鏡を見たら”記録””地球の覗き見”の呪文を唱えるときちゃんと発動をしていました。そしてダングルテールに母と共に移り、新教徒の弾圧があるとかで武雄さんの手引きでタルブへ逃げてきました」

「君は、虚無の担い手でありフォルサテの末裔です」

「たしかに始祖の”記録”で見たとき、時の狭間にあるアトランテ

イスを召喚しないとハルケギニアが1000年大災害に見舞われます。力を貸しましょう。そしてハルケギニアを日本の様な身分差別がない社会制度にしたいです」

武雄氏が介入したヴィットーリオは、アニエスと子供のハチー共々、日本へとワイン農法を勉強している。ハチーは、江田島平八の転生者なので飛び級で東京大学で物理学を専攻している。

後にハチーは、ハルケギニアで『男塾』を開設するるのであった。もしヴィットーリオが敵側に回れば苦戦したであろう。ナイスジョブ武雄！

「尖閣危機」による憲法改正と桜木首相による政治改革により、日本の教育は飛び級が認められる方針。『修身』『教育勅語』の日本の戦前の項目を取り入れて教育基本法を改正した。

「とりあえず、5年後に儀式を遂行しよう。今までの聖戦は、大軍を組んで聖地へと殺到して負け続けただけでも今回は、スパイ大作戦の如く儀式を遂行しよう」

「そして、アトランティス大陸召喚こそが、日本の真の独立であり、ブリミル教貴族体制の崩壊であると私は、宣言したい」

サイトは、ラノベ本”零の使い魔”やネットで2次作品のサイタのへ垂れブリを嫌悪してルイズら一家をチャカシたくなってきた。あ

の会議から2週間経過した。来年は、国防大1年生だ。

物資、人材の定期輸送でハルケギニアへ転移し、作業が終わったサイトは、ルイズの気を探り舞空術でルイズがいる方向へ飛んでいた。

ラ・ヴァリエール邸

門前に到着したサイトは、門番にルイズを出せと言った。サイトは、すぐさま門番を叩きのめした。

ドラゴンボールで初代ピッコロが地球の国王の王宮に殴りこみを行ったやり方をしよう。次々と現れてサイトを取り押さえようとするがどれも全員吹っ飛ばされていた。

何十人かをボこったところで魔法無効化能力で自分の範囲200mを魔法を使用不可にした。

この後、幾人かをボこると鋭い眼をしたピンク色をした髪の毛の中年の女性が立っていた。

「何者なのですか!」

「日本国防大学付属高校工科学校3年 平賀才人。ルイズに召喚された異世界の人間だ! 烈風のカリン! 勝負しろ! こい!」

「ウィンド・ブレイク!!!!」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「ウィンド・ブレイク」

「はっはっは！どうだ魔法が通用しない気分は、どうだ」

「何をしたんだ」

「俺は、魔法無効化能力の使い手だ！こっちからいくぞ！オラ！！！！」

ダン！！！！！！

サイトは、猛タックルでカーリーヌを軽くボディを殴り飛ばした。気絶したようだ。

そうすると公爵が家来と共にきて杖を構えて振ってきたが、魔法が発動しなかった。サイトは、プラチナ色へとオーラエナジーを纏い超化した。そして爆裂衝撃波で半径100mを吹き飛ばした。

公爵ら家来たちは、吹っ飛んで倒れている。死んでないようだ。

超化と解き魔法無効化したまま屋敷へと歩くと入口に目つきが鋭い金髪のメガネをかけた女性が、杖を向けて立っていた。

「おい！婚き遅れ、売れ残りのババア！魔法を放ってみろ！売れ残りババア！」

「なんですって？！！！！！！！！」（。。#）

「・・・・・・・・・・・・・・・・！！魔法がでない」

「どうしたクソババア!! だから男に逃げられるんだよ」

そう言うなりボディに当て身を喰らわせて気絶させた。

「貧乳ルイズ!どこだ!あっそびくましよう!ペッタン、ペッタン
ペッタン子のルイズく!!!!!!」

するとルイズが出て来た。

「あんたく!何のつもりなのよ!!!!」

「まな板ルイズをチャカシに来ました!!!!あくそびくましよう!」

「あ!!!!ん!!!!!!た!!!!!!」(。)#

ルイズは杖を振ったが魔法は発動しなかった。

「どうして!?!」

「俺はいかなる魔法を発動できない能力を持っているんだ!ところで
ようPSPもってきているからゲームやろうぜ!こんな世界なん
にもないだろ!」

「何のつもりよ!」

すると奥から優しい感じのピンク頭のバストがでかい女性がでてきた。

「おねーさん！僕、姓が平賀、名がサイト。サイトって呼んでください。どうですか今度異世界で一緒にお茶でもいかがですか？」

「ルイズの恋人？」

「こんな奴、恋人じゃないのよってあんた！」

サイトは、リュックサックからPSP2台を取り出した。

「私の部屋に案内するわ！」

「それじゃ！お邪魔します！」

「ちょっと！ちい姉さま！あんた！！！！って何なのよう」

カトレアの部屋には、原作通りにいろんな動物がいた。ルイズとサイトは、ゲームに夢中である。

「がっああ！！！！なんでなのよ！！もう一回！」

「おいルイズ！シューティングゲーム苦手なからこの地球の大戦略をしようや」

「大戦略！！それなら得意だわ」

地球へ当局に拘束されている時にいろんなゲームを遊んだ。その中でも大戦略が得意でよくやった。

しばらくして公爵と夫人、長女と使用人が乗り込んでいた。

「貴様・・・！」

「うるせいな！静かにしている。ルイズがいいところなんだ！空
気読めやコラ！！」

ルイズは、マジでゲームに夢中で真剣だった。

「なあ！カトレア嬢は、病気なんだろう！地球世界の治療で治るこ
とができるぜ」

「それは本当か？貴様は何者だ？」

「日本国防大学付属高等工科学校3年生 平賀才人。ルイズに召
喚された異世界の軍人の卵だ」

「貴様がルイズを！」

「どうした！地球舐めるなファンタジー！これはおれの座右の銘だ」

「貴様の目的は、何だ？」

「メイジ。すなわちマジ族に絶望を！日本人は、ヴァリヤード族の
末裔だ。ハルケギニアの平民と日本人は同じ先祖の血を持つ種族だ。
公爵の父親ならルイズから日本の国力やこの惑星テラのハルケギニ
ア以外の大陸の領有の情報をつかんでいるはずだ」

「ワシらがどう思っているのか確認しにきたのか？」

「それもある！我が国への寝返り工作だ！あのガリアのジョゼフ王は、日本国と軍事同盟を結んだぞ科学技術と魔法で生成される金と交換でな！それにゲルマニアの皇帝も日本と同盟を検討中だ」
(ゲルマニアは、嘘だけだ)

「そしてロマリアを滅ぼす算段だ！」

「なんじゃとここまで進んでいたのか！」

「じゃ全員、集まった所で『転移』！！！」

部屋には、カトレアの動物たちと使用人しか残されていなかった。

東京 青山

「ここはどこだ！」

「お父様！ここは東京です」

「なんですって！」

「ここは・・・？」

「綺麗な場所ね！」

「絶望の世界へようこそ！」

ヴァリエール一家を5人転移させたサイト、舞空術で飛び去った。当局に保護するように連絡している。カトレアは、当局が推薦する

病院で治療し病気が治るのであった。

東京会談！！！裏では、サイトのヴァリエール一家の地球転移！（後書き）

ヴァリエール一家は、ブリミル体制が崩壊するまで地球にいさせようと思いました。

一年経過！！！！ゲルマニア革命前夜！！

トウマとサイトが召喚されてから1年が経とうとしていた。アトランティス大陸が、トウマの不慮の事故(?)により時の狭間で発見され!そこにも様々な技術が開発・量産されることとなった。

また、惑星テラの疑似 北アメリカ大陸をエデン大陸、疑似 南アメリカ大陸をエルドラド大陸、疑似 オーストラリア大陸を瑞穂大陸と命名し日本国は領有化開拓して街等の都市が出来上がっている。

トウマは、それらに3つの能力を使って秘密基地を建設したり戦艦やMS、PT等を生産し日本国防軍へと委託していた。

地球日本国防軍駐屯地・軍港・航空基地 ー 惑星テラ 日本国領有地とゲルマニア・ノルデン領との異世界間ゲートも開設している。

トウマとサイトに頼らなくとも自由に物資と人材が行き来できた。また、アトランティス大陸と地球日本国軍基地とのゲートも開設している。

AMF発生装置や魔法無効化のオリハルコンアーマードマッスルスーツの開発・量産体制が出来上がっていることなどがあった。

マッド達は、知識の間の情報でサモン・サーヴァントの理論を応用した言語意思理解装置を開発した。これによって惑星テラ・ノルデン領における日本国の技術者・自衛官等は惑星テラ・ハルケギニア人との意思疎通が可能となり仕事がしやすくなった。

大和帝国・扶桑帝国の言語体系は、日本と一緒にある。

地球世界日本国の密教系僧侶、修験者、陰陽師などの呪術者が惑星テラで、“火” “水” “土” “風” “木” 等のまじない技を実演すると発現したことには驚いた。これによってそれらもあらゆる研究対象となるのであった。

外交のほうでは、日本国は大和帝国、扶桑帝国、ガリア王国とは、交易のみの通商条約を締結していた。エルフ合衆国は、ビダーシャル議員が行方不明で日本国の交渉が難航しているとのこと。エルフは、6000年にもわたる人間との戦争で閉鎖的な空間を脱していない。

ここノルデン領の屋敷の一角にトウマと『平民』のメンバー、執事・領地運営スタッフをやっている元モード大公チャールズ、元ガリア大公シャルルが集まっていた。

第一声に『平民』の代表であるエルネスト・ラファエル・ゲバラ・デ・ラ・セルナが口を開いた。

「諸君、今日集まってもらったのは、ゲルマニア全土を手中に収め封建制から脱した平民政府の樹立計画である。資料を見ていただきたい」

「ツェルプストー領には、日本国からの旧式の武器があります。それと我がノルデン領に駐屯している日本国防軍の武器もありそれら

でゲルマニアで革命を起こすことは可能です」

「しかし革命をおこせば王侯貴族たちがゲリラ化・盗賊化することとなるぞ！その点の対策は大丈夫なのだな」

「はい、彼らを捕獲した後は家族含めて日本で再教育を3年受けていただきます」

「また、転移者と転生者の方には、前の世界で使い慣れているMS・PTで戦闘をお願いします。AMF発生装置を取り付けてあるので魔法攻撃が無発動となり装甲の錬金化が不可能になります。もちろんツェルプストー領に払い下げた日本軍の旧式の戦車等の武器にもAMF発生装置がついています」

「王宮などゲルマニア各領の拠点を確保したら『ゲルマニア共和国』の建国を宣言しよう。ロマリアから派遣されていた神官も地球へ送り込み再教育施設で洗脳させましょう」

「あとは、絶対に少年兵とか文字の読み書きそろばんができない人間を兵士に登用することは禁じます。これからもそうです。みなさんよろしいですか」

「これらの計画は、ガリア国王ジョゼフ殿も応援しており、ロマリア・トリステインの牽制を任せています」

「ノルデンの日本国国防軍、ツェルプストー領の兵士はいつでも出動可能です」

ノルデン領にもアルビオンやトリステインからたくさんの平民が流れ込んでいた。『平民』が圧政から逃れて来た平民に仕事を与えたり、読み書き計算を教えていたりして活性化していた。

ロマリアから派遣されていた神官は、聖堂騎士ごと拘束し地球日本の再教育施設に送っている方針でやっている。

まさに革命前夜であった。

ゲルマニア革命戦争!!!! 戦争は速度だよ!

革命はあっけなく進んだ!

ノルデンから飛び立った戦闘機 心神、ツェルプストー領から飛び立った F-15 によるウィンドボナ王宮や各都市貴族の城を精密爆撃した。

また、ゲルマニアの空中艦隊も港に係留されたまま撃破し、制空権の確保を行うための攻撃であった。

この攻撃により、開戦24時間以内には、ゲルマニアの王宮、各都市の中心部に位置する領主の居城・館等ははあっけなく撃破された。

ゲルマニアの制空権の確保が確認されると、宇宙戦艦エクセリオン10隻をウィンドボナ上空で停止させ半径100kmにかけてAMF発生装置を作動。

MS・PT部隊を王宮など行政府に降下し、特殊部隊を突入させて皇帝一族や役人等を捕縛した。また、ノルデン・ツェルプストー領から近くの領地へはMS・PT、ジープ、戦闘装甲車等の陸上部隊。遠くの領地へは、戦艦ハガネ、宇宙戦艦ヤマト等で陸上部隊を展開させて降伏勧告に追い込んだ、それでも抵抗するならば殺害、または捕縛をしていた。

もともと『平民』に借金をしていた貴族は、免責とともに領地を『平民』に差しだし、無抵抗で下り日本で再教育施設で”洗脳”されることとなる。

ツェルプストー領の歩兵の武器は、日本軍から払い下げた64式自動小銃等。メイジは、杖を持っているけどAMFが展開中なので使用には至っていない。

作戦開始から一ヶ月で革命・平定は成功した。ゲルマニアの王侯貴族は、地球日本国の再教育施設で洗脳される運命にあるのであった。

『平民』は発展的解消をとげて新政府となり、国名をゲルマニア共和国と変更した。首都はツェルプストー領の街に決定し、名称を地球世界のベルリンと同じ名称にするのであった。

初代首相はエルネスト・ラファエル・ゲバラ・デ・ラ・セルナが就任。貴族特権の廃止、奴隷制度廃止、政教分離、平民の権利をみとめた近代的新憲法の発布を行った。

トウマは、日本国首相補佐官 兼 ゲルマニア共和国日本大使に任命された。ハルケギニアの仕事拠点は、外交官としてベルリンに移すこととなった。

地球ーハルケギニア間を自由に転移でき、IQ300で能力的に桜木首相からも絶大な信頼をおかれているトウマであるから役職を兼任できるのだ。

また、ゲルマニアとガリアは、軍事同盟を締結した。また、日本とゲルマニアで安全保障条約等様々な条約を締結した。

トウマはベルリンの日本大使館で、都知事の桜田が北斗神拳で葬っ

たギーシュを生き返らせようとしていた。警視庁の細胞サンプル保管室から金髪の男のモノを手に入れていた。

『召喚！フェニックス！！』

「フェニックス！この肉片の主を生き返らせることができるのか？」

コク！！！！

するとまばゆい光の中から金髪の男がマントを着けた魔法学院の制服姿で現れた。

「ここは何処だ・・・？」

ギーシュは、トウマの能力で転移して国家情報局の監視下の元、他の貴族と同じように再教育センターで洗脳されるのであった。

聖地儀式ミッション発動作戦前！！！！ヴィットーリオが召喚したのは！

ゲルマニア共和国が建国。ガリアとは同盟を結んだのはいいがトリステインとロマリアとは、敵対関係になった。ロマリアは、聖戦を発動したいのだが、ガリアはゲルマニアと同盟を結んでいて身動きが取れない。下手をすればゲルマニアから侵攻される恐れがある。只さえロマリアでもゲルマニアへ平民が逃亡して国力がおちているのだから。

そりゃ税率9割じゃ人間は、トンズラするぜ！

ゲルマニアは、トリステインとロマリアの国境に日本軍の旧式武器を配備した軍隊を配備、また、日本軍もそれに支援している。

トリステインとロマリアは、ガリアとゲルマニアから”経済封鎖”を受けて弱体化。また、そこから流れてくる流民を保護している。そして保護した流民は、教育と衣食住を施してゲルマニア憲法の下にてゲルマニア国民となるのである。

トウマは、キュルケ・ティファ・シャルロット・ルースと結婚した。日本も出産率を上げるために法律で重婚をできるように改正した。

マチルダは、日本留学中のコルベールと恋仲に堕ち結婚した。そして二人とも会社を立ち上げていた。ちなみにコルベールの頭は、日本の毛はえ葉でフサフサである。

4年後

日本も惑星テラからもたらせられる”金”で空前絶後の好景気バブルが続いていた。北朝鮮・韓国・中国は、日本のPT・MS、宇宙戦艦等の想像を絶する兵器がありイチャモンをつけることができないし、普通の国クラスに軍事に関する憲法が改正されているので手だしできなかった。

また、2年前に第二次朝鮮戦争が没発し、北朝鮮は崩壊し韓国の領土となった。また、竹島も日本へ返還した。すべてトウマのチート能力で造った超兵器のおかげである。

アメリカは、日本が借金の肩代わりでチャラにしてくれるので惑星テラの日本領有には、文句がいえなかった。おまけに日本には、超ド級の宇宙戦艦とPT・MS等の兵器がある。

日本 首相官邸

ここには、桜木首相、モリス・谷口、鯨井洋介、ゲルマニア首相エルネスト・ラファエル・ゲバラ・デ・ラ・セルナ、ガリア王ジョゼフ、シェフィールド、トウマ、ティファ、サイト、秘書ルース、ヴィットーリオが会談していた。

ジョゼフは、シェフィールドと結婚。また、サイトは国防大を卒業しゲルマニアの駐留日本軍基地のMS／PTの部隊長を任されている。サイト機は、ダイゼンガーである。そしてシエスタと所帯を持った。

「以上が作戦の概要です。今までは、”聖戦”という名で大軍を動かして失敗の連続であった。今回は、迅速にスパイ大作戦の如くミ

ツションを行ってもらいます」

「まずは、ヴィットーリオ君の使い魔召喚ですね」

ヴィットーリオは、日本で農業と経営学を学ぶために留学したあと、ゲルマニアでワイン工場を営んでいる。ちなみにヴィットーリオの会社のワインはハルケギニアでも有数のブランド品である。

聖地儀式ミッション一週間前、日本大使館地下秘密基地の一室。トウマ、サイト、ルース、ティファが見守る中、ビットーリオの召喚が行われていた。

「わが名はヴィットーリオ・セレヴァレ。五つの力を司るペンタゴン。我の定めに従いし、使い魔を召還せよ」

目の前の空間に向かって杖を振り下ろす。

光のゲートが現れた。

ゲートの中から出てきたのは、ヴィットーリオ・セレヴァレの女房であるアニエスと子供のハチーであった。

「あなた・・・？」

「父さん！」

「アニエスにハチー！」

「実はだなお前たちに使い魔になって欲しいんだ」

「ツカイマ？」

「なんか使い魔になったら能力が授かるんだろ。本で読んだよ」

「私はいいわよ！」

なんかアニエスってあのきつい性格じゃないな！やっぱ歴史改変し
といてよかったよ武雄大伯父さん！GOOD JOB！と思ったサ
イトとトウマ。

二人に契約のキス。二人は、右手を痛がって押さえたが痛みは引い
た。

アニエスは、ルーン文字で「ヴァインダールヴ」。ハチーは漢字で「
男塾塾長」であった。

聖地儀式完了!!!! すぐさま撤収と行きたいところだが!!!!

ヴィンダールヴの刻印を受けたアニエス。サイトとトウマは、原作通りにジュリオじゃねえ? と思った。やっぱ召喚主の潜在意識の思い人が召喚に関係するのか・・・!

ハチーは、「ワシが男塾塾長ハチー・セレヴァレである!!!!!!」が口癖になるのである。

ヴィットーリオとアニエスは、聖地での儀式の時にノルデンにいるヴィットーリオかアニエスの親の所でハチーを預かっていくことにしたいのだが、当の本人が行くってどうしてでも聞かないからトウマはOKを出した。

トウマも江田島平八の転生者なら歓迎する。あの塾長ですから!

一週間後、聖地儀式当日

ゲルマニアのベルリン、駐留日本軍航空基地にてジョゼフ、シェフイールド、トウマ、ティファニア、サイト、ルース、ヴィットーリオ、アニエス、ハチーが戦艦ハガネに乗り込んだ。

トウマは、大雷凰。サイトは、ダイゼンガー。ハチーは、武者ガンダム。

それらの機体も乗せた。戦艦もMS・PT等の機体もANF発生装置付きなのでエルフとの戦闘になればたやすく撃破できるであろう。

午後11時 聖地

聖地へと到着したハガネは、AMF発生装置を停止させた。

「これが作動すると召喚は、無効となる。各人ミッション開始！」

ハチー搭乗の武者ガンダム、トウマ搭乗の大雷凰、サイト搭乗のダイゼンガー、日本国防軍自衛官搭乗のゲシュペンストMk-II
I20機が降下し辺りを確認。

ハガネから降りた輸送船にティファ、ルース、アニエス、ヴィットーリオ、ジョゼフ、シェフィールドが乗り込み聖地へと降下した。

儀式遂行の各人は、機体から降りて持ち場に着いた。各人には、暗視スコープが手渡されていた。

北にヴィットーリオとアニエスと虚無の円鏡と火のルビー

東にティファニアとトウマと虚無のオルゴールと風のルビー

南にルースとサイトと虚無の祈禱書と水のルビー

西にジョゼフとシェフィールドと虚無の香炉と土のルビー

教皇ら担い手はルビーに意識を集中し、精霊の力を集めた。

4時間後、岩場の回りはとてつもない量の精霊の力で満ち溢れていた

エルフ領

突然体内の精霊力減少によって倒れるエルフ達。聖地を警備するために駐屯している部族である。

体の中の精霊力の減少に必死に抵抗するエルフ頭領

「緊急出動だ。軍隊を出せ」

だれもが倒れており、なすすべがなかった。

聖地 深夜2時

精霊力が十分に集まりそれぞれが秘宝に触れる。それぞれに呪文が浮かぶ

全員が詠唱を始める。一時間はかかる長い呪文であった。

聖地 深夜3時

前には天まで届きそうな巨大な召喚の扉が開いていた。

「虚無の上級の上級の中 究極召喚魔法、オメガ・サモン、発動」

4人の使い魔のルーンが輝く、光がすべてを満たしていく。

聖地 深夜4時

今まで海上だったところに、とてつもなく大きな大陸が出現していた。わずかに海面から浮かんでいる。

「ミッシェンクリア・・・」疲労でその場にへたり込む8人

しばらくして遠くからエルフの軍勢が出現した。ハガネと警備のPT部隊は、AMF発生装置を作動させロングレンジで殲滅した。

「あのエルフの軍勢が壊滅とは！」

「科学の勝利ですね。AMF発生装置があったからこそです。さあ撤収しましょう」

「あとのエルフ合衆国との交渉は、トウマ兄ら政府上層部に任せろぜ」

聖地儀式完了!!!! すぐさま撤収と行きたいところだが!!!! (後書き)

次は、戦争に突入します。もちろんゲルマニア・ガリア・日本による一方的蹂躪です。

ハルケギニア大戦没発!!!!前哨戦でロマリア滅亡!

桜木首相に異世界間通信でアトランティス大陸日本基地から召喚作戦成功と連絡が入った。

官邸執務室には、桜木と鯨井、モリス・谷口がいる。モリス・谷口は首席補佐官。鯨井は、国家情報局の局長である。

「では、アメリカや中国、ロシア、EU他にも伝えろ。惑星テラの大半の大陸は我が国の領土だと」

サイトとトウマの召喚時から、各国と水面下で調整を重ね、惑星テラの新大陸新領土についての地球側首脳国の承認はとれていた。

「谷口！マスコミへと各国大使館への対応と説明は頼んだぞ！」

「任せてください」

「儀式でのエルフ側への対応についての交渉は俺に任せてくれ」

「でもエルフ側も多数の死者が出たんだ、殺されるかもしれんだぞ！」

「いや！エルフ側の戦闘死傷者は、鉄血団結党という極右的な種族だ。ネフテスの評議会サイドにとっては邪魔な存在だよ。実はなエルフ側に今回の作戦の許可をもらったんだ！」

「ナニ！」

「見返りは、サハラの緑化だ。それと儀式時に精霊力素がなくなり衰弱死するからエルフは、何としてでもハルケギニア人の聖地占拠を認めなかった。しかし儀式前に交易で広域精霊力素製造装置を送って、サハラ緑化作業を日本からの大援助を申し出たらすんなりとOKだった」

「またネフテス上空にチートな戦艦浮かべたんだろ」

「御名答!!!!それも10隻だ!」

「まったく!歴史上に汚点が残るぞ。俺の身になってみる」

「外交とは、戦争なんだよ。すなわち力なんだ」

「全くお前には、まいるよ!頼んだぞ」

ロマリア 宗教庁

「聖下!大変でございます。南に大陸が出現しました。その占拠している集団は、ニホンという国でゲルマニアとガリアと同盟を結び、我が国に宣戦布告しています」

「申し上げます。ターラントとチッタデイラにニホンと名乗る軍が上陸。阻止しようとした駐在中の聖堂騎士団を壊滅」

「し、失礼します!」

突然、嚴重に閉じられていたはずの扉から、衛兵が駆けこんでくる。

「窓の外、窓の外を——！」

アトランティス大陸から飛び立った心神改及びMS・PTが警備の龍騎士をすべて殲滅。大気圏外から侵入した宇宙戦艦ハガネ100隻は宗教都市ロマリア上空を埋め尽くした。

戦艦艦内

「ファーストストライクは成功。制空権の確保に成功だ。今度は俺たちの出番だ！」

「野郎ども！俺たちの目的は何だ！」

「殺せ！殺せ！殺せ！」

「この戦闘の目的は何だ！」

「殺せ！殺せ！殺せ！」

「俺たちは日本を愛しているか！第1空挺団を愛しているか！」

「ガンホー！ガンホー！ガンホー！」

「ようし！行け行け行け行け！」

「レンジャー！」

彼らは、日本国 国防陸軍 習志野第1空挺団。

「尖閣危機」や桜木首相在任中2年前の時に起こった第二次朝鮮戦争においての韓国内の邦人救出作戦に活躍。100倍近い中国・北朝鮮の敵戦力の中孤立しながらも10日間にわたって猛攻を耐え抜き撃破したという逸話を持つ彼らは、はっきりいって人間ではないと同僚にいわれていた。

MS・PT機を操れば鬼に金棒である。

この日、第1空挺団の士気は最高潮であり、また後続の輸送機には、一昔の戦車と同じ打撃力に、車輪を装備するがための高機動力を備えた10式高機動戦闘車（120ミリ弱装砲装備）、そして27式装輪戦車（170ミリ弱装砲ないし57ミリ機関砲装備）、20式装甲戦闘車、20式装輪装甲車などが積み込まれていた。いざとなれば肉弾で戦車にさえ立ち向かい、敵中で拠点を確保し続ける彼らにとって、それは破格の待遇であった。

また、AMF発生装置を半径100kmにて作動中であり、ロマリア兵は魔法やマジックアイテムが使用できずに次々と近代兵器の餌食になった。

魔法が例え使用できていてもオリハルコンアーモードマッスルスーツで魔法を無効化してしまうのでメイジなど案山子に過ぎない。

戦艦から降下したPT・MSを含んだ特殊空挺部隊は、首都防衛の龍騎士等を撃破しつつ橋頭堡を確保し教皇ら側近のいる場所まで進撃していた。

『レンジャー!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!』

「な、何だ！うわあっ！」

「悪魔が!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

「始祖よ御助けを・・・！」

「ぎゃあああああ!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

後に恐怖の代名詞となる奇声「レンジャー」を叫びながら突撃してくる兵士を魔法で撃ってみても、なぜか発動しない。

剣で斬ってみても剣自体が折れ、弓矢は弾かれ、弾丸もきかない。

中世の軍は、隊列を組んで正々堂々戦うのが陸戦の本分。近代軍は、個人個人バラバラに見えて統制された動きで的確に急所を突いてくる。

日本国にとってロマリアはテロ武装集団でゲリラ扱いになるので、ロマリア兵や聖堂騎士団は降伏の旗を掲げてもすべて射殺・爆殺した。

「降伏・・・が?!・・・・・・」

ロマリア聖堂騎士団長のカルロは、降伏の旗を掲げたにも関わらず射殺された。

神官等の人間は、拘束されエイジス31世や側近等の居場所を尋問された。

教皇執務室

「これはどういったことなのだ・・・」

「聖下！お逃げください」

「聖堂騎士団は、全滅。我々は、囲まれています」

ちょうどその時、バタンツと大きな音を立てて広間の扉が開かれた。

同時に漆黒の鎧に身を包んだ者たちが広間になだれ込む。教皇一行は扉の方へゆっくりと振り返った。

「抵抗するものは殺す。その場で両手を頭の後ろで組んで床に伏せろ」

教皇ら側近等の神官は、日本で戦争捕虜再教育施設で10年過ごし、余生を日本で送るのであった。

トウマ、開拓大臣就任!!! トリステイン戦争前夜

アトランティス大陸召喚時、ロマリアを電撃作戦で占拠した日本軍。教皇エイジス31世とその側近達は日本へ捕虜として護送し再教育捕虜収容施設にて再教育され釈放後、終生日本で暮らすのであった。

聖堂騎士団らは、テロ集団として殲滅。

ロマリアの首都を落とした別働隊は、ゲルマニア・ロマリア国境でゲルマニア・日本軍にらみ合っているロマリア軍を挟撃で殲滅。

ロマリア全土は、日本軍とゲルマニア軍の共同管理としてハルケギニア連邦設立までに統治されるのであった。

また、ロマリア占領時の発生した盗賊等は、すみやかにレンジャー部隊に駆逐されるのであった。尖閣危機や第二次朝鮮戦争で活躍したレンジャー部隊にもたくさんの転生者がいたのである。”平賀才人”への転生者応募に落ちた面々である。すべてアンチ貴族の思想の持ち主であり自衛官レンジャーの道を選んだ。

ヴァリヤークが残念賞で一つだけその面々達にチート能力を与えた。それは、スーパースายア人3孫悟空と同じ肉体と力と技である。（大猿は不可）

あの激戦で死傷者はいない。各国からは、”奇跡””化物””超人”とまで評価されていた。

日本

霞が関にて総合開拓省が設置されて首相補佐官のトウマが、総合開

拓大臣に任命された。惑星テラの実質的なコマンダー・イン・チーフ（最高指揮官）だ！

惑星テラの4つの大陸（エデン大陸、エルドラド大陸、瑞穂大陸、アトランティス大陸）の領有化の大ニュースにゲルマニア・キース駐留日本軍港に中継車を繰り出した国営放送、軍事アナリストの解説をつけた民放機構の合同番組に差し替えられていた。

再教育捕虜施設の大プラズマテレビがにおいてある広場でヴァリエール一家、ギーシュ、アルビオン王侯貴族、ゲルマニアの王侯貴族一族らが惑星テラの4つの大陸領有とトウマが大臣就任とロマリア解放の番組を見ていた。

ヴァリエール一家のカトレアは、日本の病院で治療して退院後に施設へ入れられて家族と合流されている。

「私、なんてあの使い魔を召喚したのかわからないわ！」

「ルイズ?!」

「この馬鹿おチビ! あんたって子は!」

「しかしこの魔法が発動しない、身分社会がない異世界の力はこれ程の物なのか!」

貴族の再教育の一環として”富士総合火力演習””硫黄島沖海上演習””地球軌道上宇宙艦隊演習”等の日本国防軍の装備、練度等の力を見せつけられた。

また、日本の街並みや各施設の見学など強烈なカルチャーショック

に陥った。

数日後、ヴァリエール一家はサイトと施設面談室で会談していた。

「久しぶりですね皆さん」

「あんた！何しにきたのよ」

「貴様！何のつもりだ」

「ちょっと様子をな！どうだ魔法が使えない、貴族がない世の中の現状は？」

「すごいことは認めるわ！ちい姉さまを治療して治してくれることも感謝している。私たちを解放しなさい」

「やっぱおめくは、頭の中にウジ沸いているな。俺達、日本・ゲルマニア・ガリアの同盟軍は、ロマリアを陥落させ最後の仕上げでトリステイン王国を滅亡させるつもりだ」

「トリステインを……。何故だ……」

「もう解っているかと思うが、この社会に取って貴族中心社会は”悪”そのものなんだよ！”自由・平等・解放”精神を持って武力で身分階級圧政社会を殲滅する。これ”天下布武”なり」

「なんだと……！」

「おいルイズ。”零の使い魔”ってラノベの本やネットで二次小説

を見たか？」

「見たわよ！ルースって私の事じゃない。ってあんた転生者ね」

「ピンぽくん！俺は、アンチ貴族、アンチルースだ。ルイズを殺さなかったのも貴様ら一家に魔法の発動しない身分社会がない地球世界、科学中心の惑星世界を見せたかった。如何に貴様らの価値観をぶち壊し絶望させることが”アンチ貴族”の醍醐味だ！」

「トリステインが滅亡した後は、ここの施設釈放後に日本本土で生活し、1年後にハルケギニアへ解放される。ハルケギニアに戻っても貴族の権力もない財力もすべて没収されているぞ。そして魔法無効化される携帯装置やスーツが出回っているから今まで貴族風吹かすことができないぜ」

「貴様が、我が屋敷へ乗り込んできたときに魔法が使えなかったのは、その装置の為か」

「おい！貴様・あんたって言うなクソ共が！だからクソ貴族は傲慢なんだ。平賀さん！くさん着けるのが人の道だろ！これだから貴族は、人間失格なんだ！おれのことをサイト、いや大佐って呼べ大佐だ！2年前の朝鮮戦争で活躍し国防大学を首席で卒業。日本軍駐留惑星テラ方面指揮官だ！それも最年少で大佐だ！あの戦争と俺のチート頭脳で異例の大出世だ！俺には、神から”魔法無効化能力”を与えられているんだ！」

「！く！！！！！！」

「サイトでもいいぜ！お前らせめて人の道を歩もう。」

「じゃ何故サイトは、貴族を憎むの？」

「貴族のせいで罪もない平民が無礼討ちで殺され、それらの大量の霊が貴族の滅亡を！マギ族の滅亡を叫んでいる為よ！（嘘だけどな）俺は始祖じゃない神様じゃないし、慈善事業家でもない。神様とは正反対だ・・・」

正しいと信じるもののために、手に入る武器は何でも使って戦う。自分自身が処刑になるよりも、貴族を打ち負かそうと思うのだ。」

「貴様らは、貴族・平民の垣根がないこの日本のような社会で生活することになる。施設退去した後は、トリステイン王家滅亡まで我が国政府が用意した衣食住を用意してある。そこで生の地球人の生活を味わうんだな」

ロマリア陥落後、一ヶ月経ち残すはトリステインのみ。

ガリア諸侯は、日本軍から渡された旧式の武器やアメリカからの大量の中古武器で装備した王家直轄軍と両用艦隊によって反乱容疑で殲滅された。

また、日本とガリアにて安全保障条約を締結。ガリアに日本軍の駐留基地を認めることとなった。

これらによってガリアは、封建制度を撤廃、貴族制度、奴隷制度を撤廃し新憲法を制定しガリア共和国に変名した。バックには強力な日本軍が控えていたので数多くの貴族は、特権や財産を失いトリステインへ逃げ込んだ。また、ガリア国内に存在する傭兵は、ゲルマニア共和国のように盗賊化を防ぐために国軍に編入するか警備会社

を立ち上げたりしていた。

ジョゼフは、民衆の選挙で5年任期の大統領に就任した。

ゲルマニア共和国と日本国は、最後の仕上げにトリステインをゲルマニアの統治下にすることに決定した。

その為に何としてもトリステイン側から仕掛けさせなくてはいいない！

ゲルマニア・トリステイン国境では、お互いの軍がにらみ合っている。ゲルマニアに駐留日本軍基地の一室でトウマ、サイト、元『平民』のメンバーらが集まっていた。

「ではトリステイン貴族の中にも我々に寝返る者がいると！」

「そうだ！ガリアから流れて来た貴族からも情報をリークしている者がいる」

「じゃあ！！奴らから仕掛けさせて戦争に突入か！トリステイン貴族は、頭が悪いって言うしな。簡単に策略に引っ掛かる。おまけに諜報機関なんか設置していない」

「原作の”零の使い魔”じゃ獅子に目覚めたアホ女王が零機関っていう諜報機関を立ち上げたのだが、今回はアホのままだし、トリステインには未だに国の根幹となる諜報機関がない」

「ルースならぬルイズがないし！誰もかれも信用できないんじゃない仕方がねえな」

「我々の転生者のなかには、スーパーサイヤ人の肉体と能力の持ち主がいるが『カメハメ波』は絶対に使用禁止にしよう。あれ使えば惑星テラに悪影響を与えかねない」

「そうだな！でも貴族サイドにも転生者がいるようだが、魔法無効化能力やAMF発生装置で能力を発揮できずに死滅しているぜ」

「奴らにもか！！でも俺達が上手の様だな！」

3ヶ月後にトリステイン・ゲルマニア国境でゲルマニアの国境警備隊が謎のトリステインサイドの魔法攻撃をうけるのであった。後の歴史では惑星テラ日本軍の謀略として語られるのであった。

これによりゲルマニア共和国首相が、ラジオやテレビにてトリステインに対する事実上の宣戦布告。

マザリーニは、脳卒中で倒れてしまった。

もはやトリステインは風前の灯であった。トリステイン軍もこの動きを察知し、アンリエッタ女王を総司令官、元帥をグラモン家当主として戦力の集中を急いでいたが、いかんせんその動きは衛星軌道上の眼から察知されていたのだった。

ゲルマニア・日本軍は、待っていたかとはかりに軍を展開していた。

トリステイン戦争!!!! アンチ貴族の転生者・転移者大暴れ!!!!

ゲルマニア・トリステイン国境 街道

トリステイン軍とゲルマニア軍・日本軍は、にらみ合っている。トリステイン軍の動きは、衛星や偵察機等でバレバレである。

トリステインは、中世軍。ゲルマニア・日本軍は、PT・MS装備の近代軍。その離れたところに国境警備隊がパトロールしていた。

「隊長！向こうにダサイ軍装の部隊を発見しました」

「トリステインのクソ貴族野郎ども！俺の兄貴をよくもやりやがって」

「隊長、あいつらに因縁あるんですか？」

「俺が小さい時トリステインにいた頃、クソ貴族に兄貴が殺されたんだ」

「奴ら滅ぼすべきですね」

「そうだな！」

しばらく巡回していくと・・・！？矢が飛んできた。

「敵襲！！！！ AMF発生装置作動。本部へ連絡」

「応戦しろ！」

ダダダダダダダダダダ！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！

ドッカーン!!!!!!!!!!!!!!

ダダダダダダダダダダダダ！！！！！！！！！！

国境で起きた襲撃事件が発端となり国境でにらみ合っていた両軍が戦闘開始！10分でトリステイン軍2000名は、高出力大火器攻撃の前に全滅した。

この事件で日本・ゲルマニアは、48時間以内になんらかの返答がない場合には、惑星テラ日本軍・ゲルマニア軍・ガリア軍の三国同盟がトリステインへ武力制裁を加えると発表。

もはやトリストテインの国は風前の灯であった。トリストテイン軍もこの動きを察知し、グラモン侯爵を元帥として戦力の集中を急いでいたが、いかんせんその動きは軌道上の眼から察知されていたのだった。

開戦初頭、日本・ゲルマニア軍はトリステインの城や砦など敵中枢施設を戦闘機、ハーブーン、等で精密爆撃。

この爆撃でトリステイン各都市の中心部に位置する領主の居城・館、そしてラ・ロシェールに係留されていたトリステイン艦隊はあつけ

なく撃破された。

これらの爆撃にて制空権が確保されるのを確認すると、ゲルマニア国境から日本・ゲルマニア軍10万が侵入した。地球世界の日米合同訓練。米韓合同訓練等と同じように幾度も両軍は合同訓練を重ねて来た。

トリステイン軍は、グラモン元帥が指揮し国内にいる傭兵等かき集めて2万の軍がその迎撃に向かっている。ゲルマニアでは、傭兵は認めていない。ゲルマニア革命後、ゲルマニア共和国軍に編入されるか警備会社を立ち上げるかであった。それ以外は、トリステインへ向かった。また、盗賊に身を落とす輩は即、軍が出動して処刑されていた。

ゲルマニアの盗賊等は、民衆に携帯電話が広がり当局に通報したり情報提供などによって全滅した。

日本・ゲルマニア軍 VS トリステイン軍 がケルン近くの平野で激突した。

トリステイン軍が中世の装備軍に対して、日本・ゲルマニア軍は、PT・MS部隊を装備してある近代軍である。日本軍の中には、第二次朝鮮戦争・ロマリア占領で活躍したレンジャー部隊がいる。彼らの大半は、スーパーサイヤ人3孫悟空の肉体とパワーを持っている転生者がいるし、ゲルマニア軍のMS・PTの操縦者中にも『平民』の組織の転移者・転生者がいる。

トウマは大雷凰、サイトはダイゼンガーを操縦している。

日本・ゲルマニア軍は、これに加え、1隻あたり平均で50トンもの爆弾を満載した戦艦の戦略爆撃隊や、重厚な威力を誇る天空の刺客、攻撃機やガンシップまでもが投入される。

日ゲ合同軍は、ここでトリステイン軍を包囲殲滅する作戦である。

「特科部隊、観測射を発射。弾着まであと3・・・2・・・1・・・今！」

次の瞬間、朝の平原に閃光と共に巨大な土の柱が立った。

「初弾命中。効力射に移ります」

「第2戦車団、第4MS部隊、第8PT部隊、左右に分かれて前進開始。距離を保ちつつ打撃を与える模様」

「敵に接見次第、各部隊AMF発生装置作動」

「ここで殲滅しろ！俺たち転生者ならこう言うさ！地球舐めんなファンタジー！！！」

ートリステイン本土防衛軍

閃光が走ったと思えば、一瞬にして平原は炎に包まれた。

「痛い・・・痛い・・・」

「ぎゃあああああ！！！！！」

「助けてくれ〜！」

間断なく連続する爆発音。

衝撃波で肉が引きちぎられる光景。

「はは、あはっははは！」

笑いながら自分の裂けた腹から飛び出た腸を拾い集める兵士。

「誰か！水のメイジを！連隊長殿が！」

「助けてくれ！まだ死にたくない！」

「おのれおのれおのれ！平民のくせに！貴族に、メイジに逆らおう
とはいいい度胸だ！我が魔法は平民！？ぎゃああああ！！！！！」

「神よ！あなたは支配者たるべきメイジに魔法をもって民を支配せよと命じたのではなかったのですか！？」

辺りには、仲間の死体や重傷者で一杯であり、杖を振るって治療しようにも日本・ゲルマニア軍のAMF発生装置の無効化範囲内なので魔法が発動しない。

日本・ゲルマニア軍が見出した、とりあえずの「魔法」「中世軍」への対処。

それは、「対処しきれない量の弾薬とエネルギー弾の投射」による飽和攻撃だったのだ。

戦場は屠殺場なみの殺戮の現場と化した。

そしてその光景は、余すところなく無人機によって撮影されていた。

「プラズマスパイラル・ダイブ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

「ゼネラル・ブラスター!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

「いけ!!!フィンファンネル!!!!!!!!!!」

「ファイナルブラスター!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

「クロスマッシャー!!!!!!!!!!!!!!」

「龍拳!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

「連続エネルギー弾!!!!!!」

「レンジャーアタック!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

「レンジャー!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

この戦場においてPT・MSのスーパーロボット群や習志野レンジャー部隊のスーパー化の戦闘がよく目立っている。

戦後、ハルケギニア連邦建国!!!

トリスティン王国滅亡後、ガリア王国のジョゼフはすぐさま行動を起こした。ジョゼフ派の軍人等の両用艦隊とガリア駐留している日本軍がシャルル派の貴族たちの城や拠点を攻撃。大多数の貴族たちは日本の再教育捕虜収容施設へと送られることとなった。

トリスティンの属国のクルデンホルフ大公国は、ゲルマニアの傘下になった。トウマの戦略では、10年後そこに逃れていた貴族共が反乱をおこし日本でかつてあった「不平士族の乱」の鎮圧の如く不平貴族を国ごと抹殺する予定である。

ジョゼフは、日本のバックの元、王制を廃止し大統領制へと移行。国名をガリア共和国へと変えた。ガリアでも貴族身分制度等の身分制度は廃止。明治維新を参考とした機関車方式の改革を断行した。反発する貴族は、日本軍・ガリア共和国軍によって滅ぼされた。

第一回大統領選挙でジョゼフが大統領として当選された。

10年後にクルデンホルフ大公国が元トリスティン・ガリア・ゲルマニア・ロマリア神官貴族等を糾合して貴族復権の為に反乱をおこしたが、クルデンホルフサイドはAMF発生装置の存在を知らなく、無謀にもゲルマニア・ガリア・日本軍へと挑んだが近代総合火力戦で元貴族達は皆殺しにされた。

最後の貴族サイドの武器は、主に杖と剣のみである。傭兵は、存在しない。AMF発生装置の存在を知らなかった。

クルデンホルフ大公国のベアトリス女王をはじめとする貴族達は、

拘束され再教育施設で数年過ごし釈放後に日本で過ごすこととなった。

この乱のあと5年後、ゲルマニアとガリアは日本国の後押しでハルケギニア連邦を建国し大統領選挙が行われて江田島平八の転生者であるハチー・セレヴァレ史上最年少で初代大統領となるのであった。ちなみに任期は、5年。後にハルケギニアで「男塾」を創設するのであった。

現在、惑星テラでは日本が超大国であり、二つの月に進出して都市まで造っている。

また、ハルケギニアなどの惑星テラにおける知性が全くない亜人、オーク鬼・トロル鬼、ゴブリンなどの危険生物は、地球から持ち込んだ兵器によって絶滅してしまった。6000年にもわたって人間を苦しめていたオーク鬼は、ツチノコ・ニホンオオカミの如き存在になってしまった。

これは、地球から持ち込んだ銃兵器や近代兵器・戦術のほかにも封建領邦制を廃止し近代統治制度のお陰だろう。

また、傭兵は国軍へ編入するか警備会社、民間軍事会社を立ち上げた。それ以外は、盗賊に身を落としたが近代兵器の軍隊の前にハルケギニアから盗賊が消滅してしまった。

翼人、吸血鬼など理性・知性がある亜人種族は、人間社会へと溶け込んだり又、自治都市を形成したりして人間と共生していた。特に吸血鬼の血液食糧は、地球での血液バンクの破棄血液と肉牛などの屠殺時の血液を混ぜて売買していた。

いままでは、ロマリアのブリミル教組織のせいで亜人は排除の対象となったが、日本が叩きつぶしたお陰で宗教組織は解体され、聖堂騎士団もテロ指定組織に認定されて賞金グビにかけられたり、日本・ハルケギニア連邦の諜報組織と軍隊の連携で消滅していった。

ブリミル復活!!! ケジメつけろや!!!!!!

あのハルケギニア連邦建国から3年、日本では首相公選選挙で平賀
闘馬が首相に初就任した。またサイトは、惑星テラ方面軍総司令
官を経て、日本国防軍統合幕僚長を勤めている。両者共、家族を持
って息子、娘が独立して様々な道を歩んでいた。
どうやらヴァリヤークは、両者等の転生者の子や孫の子孫にチート
を与えないようにしていたのだった。

→アトランティス大陸 日本国防軍駐屯地

トウマとサイト、その周りにはSP・自衛官達がいる一室。机の上
には、ロマリヤから発掘した聖遺物、固定化されたブリミルの死体
がある。胸に大きな切り傷がある。
傍らには、デルフリンガー。

「おい、デルフ。いや、ブリミル・ル・ルミル・ニダベリー又かな
!」

なんと!デルフリンガーは、ブリミルの記憶を失った魂であった。
事の経緯は、デルフリンガーの魔法吸収能力を研究しようとしたあ
るマッド科学者が、高電圧をかけて製造時からの記憶を復元しよう
としたところデルフリンガーの魂そのものが、ブリミルだといふこ
とが判明した。

「デルフでいいぜ!はやくとこやってくれ!」

フェニックス召喚！！！！

「フェニックス!!! この死体を蘇らせてくれ!」

クウ・・・・・・・・！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！

フェニックスの炎は、ブリミルの死体を覆った。みるみるうちに傷口が癒える。どんどん血色がよくなっていく死体。

ドクンという鼓動が胸から発せられる。

デルフリンガーが光り、その粒子が蘇生した体へと吸い込まれていく。

クウ・・・・・！！！！

「ありがとう！フェニックス！！」

•
•
•
ク
工
工
工
工

フェニックスは還つた。

トウマとサイトは、剣のデルフへと呼びかけた。

「デルフ!!!」

[illegible]

「デルフリンガー！！！返事せいや！サビデル！！！」

すると

「だれがサビデルだ！！！」

「へ？」

蘇生したブリミルが起き上がり怒鳴っていた。

「オレっちが、ブリミル・ル・ルミル・ニダベリーヌでもありデルフリンガーだ！」

するとSPや自衛官らが銃を構えた。

「銃を下せ！！！」

SP達を退席させ別室でトウマ、サイト、ブリミルが会談をした。

「じゃあ！ブリミルか！」

「そうだ！相棒！」

「デルフの魂とブリミルの魂が融合したままなのか？」

「それは、違うぜ。エルフ族が造ったデルフリンガーは、元々魔法を吸収するだけの剣だったが、オレっちがサーシャに刺されて魂が剣に吸収されブリミルとしての記憶を失ってしゃべる魔剣として存在したわけだ」

「じゃあデルフは、ブリミルってわけだな。なぜアトランティス大陸を封印しようとしたんだ？」

「そりゃあよ！ヴァリヤーク族の族長と取引したんだ。虚無の大転移で大陸を地球世界へ転移したらこの世界は、マギ族とエルフ族の物であるってな。そりゃ俺らマギ族にとっちゃ悪い話じゃないが、儀式の途中でサーシャが後ろから刺してオレっちが死んだときに大陸が中途半端で時の狭間へ止まったわけだ。」

「なるほど、密約か！その儀式にサーシャが刺したのは誤算だったな。儀式は、約5〜6時間のはず！ヴァリヤーク族が軍隊を出動して妨害しなかったのはこう言った裏があたのか！普通は察知して妨害するために軍隊出動するぜ」

「真相は、わかった。しかしだなそのあとのブリミル教体制は、ひどいぜ！」

「何言ってるんだ！オレっちの弟子だと標榜している村一番の詐欺師のフォルサテの仕業だ！俺は只の魔法研究者だ！勝手に神に祭り上げられていて迷惑だぜ」

「なるほど！よくあるじゃん。あるチンピラがある有名人の親戚だとか友達だとか嘘ついて詐欺っている話」

「そんな奴、ボコりたいぜ！」

「同感！」

「オレっちは、虚無魔法を研究・発明したがブリミル教なんか造ってもないし、さらに別の村の知らない奴まで”お前だれよ！”って

俺の弟子に仕立て上げられてやる」

「ブリミル！ いやデルフ！！！！ なんとかしろよ！！！！」

「わかった。じゃこの世界の系統魔法消すぜ！」

「おいおい！ ちょっとまって！ いきなりかよ！ まだ消すなよ。地球世界や惑星テラの経済が混乱するから数ヵ月後にしろ」

「もう系統魔法よりあらゆる万民に使える”科学” っていうものもあるしな！ それに人間と亜人が仲良くやているから！ できれば魔法消したら地球で科学を学び研究したいんだけど！ 頼む相棒達！」

精霊魔法は、ヴァリヤーク族の平民でも”瞑想”などの禅寺や密教修行の様な精神修行などをすると会得できることが判明された。ハルケギニアじゃ「瞑想」「参禅」がないから・・・！

また、外気、内気の気功術や地球で言う東洋の呪術も修行次第で会得できる。もうロマリアの異端審問などの組織がないからハルケギニアの平民ではこぞって修練していた。

系統魔法が使えない人間は、主に精霊魔法を使っている。

大和帝国や扶桑帝国は、一般の民衆は道場等で陰陽道や仙術等を修練しているし学校教育の一環に取り入れていた。全ハルケギニアの学校では、マギ族の血を受け継ぐものは系統魔法。それ以外の者は精霊魔法を習得している。

「じゃあルーン力いらないから俺たちのルーンを消してくれ！ それからだ！ 魔法消滅は数ヵ月後だ！」

「わかった。じゃ始めるか！」

「ちょっとまってくれトウマ兄！いや総理！その前にフォルサテの死体を手に入れて蘇生させケジメつけさせようぜ！」

ブリミル復活してから数日後にフォルサテの死体がハルケギニア連邦の駐留日本軍基地に持ち込まれた。

トウマ、サイト、ブリミル、その他のSP・兵士に加え、ハルケギニア連邦大統領ハチー・セレヴァレもいた。

FFのフェニックスを使つての蘇生は終了したが、肝心の魂がなく覚醒していない。

ブリミルは、虚無の魔法で魂を召喚させようとしている。

「虚無の上級の上級の上、復活」

日本 繁華街

二人のチンピラが街中を歩いていた。

ふともう一人が気を失って倒れた。

「アニキ！！！！！！！！！！アニキ！！！！！！！！！！しっかりしてくれ！！！！」

フォルサテと呼ばれていた人間が起き上がり日本語で

「ここは、どこじゃあ!!!! オドレら!!!!!!」

「なんじゃお前らは……!!」

すると見守っていたハチーは

「ワシがハルケギニア大統領ハチー・セレヴァレである!!!!!!」
「!!!!!!」

「俺は、日本国首相 平賀闘馬だ」

「俺は、日本国防軍統合幕僚長 平賀才人」

「お偉いさんがワシになんかよいじゃかいの〜!ここはどこじゃ
!サブはどこじゃ!」

「虚無の上級の上級の上、記憶召喚」

「ぐああああ!!!!!! なんじゃ!!!!!! オドレ!!!!!!」

チンピラの記憶と人格がフォルサテの記憶と人格に侵食されて消滅
するかに見えたがチンピラの気合いがまさっているらしく記憶が共
存していた。

「ワシの前世は、ロマリアを造ったフォルサテっていうもんじゃ!
オドレら!!! あ!ブリミル、生きとったんか!サーシャに刺されて
死んだのにどうなっとなんじゃ!」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ！！ by トウマ
ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ！！ by サイト

トウマは、S P・兵士達を退席させた。

「おい！ゴラァ！フォルサテの記憶の中で洗いざらいしゃべっても
らうぜ！！ドラァ！！」

「フォルサテ！！オレっちのいない時にまた詐欺で悪いことしただ
ろう」

「てめえ！！観念しろよ！！ゲロツテもらうぜ！！！！」

「ワシがハルケギニア連邦大統領ハチー・セレヴァレである！！
」

「とほほ・・・」

完 系統魔法消滅！！！ブリミル、地球へ永住！！他は？

ブリミル・フォルサテを復活させ6000年前の真相をサイト・トウマ・ハチーは様々な情報を知った。

ヴァリヤーク族は、元は地球の住人。一万2000年前に地球で隕石の衝突で逃れて来た民族。高度な科学技術でエルフ等の亜人や幻獣を造り、マギ族を遺伝子操作で造った。それが、時を経てマギ族は勢力を拡大し精霊力素を乱用していたり！エルフ族、ヴァリヤーク族と対立していたりもしていた。

あるときマギ族にブリミルが誕生した。そしてブリミルは系統魔法やコモン・マジックを確立させリーダー的存在になった。ヴァリヤーク族の族長、王は、母なる地球世界へ帰還するためにブリミルにアトランティス大陸ごと大陸転移を秘密裏に依頼。

ブリミルが転移儀式の途中にサーシャがブリミルを刺した。これは、ブリミルのリーダーの座を奪おうとエルフ族の長老等を通じてサーシャにブリミルを暗殺させようとしたフォルサテの策略であった。そしてマギ族の詐欺師達によるブリミルの名を利用しようとしたハルケギニアの悪の支配が6000年はじまるのであった。

ハルケギニアで開拓をしている非武装のヴァリヤーク族を支配し身分制度を確立した。

でも儀式の中断でアトランティス大陸が時の狭間に閉じ込められ、マギ族の預言ではハルケギニア自体の風石の暴走が6000年後に起こることとされ聖地の奪還によるアトランティス大陸の召喚が子孫孫使命つけられた。

これらのことは、フォルサテへの尋問は、国家情報局のエージェン
ト幹部のギアス能力の持ち主である転生者の尋問で明らかになった。
これらに立ち合い真相を知ったハチーにとってはご先祖様であり無
体に扱うことはできないが、すべてのことはトウマら日本の処断に
任した。

地球 日本国首相官邸 記者会見室

惑星地球と惑星テラの報道陣^{プレス}が集結していた。

首相であるトウマは、スタッフのピエールの「台本を準備する」と
いう申し出を拒否。

「政治家 平賀鬨馬のすべてを 私自らが日本国国民、全地球、
全テラ中の前にさらし その真価を問う!!!」と。

スタッフのピエールことルイズの父親、元トリスティン・ヴァリエ
ール公爵 である。一家の3姉妹は勾留中に高校検定を受け、釈放
後にはエレオノールが量子物理学、カトレアは獣医学、ルイズは政
治経済学の大学へと進学した。

各人それぞれ卒業しエレオノールは、筑波研の科学者の同僚と結婚。
カトレアは、ハルケギニアへ帰り自領でペットの病院を開いて元使
用人と結婚。なんでも一家失踪時においてけぼりされた動物達を全
部引き取り保護したきっかけだと。

ルイズは、地球日本の大学在学中に中東へ卒業旅行し偶然、ワールドを見つけて保護した。そのあと色々とワールドの面倒を見るうちに結婚した。中東でワールドは、乞食をして生活していたのこと。そしてワールドは、日本にて経営学の大学を卒業後、現在、ワールドは自分の領地で風石造りの会社を経営している。ルイズは、ワールドの妻になった。

元公爵と夫人はヴァリエールの領地に帰ったけどすべての財産・地位・領地などが無くなっていて路頭に迷おうとしていた時にピエールはトウマに引き抜かれ、以後、地球日本の平賀スタッフの参謀として活躍していた。カリヌこと夫人は、夫ピエールに日本へついていている。

元公爵のピエールは、破産寸前の領地を領民に負担かけることなく立て直してきた実績があり、それがトウマの目に止まっていたのである。

ピエールとカリヌは、高齢にも関わらず宇宙医学のアンチエイジングで20〜30歳の若さを取り戻していた。

トウマの会見が決まった。中継カメラは一台。

世界中のジャーナリストは、もちろん、怒る。都合が悪ければカットする、と思ったからだ。

トウマは、「俺は、見るもの一人一人に話し掛けたいと思っているので、余計な映像や言葉は不要」と切って捨てる。

ゲストで登場したのは、ブリミル、フォルサテ、無期懲役中の手錠をつながれているロマリアの教皇ら側近と神官。

まず、大画面テレビでブリミルとフォルサテの復活場面。ロマリア

サイドは、感歎の声を上げていた。

そして、映像が終わり、ブリミル自身が単なる魔法研究者であり、様々なマギ族用の魔法を開発していったこと。フォルサテがブリミルの名を悪用して6000年にも渡る支配体制の確立。

フォルサテら一味が、ブリミルの暗殺を画策していたことなどを話した。

トウマは、日本再生、日本最強の為に今の女房のティファに召喚されゲルマニアのノルデンを橋頭保・拠点とし惑星テラの3大陸と時の狭間にあったアトランティス大陸の領有化を画策したと・・・。

また、ハルケギニアの身分制度を倒す為に平民サイドへ武器・技術を提供したことなど。

ロマリアの元教皇が言った。（ヴィットーリオじゃない原作の前の教皇）

「お前たち！　なぜこんなことをした！　お前たちの目的は何だ？　！」

「俺たちの目的？　簡単だ。今後のハルケギニアでは、魔法で平民たちを支配するなど、できないようにすること。結果的に、ハルケギニアの貴族を、すべて滅ぼすこと。そうすることによって、ハルケギニアの平民たちを救うことさ」

「き、貴族を滅ぼすだと！　貴族をすべて、皆殺しにするだと！」

「勘違いするな。貴族を滅ぼすとは、皆殺しにするという意味じゃない。すべての貴族から、すべての特権と領地と財産を取り上げる

こと。魔法を使える以外は、何一つ平民と変わらぬ存在にしようこと。最終的には、貴族と平民の区別を無くしてしまうことだ。もっとも、すべての『元貴族』と、『元ブリミル教の聖職者』は、『元平民』たちから、今後数十年にわたって、見下されることになるだろうが」

「……」

「今のハルケギニアの庶民は、『貴族と平民は、実はもともと、マギ族とヴァリヤーク族という、別の種族なのだ』という事実を知っている」

「それに我々が望んでいるのは、ハルケギニアの平民たちを救うことであり、貴族と平民の、区別を無くすことなんだ。このままいけば、五十年か百年で、貴族と平民の区別も、マギ族とヴァリヤーク族の区別も無くなるだろう。それが我々の望みさ。」

「それに我が国日本でも『同和問題』ってのがあってな！日本古来の正しい歴史認識を知らなかったばかりに人が人を差別していくようになったんだ。なぜ差別・偏見があるのかは、正しい真実知り歴史認識ができないからだ」

「我々を釈放しろ」

「残念ながら、あんたたちをハルケギニアに戻すわけにはいかない。我々は、ブリミル教団から、すべての権力と政治力を取り上げ、財力も全部すべてを取り上げるつもりだからな」

「何だと！」

「これからのハルケギニアでは、聖職者は貧しいのが当たり前になる。政治には口を出さないのが、当たり前になる。宗教が政治に口を出すことなど、今後は永遠に、許されなくなるのさ。我が国の禅寺、禅僧の如く」

「なぜそんなことをする！」

「この地球世界における歴史の教訓に、こういうのが有るんだよ。『軍隊と宗教が政治に口を出すと、ろくなことになる』ってな。これはすなわち、『軍人や宗教家の価値観を、政治に持ち込むと、ろくなことになる』ってことなんだ。トリステインのマザリーニ枢機卿のように、『政治家としての判断を、自分の価値観・宗教観より優先させることができる』人物ならいいが、実際問題として、そういう人物は絶対少数派だからな」

他の官邸スタッフが”零の使い魔”のラノベの本を全巻持ってきた。

「俺は、アンチ貴族代表なんぞでな！この本はこの世界とは違う並列世界の出来事の台本だ。俺とここにいる国防軍統幕議長の平賀才人は、ならびにサイトの妻である曾祖父は、転生者でありハルケギニア大統領の父親であるヴィットーリオ・セレヴァレ氏のロマリア神官サイド入りの阻止から始まったゼロ魔台本原作ブレイクから始まった『平民解放』のために動いていたんだ」

「それにな！おまえたち坊主どもの税率は9割じゃないか！バカじゃねえのか！政治学のイロハも何もしらない土人のまじない師が政治に口出すんじゃないぞ。詐欺師共の末裔どもが！」

「ク………！」

ちなみにマザリーニ枢機卿は、聖職者としてではなくハルケギニア連邦政府の宗教管理庁長官として活躍中。ハルケギニアのブリミル教は、冠婚葬祭用になっていた。

ハルケギニアは異端審問が永久に廃止され、亜人や他の宗教や信仰も認め合った。無論、聖堂騎士団を全員テロ容疑で射殺。過去に聖堂騎士をやっていた者も逮捕即射殺である。戦国時代の織田信長・豊臣秀吉の政策の武僧兵の廃止の如く、弾圧処刑していった。

締めくくりにブリミルが自分が造った系統魔法を消滅させると宣言。

ハルケギニアでは、地球世界で禅や修験道など精神修行をした人間が精霊魔法を使えたりしている。これによって『瞑想』『参禅』『立禅』『気功』『呼吸法』等の東洋的鍛錬を熟練している遺伝子上ヴァリヤーク族平民が精霊魔法を使ったところ簡単に魔法や東洋呪術が発現したことが証明され、血の敷居が高い系統魔法よりも簡単でよりの平民でも会得できる精霊魔法が主流となっていた。

惑星テラの義務教育では、「瞑想」を取り入れている。おまけに精霊魔法のほうが系統魔法より優れている。

そして数ヵ月後にブリミルは、ハルケギニアの系統魔法を消滅させた。

ブリミル自身は日本の研究施設で研究三昧の生活を送り、フォルサテラロマリアサイドの神官は、無期懲役中である。

トリスティンの王族、マリアンヌとアンリエッタは戦後、日本で再教育施設にいられそこでアルビオン王族のウェールズと再会。釈放後、ウェールズとアンリエッタは、結婚。ウェールズは、現在移民局に勤務。

ギーシュも拘留中にモンモラシーと合流し、釈放後に結婚。ウェー
ルズと同じく移民局に勤務。

コルベールとマチルダは、日本在学中に恋仲となり結婚。そのあと
ゲルマニアで会社を興しそれが後のコルベール財閥となる。

オスマンは、トリスティン戦争犯罪裁判で貴族子弟の教育不足とし
て地球にて罪状調査の為拘留。拘留中に地球の空気が合わないせ
いか死亡。当局が遺伝子検査で寿命を調べてみれば300歳は、越え
ていた。

魔法学院は、廃止されていた。

マルトーは、日本で料理修行を得てハルケギニアでレストランのチ
ェーン店のオーナーになる。後にハルケギニアの料理の神様として
の称号を後世に持つ。孫のレーツェルは、軍に就職し少将まで上り
詰める。退役後は、小さな店で細々とレストランを営む。このレス
トランが幻のレストランと言われる。

他の魔法学院の男子生徒は、すべてトリスティン戦争で戦死。女生
徒は、地球で再教育施設で3年、地球の生活を2年過ごした後、ハ
ルケギニアへ釈放される。

ガリアのジョゼフは、王政を廃止し大統領になり任期を終えてゲル
マニアへ一般庶民として永住。後にハルケギニアの統一に力を貸す。
ヒモになっている。

シェフィールドとは、結婚した。第2子を設けている。マジックア
イテムの会社を興している。

イザベラは、取材中に知り合ったサイトの義弟のジュリアンと恋仲

となり結婚。

ゲルマニア革命・ロマリア、トリステイン陥落・ガリア内乱時の皇帝、貴族は、再教育施設で3年拘留。釈放後、日本で永住。また、その中の貴族は元首相の桜木の非凡の才を見抜く能力で目に止まったらどしどしハルケギニア連邦政府に政府要人へと推薦している。

トウマが蘇らせたモード公一家、ティファの両親達は日本へ永住。チャールズは、トウマのスタッフとして働いている。マチルダの両親は、コルベールが造った工場に勤務している。コルベールの二男がサウスゴータ家を継ぐのであった。

また、同じように蘇らせたシャルルは、トウマのスタッフに登用された。ジョゼットは、大学へ進学しそのあとハルケギニア連邦政府の大統領府へ勤務。

ヴィットーリオは、日本で農業学と経営学を学び、ハルケギニアでの飲料水・酒造メーカーの会社を立ち上げた。アニエスは、夫であるヴィットーリオを支えている。

息子のハチーは、転生者 江田島平八であり、ハルケギニア連邦初代大統領を歴任。そのあと男塾を設立。

サイトは、シエスタを娶る。3人の子供を授かった。シエスタの弟ジュリアンは、ハルケギニア第一の新聞社の社主となる。

トウマは、キュルケ、シャルロット（タバサ）、ティファ、ルース（クローン・ルイズ）を娶り、各人子供は4人。大家族である。首相を4期歴任した後（史上最長の歴任）、他星系の勢力と交易・友好条約を結ぶきっかけを作る。

ちなみにトウマ、サイト、アニエス、シェフィールドの4人ともルーンをブリミルに消滅してもらった。

地球世界では、政府が統一され他星系の文明と交流し宇宙でも注目される勢力の一つになり、惑星テラでは、惑星テラ版国際連合を設立し惑星テラでの超大国としてその星系を支配するのであった。

完 系統魔法消滅!...!プリミル、地球へ永住!...!他は? (後書き)

完結

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3405t/>

侵略の使い魔 ～ゼロのコマンダー・イン・チーフ～

2011年6月6日12時11分発行